岐阜県ヤングケアラー実態調査
報告書

令和５年３月
岐阜県

目　次

第１章　調査の背景・目的 1
１．ヤングケアラーについて 1
（１）ヤングケアラーとは..... 1
（２）ヤングケアラーへの支援がなぜ必要か..... 1
２．国における実態調査と検討経緯 2
（１）厚生労働省全国調査の概要..... 2
（２）ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム.. 2
３．本県におけるヤングケアラー実態調査の目的と調査概要 2
（１）本県のヤングケアラー実態調査の目的..... 2
（２）調査のフレーム..... 3
（３）小中高生に対するアンケート調査について..... 4
第２章　小中高生の生活実態に関する調査 5
１．小中高生調査の実施概要 5
（１）調査対象 5
（２）調査期間 5
（３）調査方法 5
（４）回収状況 5
２．生活実態に関するアンケート調査結果 6
（１）子どもの属性..... 6
（２）ふだんの生活について..... 8
（３）家庭や家族のこと..... 12
（４）ヤングケアラーについて..... 24
３．テーマ別の分析 26
（１）家族の世話の有無による学校生活等の状況..... 26
（２）性別による世話の状況の違い..... 31
（３）家族構成による世話の状況の違い..... 39
（４）平日１日あたりの世話に費やす時間による生活状況等..... 49
（５）世話を必要としている家族による世話の状況等..... 57
（６）世話をすることに感じているきつさによる世話の状況の違い..... 63

（７）ヤングケアラーの自己認識による生活状況、世話の状況の違い..... 77
（８）世話に関しての相談の状況..... 86
４．自由意見について 88
第３章　学校におけるヤングケアラーへの対応に関する調査 91
１．学校調査の実施概要 91
（１）調査対象 91
（２）実施時期、調査方法、回収状況..... 91
（３）調査方法 91
（４）回答状況 91
２．学校におけるヤングケアラーへの対応に関する調査結果 92
（１）学校の概要..... 92
（２）支援が必要だと思われる子どもへの対応..... 93
（３）ヤングケアラーについて..... 102
（４）個別の事例..... 113
第４章　インタビュー調査 121
１．インタビュー調査の実施概要 121
（１）調査対象・実施時期..... 121
（２）調査方法 121
２．元ヤングケアラーインタビュー調査結果 122
３．自治体・関係機関・学校インタビュー調査結果 131
（１）岐阜県居宅介護支援事業協議会..... 131
（２）岐阜県地域包括・在宅介護支援センター協議会..... 132
（３）（公社）認知症の人と家族の会　岐阜県支部..... 134
（４）岐阜市基幹相談センターサテライトふなぶせ　（社会福祉法人 舟伏）..... 136
（５）岐阜県ソーシャルワーカー協会..... 137
（６）岐阜県難病団体連絡協議会..... 141
（７）岐阜県相談支援事業者連絡協議会..... 142
（８）岐阜県精神保健福祉会連合会..... 144
（９）NPO 法人可児市国際交流協会 145
（10）岐阜県国際交流センター..... 148
（11）岐阜市「エールぎふ」..... 151

（12）関市役所 福祉政策課 153
（13）山県市役所 子育て支援課　山県市教育委員会　学校教育課 155
（14）岐阜県立　Ａ特別支援学校 157
（15）岐阜県立　Ｂ特別支援学校 158
（16）岐阜県立　Ｃ特別支援学校 159
（17）岐阜県立　Ｄ特別支援学校 159
第５章　調査結果の考察 161
１．小・中・高校生の生活実態に関するアンケート調査より 161
（１）お世話をしている家族が「いる」子どもの割合とお世話による影響 161
（２）ヤングケアラーの自覚と認知度 162
（３）お世話の悩みについての相談状況 163
（４）ヤングケアラー支援において必要な視点 163
２．学校へのアンケート調査・インタビュー調査より 164
（１）心配な子どもの状況は共有されている 164
（２）学校ではヤングケアラーであることを把握することが困難な現状にある 164
（３）教職員及び子ども自身のヤングケアラーに関する理解の促進 164
３．元ヤングケアラー・関係機関へのインタビュー調査より 165
（１）ヤングケアラーへの支援における基本的な考え方 165
（２）子どもに対する支援として必要なこと 166
（３）ヤングケアラー支援において学校に期待される役割 166
（４）支援にあたる関係機関に求められる役割とそのために必要な取組み 166
４．まとめ 168
（１）子どもの孤立化防止 168
（２）子どもに寄り添った適時・適切な支援 168
資料編 169
１．ヤングケアラーに関する市町村の相談窓口とホームページ 169
２．アンケート調査票 172
（１）小学生アンケート 172
（２）中高生アンケート 175
（３）学校アンケート 179

第１章

調査の背景・目的

第１章　調査の背景・目的

１．ヤングケアラーについて

（１）ヤングケアラーとは

ヤングケアラーについて法令上の定義はないが、一般に、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている18歳未満の子ども」とされており、一般社団法人日本ケアラー連盟のヤングケアラープロジェクトでは、ヤングケアラーの具体例として以下のように紹介されている。

図表 1 ヤングケアラーのイメージ（例）

©一般社団法人日本ケアラー連盟「こんな人がヤングケアラーです」

（２）ヤングケアラーへの支援がなぜ必要か

ヤングケアラーが行うケアの内容は、食事の準備、掃除や洗濯、家族の通院の付き添いや見守りなど多岐に渡っている。これらをはじめとした様々なケアに追われることで、授業やクラブ活動に参加したり、勉強や友達と交わる時間が制限され、本来の子どもとしての教育・社会経験の機会を得ることができず、ケアを担う子どもたち自身の人生に大きな影響を及ぼす可能性がある。

また、ヤングケアラーが抱える困難は、ケア内容そのものの負担だけでなく、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負っている可能性もあるため、精神面を含めて子どもの将来に影響を及ぼす可能性が指摘されている。

さらに、本人や家族に自覚がない、不安や不満を抱えていても言い出すことができない子どももおり、家庭内の事情であるために外部のサポートに繋がり辛いことも、ヤングケアラーを取り巻く課題のひとつと考えられる。

このようにヤングケアラーの子どもたちは、本来守られるべき子どもの権利が侵害されている可能性があり、早期発見や切れ目のない支援につなげる取組が強く求められている。

２．国における実態調査と検討経緯

（１）厚生労働省全国調査の概要

国では、2021年以降にヤングケアラーの実態を把握するための全国調査を実施している。

その結果、小学生へのアンケート調査では小学６年生の6.5%、中高生へのアンケート調査では、中学２年生の5.7%、全日制高校２年生の4.1%が、「世話をしている家族がいる」と回答し、その実態が明らかになった。

そのうち、家族への世話を「ほぼ毎日」している中高生は５割弱、小学生では５割を超え、平日１日に平均３時間以上家族の世話をしている小中高生は約３割となった。

一方で、小学生の約３割が世話をする父母の状況について、「わからない」と回答し、子ども自身は状況がよく分からないまま家族の世話をしている可能性がある。

本人にヤングケアラーという自己認識のない子どもの存在や、子どもらしい生活が送れていないが誰にも相談できずにいる子どもがいることが推察される結果となった。

なお、当該調査で実施された学校へのアンケート調査では、中学校の46.6%、全日制高校の49.8%が、「ヤングケアラーに該当すると思われる子どもがいる」と回答している。

（２）ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム

2021年３月、厚生労働省及び文部科学省が連携し「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム」を立ち上げた。

ヤングケアラーの早期発見・支援につなげる取組が重要であることから、福祉、介護、医療、教育等といった様々な分野の関係機関が連携し、ヤングケアラーの支援につなげるための方策について、厚生労働省及び文部科学省が、検討を進めることを目的として設置され、2021年５月17日に検討結果がとりまとめられている。

報告では、ヤングケアラーを早期に発見して適切な支援につなげるために、早期発見・把握、支援策の推進、社会的認知度の向上に関して今後取り組むべき施策があげられている。

そのうち、早期発見・把握に関する取組の一つとして「地方自治体における現状把握の推進」が位置付けられ、それぞれの地域で適切な支援を行うとともに、ヤングケアラーに関する問題意識を喚起するためには各自治体において実態調査を行うことが有効であるとされている。

３．本県におけるヤングケアラー実態調査の目的と調査概要

（１）本県のヤングケアラー実態調査の目的

ヤングケアラーの支援においては、周囲の大人がヤングケアラーに対する意識を高め、必要な支援につながるきっかけを作れるような体制を整えていくことが今後の課題である。早く気づき、子どもに向き合い、その地域にある資源を活用した支援につなげていくことが重要であり、地域の学校をはじめとした関係機関・団体がヤングケアラーの認知度・理解度を高め、連携を図っていくことが求められる。プロジェクトチームにおいて「地方自治体における現状把握の推進」が示されているように、そのような環境・体制としていくためには、県内の子どもの状況や、学校をはじめとした関係機関・団体における取組の状況や、抱えている課題等を踏まえたうえで、施策を検討する必要があることから、県内全域を対象とした「岐阜県ヤングケアラー実態調査」を実施することとした。

なお、本報告書の作成にあたっては、岐阜聖徳学園大学教育学部　安田和夫教授、中島葉子准教授にご助言いただいた。

（２）調査のフレーム

① 小学生、中学生、高校生、定時制・通信制高校生を対象としたアンケート調査

子どもの生活実態等を把握するため、県内の国公立・私立学校に在籍する小学５年生、中学２年生、高校２年生（全日制、定時制、通信制）を対象としたアンケート調査を実施した。

オンライン回答の調査とし、学校の活動時間内に、配布されている端末を用いて回答（通信制課程の生徒は任意の時間帯に、個人のスマートフォン等を利用して回答）することとした。

② 国公立・私立学校、定時制・通信制高校、特別支援学校を対象としたアンケート調査

県内の国公立・私立学校 670校を対象にアンケート調査を実施した。

- ・小学校　363校　　・中学校　186校
- ・全日制高校　79校　　・定時制高校　11校
- ・通信制高校　８校　　・特別支援学校　23校

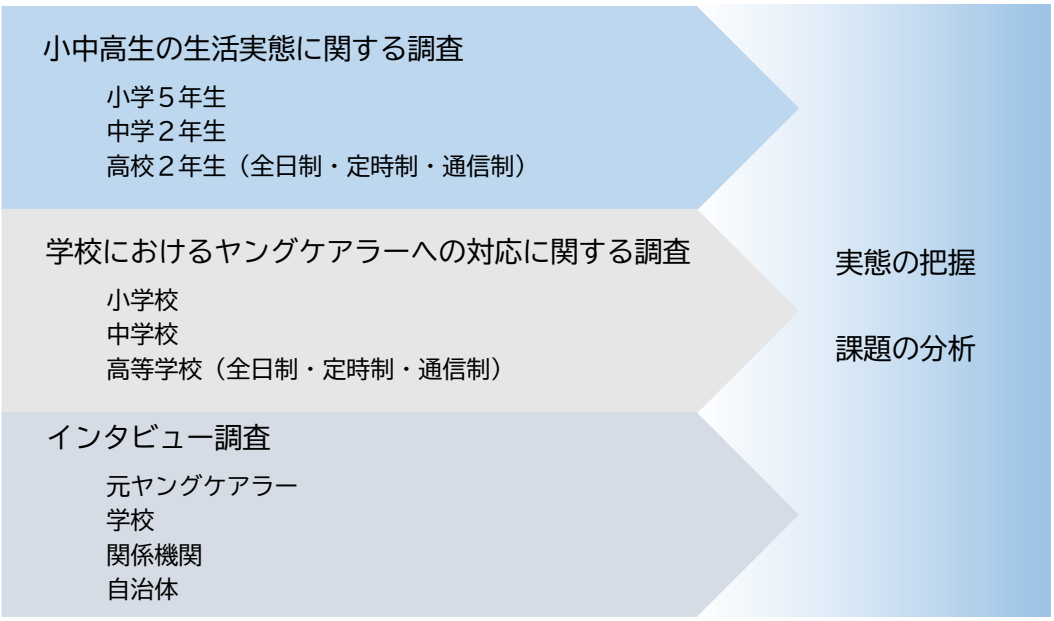
③ 元ヤングケアラーへのインタビュー調査

当事者の声・意見を踏まえた施策検討を行うため、ヤングケアラーとして家族のケアを担っていた３名の方へのインタビュー調査を実施した。

④ 学校・関係機関・自治体へのインタビュー調査

プロジェクトチームの報告書において、ヤングケアラーの早期発見・把握のために今後取り組むべき施策として「学校においてヤングケアラーを把握する取組み」「医療機関・福祉事業者の関わりがある場合に、ヤングケアラーを把握する取組み」「児童委員や子ども食堂等の地域や民間の目でヤングケアラーを把握する取組み」の３つがあげられていることを踏まえ、これらの機関（学校 ４校、関係機関 13か所）を対象としたインタビュー調査を実施した。

図表 2 本調査の構成



（３）小中高生に対するアンケート調査について

① 小学生に対する調査の実施

小学校低学年の児童は家族の置かれた状況を十分に理解できていなかったり、家族の世話をすることが当たり前になり、その大変さを十分に自覚できていない可能性があるため、本県の実態調査では、中学２年生、高校２年生に加えて、小学５年生を調査対象とした。

なお、本調査は、家族や家庭内の様子について尋ねるものであることから、回答者およびその家族への負担を考慮し、児童・生徒向け説明文及び保護者向け協力依頼文を作成した。

また、小学生調査については理解しやすいよう設問の文言を変えて実施した。

② 国の全国調査と比較できるよう、国の調査にあわせた設問での調査の実施

本県の調査は、国の全国調査の結果と比較できるよう、国の調査にあわせた設問にて実施した。また、ヤングケアラーの実態を把握する方法として、子どもが担っているお世話の実態を確認したうえで、ヤングケアラーについて説明し、自身が該当すると思うかを問う設問構成としている。

なお、国にならい、児童の心理的負担を考慮し、ヤングケアラーの自覚に関する設問については、小学生調査を実施しなかった。

③ 県独自の設問を追加

全国調査の結果と比較できるよう、国の調査にあわせた項目としつつ、本県独自の設問として「家族以外の相談方法」「家族以外の相談相手」の２項目を追加した。

④ 調査結果の表記について

回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示した。また、小数点以下第２位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。

複数回答の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合がある。

表やグラフ中の回答選択肢が長文の場合、処理の都合上、省略している場合がある。

中高生調査の「父母」「祖父母」「きょうだい」への「お世話の状況」、「お世話の内容」に関する調査数について、「お世話をしている家族がいる」と回答したうち、お世話の状況に関する設問で「答えたくない」を選択した数を除いたものを有効回答数とし、割合を算出した。

第２章

小中高生の
生活実態に関する調査

第２章　小中高生の生活実態に関する調査

１．小中高生調査の実施概要

（１）調査対象

県内に在籍する、小学５年生（義務教育学校５年生を含む）、中学２年生（義務教育学校８年生を含む）、高校２年生（定時制高校２年生相当・通信制高校２年生含む）の児童生徒52,782人

図表 3 対象数

（人）

	対象数
小学５年生	17,506
中学２年生	18,212
全日制高校２年生	15,817
定時制・通信制高校２年生	1,247

（２）調査期間

2022年９月５日～2022年９月30日

（３）調査方法

・各学校へ「調査の手引き」、児童生徒向け説明文及び保護者向け「協力依頼文」を電子媒体で送付
・回答方法は学校活動時間内に、配布されている端末を用いてオンラインで回答。
（通信制高校の生徒は任意の時間帯に、個人のスマートフォン等を用いてオンラインで回答。）
・任意無記名式の調査とした。
・設問は基本的に国の調査に準ずるものとし、希望する相談方法等について岐阜県独自の設問を追加した。（P172資料編に調査票を掲載。）

（４）回収状況

図表 4 回答状況

（%）

	対象数	回答数	回答率
小学５年生	17,506	13,780	78.7
中学２年生	18,212	11,688	64.2
全日制高校２年生	15,817	8,001	50.6
定時制・通信制高校２年生	1,247	327	26.2

2．生活実態に関するアンケート調査結果

（1）子どもの属性

① 性別と現在住んでいる市町村

回答者の性別、現在住んでいる市町村の生徒人数は以下のとおりとなっている。

図表 5 性別

（%）

	調査数	男性	女性	その他	無回答
小学５年生	13,780	49.2	49.0	0.3	1.6
中学２年生	11,688	48.4	49.1	0.7	1.8
全日制高校２年生	8,001	44.5	53.1	0.7	1.7
定時制･通信制高校２年生	327	48.0	44.6	3.4	4.0

図表 6 現在住んでいる市町村

（%）

	小学5年生	中学2年生	高校2年生（全日制）	高校2年生（定時制）	高校2年生（通信制）		小学5年生	中学2年生	高校2年生（全日制）	高校2年生（定時制）	高校2年生（通信制）
調査数	13,780	11,688	8,001	182	145	調査数	13,780	11,688	8,001	182	145
岐阜市	21.8	23.4	18.0	17.0	20.0	笠松町	0.7	1.2	0.6	0.5	0.0
大垣市	8.9	8.0	8.7	6.6	9.7	養老町	1.3	1.7	1.2	1.6	2.8
高山市	4.6	5.2	5.7	7.1	1.4	垂井町	1.3	1.7	1.6	2.7	1.4
多治見市	5.1	3.6	4.4	3.8	0.0	関ケ原町	0.1	0.0	0.3	0.0	0.0
関市	3.9	4.7	5.4	3.3	6.9	神戸町	0.9	0.0	1.0	2.2	0.7
中津川市	3.3	4.5	3.6	4.4	0.7	輪之内町	0.6	0.6	0.4	0.5	0.0
美濃市	1.1	0.4	1.1	0.5	2.8	安八町	0.6	0.4	0.6	0.0	1.4
瑞浪市	1.6	1.8	2.4	3.3	0.0	揖斐川町	0.8	1.1	0.8	0.5	0.7
羽島市	3.1	1.5	2.0	4.9	9.7	大野町	1.2	1.1	1.4	0.5	0.7
恵那市	2.2	1.4	2.4	2.2	0.0	池田町	1.4	1.4	1.2	1.1	0.0
美濃加茂市	2.8	2.3	3.1	7.7	2.8	北方町	1.0	0.5	1.1	0.5	2.1
土岐市	2.4	2.7	2.4	4.9	0.0	坂祝町	0.4	0.1	0.3	1.1	0.0
各務原市	7.8	9.3	5.4	5.5	9.7	富加町	0.4	0.3	0.2	0.5	0.7
可児市	3.8	5.5	4.9	1.6	1.4	川辺町	0.6	0.5	0.4	0.0	0.0
山県市	1.3	1.5	1.2	0.0	1.4	七宗町	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0
瑞穂市	2.3	0.8	3.1	3.3	4.1	八百津町	0.5	0.1	0.4	0.5	0.0
飛騨市	1.2	1.1	1.4	0.5	0.0	白川町	0.3	0.3	0.3	0.0	0.0
本巣市	1.9	1.9	2.4	0.5	2.8	東白川村	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
郡上市	2.1	1.9	2.1	0.5	0.7	御嵩町	0.3	0.2	0.9	0.5	1.4
下呂市	1.6	2.1	1.3	1.1	0.7	白川村	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0
海津市	1.6	1.6	1.5	1.1	0.7	岐阜県外	0.0	0.3	1.6	1.1	6.2
岐南町	1.2	1.5	1.1	1.1	2.1	無回答	1.4	1.4	1.7	4.4	4.8

② 同居家族

同居家族は、いずれも「母親」の割合が最も高く、次いで 「父親」となっている。

図表 7 同居家族（複数回答）

（%）

	調査数	母親	父親	祖母	祖父	兄・姉	弟・妹	その他	無回答
小学５年生	13,780	96.2	88.6	22.9	17.0	48.6	43.8	4.2	1.9
中学２年生	11,688	95.1	85.6	23.1	16.7	41.1	39.4	3.9	2.5
全日制高校２年生	8,001	91.1	81.0	24.1	16.4	33.9	40.9	5.6	3.2
定時制・通信制高校２年生	327	87.5	65.1	23.2	14.7	37.6	37.9	5.8	4.9

③ 家族構成

家族構成は、いずれも「二世代世帯」の割合が最も高くなっている。定時制・通信制高校高校２年生は他に比べ「ひとり親家庭」の割合が高くなっている。

図表 8 家族構成

（%）

	調査数	二世代世帯	三世代世帯	ひとり親家庭	その他の世帯	無回答
小学５年生	13,780	67.0	24.7	5.7	0.7	1.9
中学２年生	11,688	63.6	25.1	8.1	0.6	2.5
全日制高校２年生	8,001	57.9	26.4	9.5	3.0	3.2
定時制・通信制高校２年生	327	46.5	25.7	20.8	2.1	4.9

④ 健康状態

小学５年生、中学２年生、全日制高校２年生は「よい」が最も高くなっているが、定時制・通信制高校２年生は「ふつう」が最も高く、他に比べ「よい」が低く、「あまりよくない」が高くなっている。

図表 9 健康状態

（%）

	調査数	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
小学５年生	13,780	58.6	17.2	19.0	3.1	0.3	1.7
中学２年生	11,688	46.4	21.7	24.3	5.5	1.0	1.2
全日制高校２年生	8,001	44.7	23.0	25.3	5.1	0.8	1.1
定時制・通信制高校２年生	327	31.5	19.6	35.8	9.2	1.2	2.8

⑤ 入学理由（通信制高校のみ）

通信制高校への入学理由は、「学習スタイルが自分に合っている（登校頻度など）」が68.3%と最も高く、次いで「仕事やアルバイト、自分のやりたいこと等と両立しやすい」が48.3%となっている。

図表 10 在籍している学校に入学した理由（複数回答）

（%）

	調査数	学習スタイルが自分に合っている（登校頻度など）	自分に合った授業内容が提供されている	集団生活に入らなくてもよい	仕事やアルバイト、自分のやりたいこと等と両立しやすい	家族の世話や介護と両立しやすい	全日制高校に通っていたが辞めた	高校進学の機会が過去になかった	その他	無回答
通信制高校	145	68.3	22.1	26.9	48.3	0.0	12.4	0.7	4.1	4.8

⑥ 「全日制高校に通っていたが辞めた」理由（通信制高校のみ）

入学理由として、「全日制高校に通っていたが辞めた」と回答した人に、全日制高校を辞めた理由を聞いたところ、「集団生活が自分に合わなかった」が44.4%と最も高くなっている。「家族の世話や介護をする必要があった」は5.6%となっている。

図表 11 全日制高校を辞めた理由（複数回答）

（%）

	調査数	通学スタイルが自分に合わなかった（登校頻度など）	授業スタイルが自分に合わなかった	集団生活が自分に合わなかった	経済的な理由で通えなくなった	家族の世話や介護をする必要があった	トラブル等が理由で退学になった	その他	無回答
通信制高校	18	27.8	16.7	44.4	0.0	5.6	5.6	5.6	27.8

（２）ふだんの生活について

① 学校への出席状況

出席状況はいずれの学校も、「ほとんど欠席しない」が最も高くなっている。

図表 12 出席状況

（%）

	調査数	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
小学５年生	13,780	76.1	20.9	1.7	1.3
中学２年生	11,688	80.0	13.3	5.7	1.1
全日制高校２年生	8,001	80.8	13.0	5.1	1.1
定時制高校２年生	182	63.7	25.3	8.2	2.7

② 学校への遅刻や早退の状況

遅刻や早退の状況は、いずれの学校も「ほとんどしない」が最も高くなっている。

図表 13 遅刻や早退の状況

（%）

	調査数	ほとんどしない	たまにする	よくする	無回答
小学５年生	13,780	82.2	15.0	1.7	1.2
中学２年生	11,688	84.2	12.3	2.4	1.0
全日制高校２年生	8,001	87.7	10.1	1.2	1.0
定時制高校２年生	182	67.0	26.4	3.8	2.7

③ 放課後の習い事や部活動（学校以外での活動を含む）への参加状況

放課後の習い事や部活動に「参加している」割合は、中学２年生が８割、小学５年生、全日制高校２年生が７割を超えている。定時制・通信制高校２年生では４割となっている。

図表 14 放課後の習い事や部活動への参加状況

（%）

	調査数	参加している（はい）	参加していない（いいえ）	無回答
小学５年生	13,780	73.2	25.2	1.6
中学２年生	11,688	86.4	11.1	2.5
全日制高校２年生	8,001	76.3	76.3	76.3
定時制･通信制高校２年生	327	40.4	56.6	3.1

④ 学校生活等であてはまること

学校生活等であてはまることについて、「特にない」が最も高くなっているが、その他では、小学５年生は「持ち物の忘れ物が多い」、中学２年生、定時制高校２年生は「提出物（書類等）の提出が遅れることが多い」、全日制高校２年生は「宿題や課題ができていないことが多い」が最も高くなっている。定時制高校２年生は、「学校では１人で過ごすことが多い」が他に比べやや高くなっている。

図表 15 学校生活等であてはまること（複数回答）

（%）

	調査数	授業中に寝てしまうことが多い	宿題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
小学５年生	13,780	5.2	9.7	23.1	2.2	13.4	0.4	1.2	5.4	4.7	60.9	2.9

（%）

	調査数	授業中に居眠りをすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出物（書類等）の提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
中学２年生	11,688	15.5	19.2	20.0	6.4	23.6	0.7	1.2	6.7	6.4	52.5	3.2
全日制高校２年生	8,001	34.6	15.1	11.3	5.0	14.5	0.7	0.6	5.8	6.0	47.8	3.6
定時制高校２年生	182	26.9	15.4	11.0	8.2	18.7	3.8	1.1	11.0	9.9	44.5	6.6

⑤ 現在の悩みや困りごと

現在の悩みや困りごとについて、いずれも「特にない」が最も高く、その他では、小学５年生が「友達のこと」、中学２年生、全日制高校２年生、定時制・通信制高校２年生は、「進路のこと」、「学業成績のこと」の割合が高くなっている。また、金銭面に関する項目である「家庭の経済的状況のこと」、「学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと」は、定時制・通信制高校２年生が他に比べ高くなっている。

図表 16 現在の悩みや困りごと（複数回答）

（%）

	調査数	友達のこと	学校の成績のこと	習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特にない	無回答
小学５年生	13,780	10.0	8.6	5.3	5.1	2.7	3.5	3.3	71.6	3.2

（%）

	調査数	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと	塾（オンライン含む）や習い事ができない	家庭の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	家庭内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）
中学２年生	11,688	13.7	31.1	30.0	10.5	2.0	1.5	2.8	5.6	4.1
全日制高校２年生	8,001	10.3	31.5	42.2	11.6	4.0	0.9	3.9	3.9	3.3
定時制・通信制高校２年生	301	13.1	18.7	39.8	7.0	11.0	1.5	11.9	7.6	5.8

	調査数	病気や障がいのある家族がいる	自分のために使える時間が少ない	その他	特にない	無回答
中学２年生	11,688	1.5	3.6	2.2	47.4	3.7
全日制高校２年生	8,001	1.3	5.1	1.5	39.9	2.9
定時制・通信制高校２年生	301	2.8	3.4	4.0	41.9	5.8

⑥ 悩みや困りごとについて、相談相手・話を聞いてくれる人の有無

何らかの悩みや困りごとがあると回答した人に、相談相手・話を聞いてくれる人の有無について聞いたところ、いずれも「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が過半数を占めて最も高くなっているが、定時制・通信制高校２年生は、「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」が他に比べやや高くなっている。

図表 17 相談相手・話を聞いてくれる人の有無

（%）

	調査数	いる	いない	話はしたくない	無回答
小学５年生	3,431	61.2	10.3	22.9	5.5
中学２年生	5,657	69.9	3.9	21.5	4.7
全日制高校２年生	4,519	78.2	3.8	14.1	3.9
定時制･通信制高校２年生	167	65.3	12.6	18.6	3.6

（３）家庭や家族のこと

① 家族の中にお世話をしている人の有無

世話をしている家族がいると回答したのは、小学５年生で15.8%、中学２年生で5.4%、全日制高校２年生で3.8%、定時制・通信制高校２年生で8.6%となっている。

図表 18 世話をしている家族の有無

（%）

	調査数	いる	いない	無回答
小学５年生	13,780	15.8	81.1	3.1
中学２年生	11,688	5.4	89.7	4.9
全日制高校２年生	8,001	3.8	91.8	4.5
定時制･通信制高校２年生	327	8.6	80.4	11.0

② 世話を必要としている家族

世話を必要としている家族について、小学５年生、中学２年生、全日制高校２年生は「きょうだい」、定時制・通信制高校２年生は「母」の割合が最も高くなっている。

図表 19 世話を必要としている家族（複数回答）

（%）

	調査数	母	父	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
小学５年生	2,177	40.5	29.3	17.3	12.0	55.9	5.1	8.5
中学２年生	635	24.1	15.7	12.9	8.5	39.8	6.9	26.5
全日制高校２年生	302	25.8	17.5	16.6	7.9	26.2	5.6	33.4
定時制･通信制高校２年生	28	35.7	21.4	7.1	3.6	21.4	7.1	28.6

③ 父母の状況、父母への世話の内容

世話を必要としている家族を「父母」と回答した人に、その状況を聞いたところ、いずれも「高齢（65歳以上）」の割合が高くなっている。小学５年生は「わからない」の割合が最も高く、全日制高校２年生、定時・通信制高校２年生では「身体障がい」の割合がやや高くなっている。

図表 20 父母の状況（複数回答）

（%）

	調査数	高齢（65歳以上）	要介護（食事や身の回りのお世話）が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	こころの病気（うつ病など）	依存症	こころの病気、依存症以外の病気	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
小学５年生	908	3.5	2.8	1.1	0.6	0.1	1.1	0.4	0.2	2.8	5.6	43.2	7.6

※小学５年生の「高齢（65歳以上）」は、同時に祖父母もケアしていると回答した児童も多く、高齢である祖父母の介護をする父母をお世話しているといった旨の回答が含まれる可能性がある。

（%）

	調査数	高齢（65歳以上）	要介護（食事や身の回りのお世話）が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患	依存症（アルコールやギャンブルなど）	精神疾患、依存症以外の病気	日本語を第一言語としない	その他	無回答
中学２年生	360	3.3	1.4	0.6	1.7	0.6	0.6	0.6	1.4	1.4	8.6	8.9
全日制高校２年生	157	5.7	0.6	1.9	5.1	0.0	1.3	0.0	0.6	3.2	10.8	14.6
定時制・通信制高校２年生	13	23.1	7.7	0.0	15.4	0.0	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	15.4

「父母」の世話の内容を聞いたところ、いずれも「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も高くなっている。

図表 21 父母への世話の内容（複数回答）

（%）

	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいのお世話や送り迎え	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩に一緒に行く	病院に一緒に行く	話を聞く	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
小学５年生	908	48.5	10.8	9.8	19.2	4.5	17.7	13.0	1.9	5.0	4.0	7.4	24.1

（%）

	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいのお世話や送り迎え	身体的な介護（入浴やトイレのお世話）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	服薬管理	その他	無回答
中学２年生	360	15.3	2.2	1.1	6.1	0.0	2.5	4.7	1.1	2.2	0.6	1.1	4.7
全日制高校２年生	157	16.6	4.5	2.5	6.4	1.3	4.5	5.1	2.5	0.6	0.0	0.6	10.8
定時制・通信制高校２年生	13	30.8	7.7	7.7	15.4	15.4	7.7	15.4	0.0	7.7	0.0	7.7	15.4

④ 祖父母の状況、祖父母への世話の内容

世話を必要としている家族を「祖父母」と回答した人に、その状況を聞いたところ、いずれも「高齢（65歳以上）」の割合が最も高く、次いで「要介護（食事や身の回りのお世話）が必要」、「認知症」などをあげている。

図表 22 祖父母の状況（複数回答）

（%）

	調査数	高齢（65歳以上）	要介護（食事や身の回りのお世話）が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	こころの病気（うつ病など）	依存症	こころの病気、依存症以外の病気	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
小学５年生	421	33.0	7.4	4.3	3.3	0.7	1.9	0.5	0.2	1.4	3.8	29.7	6.4

（%）

	調査数	高齢（65歳以上）	要介護（食事や身の回りのお世話）が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患	依存症（アルコールやギャンブルなど）	精神疾患、依存症以外の病気	日本語を第一言語としない	その他	無回答
中学２年生	360	13.9	3.3	4.7	1.9	0.6	0.0	0.3	0.6	0.0	0.6	1.9
全日制高校２年生	157	26.1	6.4	6.4	5.1	0.6	0.0	0.6	0.0	0.0	0.6	1.3

※「定時制・通信制高校２年生」は、サンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

「祖父母」の世話の内容を聞いたところ、小学５年生は「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」、中学２年生、全日制高校２年生は「見守り」が最も高くなっている。

全日制高校２年生は多くの項目で中学２年生の割合を上回っている。

図表 23 祖父母への世話の内容（複数回答）

（%）

	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩に一緒に行く	病院に一緒に行く	話を聞く	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
小学５年生	421	47.3	9.7	25.2	6.7	23.3	20.4	1.4	7.1	7.8	15.7	25.4

（%）

	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	身体的な介護（入浴やトイレのお世話）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	服薬管理	その他	無回答
中学２年生	360	7.2	2.5	5.6	2.2	4.4	10.0	0.3	0.6	1.1	1.1	2.8
全日制高校２年生	157	13.4	3.2	5.7	0.6	7.6	15.3	0.6	1.9	1.9	0.6	3.8

※「定時制・通信制高校２年生」は、サンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

⑤ きょうだいの状況、きょうだいへの世話の内容

世話を必要としている家族を「きょうだい」と回答した人に、その状況を聞いたところ、いずれも「幼い」が最も高くなっている。

図表 24 きょうだいの状況（複数回答）

（%）

	調査数	幼い	介護（食事や身の回りのお世話）が必要	身体障がい	知的障がい	病気	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
小学５年生	1,218	43.1	2.8	1.1	2.1	0.9	2.7	11.2	21.6	5.6

（%）

	調査数	幼い	介護（食事や身の回りのお世話）が必要	身体障がい	知的障がい	精神疾患	精神疾患、依存症以外の病気	日本語を第一言語としない	その他	無回答
中学２年生	360	44.2	0.0	1.1	3.9	0.8	0.0	0.8	5.8	4.7
全日制高校２年生	157	24.2	0.0	2.5	5.1	0.0	0.0	1.3	1.9	5.1
定時制・通信制高校２年生	13	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7

「きょうだい」の世話の内容を聞いたところ、中学２年生は「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が最も高く、小学５年生、全日制高校２年生は「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も高くなっている。

小学５年生は、他に比べ全体的に割合が高くなっている。

図表 25 きょうだいへの世話の内容（複数回答）

（%）

	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいのお世話や送り迎え	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩に一緒に行く	病院に一緒に行く	話を聞く	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
小学５年生	1,218	36.7	29.4	18.1	17.7	2.8	18.9	28.8	1.6	3.0	2.5	8.0	14.0

（%）

	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	服薬管理	その他	無回答
中学２年生	360	17.5	29.4	5.6	8.9	0.3	4.2	25.0	1.4	0.8	0.0	3.6	4.7
全日制高校２年生	157	18.5	14.0	5.1	7.6	0.0	4.5	16.6	1.3	0.0	0.0	1.3	1.9
定時制・通信制高校２年生	13	38.5	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

⑥ 世話を一緒にしている人

世話を一緒にしている人について、いずれも「母親」が最も高くなっている。一方で、「自分のみ」は小学５年生が約１割と他に比べやや高くなっている。

図表 26 世話を一緒にしている人（複数回答）

（%）

	調査数	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービスを利用	その他	無回答
小学５年生	2,177	52.8	36.1	13.5	8.4	27.3	1.8	9.1	1.0	4.5	20.8
中学２年生	635	40.8	28.5	11.7	7.9	22.4	2.8	5.8	2.4	3.9	40.3
全日制高校２年生	302	31.8	17.2	6.0	4.6	17.2	2.0	4.6	3.6	2.6	51.7
定時制･通信制高校２年生	28	21.4	7.1	0.0	0.0	7.1	3.6	7.1	3.6	7.1	60.7

⑦ 世話を始めた年齢

世話を始めた年齢について、小学５年生は「小学生（高学年）」、「小学生（低学年）」が同程度で高く、中学２年生、全日制高校２年生、定時制・通信制高校２年生は「中学生以降」が最も高くなっている。

図表 27 世話を始めた年齢

（%）

	調査数	就学前	小学生（低学年）	小学生（高学年）	中学生以降	無回答
小学５年生	2,177	19.0	32.0	32.1	－	16.1
中学２年生	635	22.8	6.0	10.7	41.1	19.4
全日制高校２年生	302	34.4	3.0	5.3	42.7	14.6
定時制･通信制高校２年生	28	35.7	0.0	3.6	46.4	14.3

⑧ 世話をしている頻度

世話をしている頻度は、いずれも「ほぼ毎日」が最も高くなっている。

図表 28 世話をしている頻度

（%）

	調査数	ほぼ毎日	週に3～5回	週に1～2回	1か月に数日	その他	無回答
小学５年生	2,177	36.2	16.7	14.7	9.4	3.4	19.8
中学２年生	635	34.6	11.0	10.4	6.5	2.8	34.6
全日制高校２年生	302	20.9	10.3	9.9	7.6	1.7	49.7
定時制･通信制高校２年生	28	35.7	10.7	3.6	0.0	3.6	46.4

⑨ 平日１日あたりに世話に費やす時間

平日１日あたりに世話に費やす時間は、いずれも「１時間未満」が最も高い。

平日１日あたり「３時間以上」お世話に費やすとの回答は、小学５年生が21.7%、中学２年生が15.8%、全日制高校２年生が9.9%、定時制・通信制高校２年生が14.3%となっている。

図表 29 世話に費やす時間（平日１日あたり）

（%）

	調査数	1時間未満	1～3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	無回答
小学５年生	2,177	44.0	18.9	12.3	9.4	15.4
中学２年生	635	55.4	14.0	8.7	7.1	14.8
全日制高校２年生	302	68.2	9.3	5.3	4.6	12.6
定時制･通信制高校２年生	28	50.0	10.7	10.7	3.6	25.0

⑩ 世話をしているために、やりたいけれどできていないこと

世話をしているために、やりたいけれどできていないことについて、いずれも「特にない」が最も高くなっているが、学年が高いほど「特にない」の割合は低くなっている。

図表 30 世話をしているために、やりたいけれどできていないこと（複数回答）

（%）

	調査数	学校を休んでしまう	遅刻や早退をしてしまう	宿題など勉強する時間がない	眠る時間がたりない	友達と遊ぶことができない	習い事ができない	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
小学５年生	2,177	2.8	2.8	6.1	6.0	5.6	0.5	9.3	1.1	75.8	5.1

（%）

	調査数	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、または辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
中学２年生	635	0.6	1.3	8.7	6.8	5.5	1.4	1.4	6.9	2.4	69.8	10.6
全日制高校２年生	302	2.3	1.0	5.0	6.6	5.3	0.7	1.0	4.0	2.3	63.6	17.9
定時制高校２年生	19	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	0.0	0.0	10.5	0.0	36.8	42.1

（%）

	調査数	学校に行きたい日に行けない	学校に行く日に遅刻や早退をしてしまう	授業を受ける時間や課題をする時間、勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	当初通っていた学校を辞めた	部活や習い事ができない、または辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	アルバイトや仕事をすることができない	その他	特にできていないことはない	無回答
通信制高校２年生	9	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	44.4	22.2

⑪ 世話の大変さ・きつさ

世話をすることに感じている大変さ・きつさについて、いずれも「特にきつさ（大変）は感じていない」が最も高いものの、いずれも「精神的にきつい（大変）」割合が高くなっている。

図表 31 世話をすることに感じている大変さ・きつさ（複数回答）

（%）

	調査数	体力の面で大変	気持ちの面で大変	時間の余裕がない	特に大変さは感じていない	無回答
小学５年生	2,177	11.4	13.1	10.2	56.3	17.3

（%）

	調査数	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつさは感じていない	無回答
中学２年生	635	6.6	11.2	8.3	54.6	27.6
全日制高校２年生	302	4.3	7.0	6.3	45.7	40.4
定時制･通信制高校２年生	28	7.1	25.0	17.9	42.9	28.6

⑫ 世話について相談した経験

世話について相談した経験は、いずれも「ない」が「ある」を大きく上回り、学年が高い程相談した経験が「ある」割合は低くなっている。

図表 32 世話について相談した経験

（%）

	調査数	ある	ない	無回答
小学５年生	2,177	16.0	64.4	19.6
中学２年生	635	12.6	55.3	32.1
全日制高校２年生	302	9.9	47.0	43.0
定時制･通信制高校２年生	28	10.7	42.9	46.4

⑬ 世話についての相談相手

世話についての相談相手は、いずれも「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が最も高く、次いで「友人」となっている。

図表 33 世話についての相談相手（複数回答）

（%）

	調査数	家族（お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい）	しんせき（おじ、おばなど）	友だち	学校の先生（保健室の先生以外）	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	病院・医療・福祉サービスの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
小学５年生	348	82.8	4.9	25.6	11.2	2.3	3.2	0.6	2.3	1.4	1.1	6.9

（%）

	調査数	家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）	親戚（おじ、おばなど）	友人	学校の先生（保健室の先生以外）	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	医師や看護師、その他病院の人	ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人	役所や保健センターの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
中学２年生	80	58.8	11.3	42.5	21.3	8.8	16.3	2.5	2.5	3.8	3.8	7.5	3.8	6.3
全日制高校２年生	30	63.3	13.3	46.7	16.7	3.3	0.0	3.3	0.0	3.3	0.0	10.0	3.3	6.7

※「定時制・通信制高校２年生」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

⑭ 世話について相談したことがない理由

世話について相談した経験が「ない」理由をみると、いずれも「誰かに相談するほどの悩みではない」が最も高くなっている。

次いで、小学５年生は「相談しても何も変わらないから」、中学２年生、全日制高校２年生は「家族外の人に相談するような悩みではない」、「相談しても状況が変わるとは思わない」が高くなっている。

図表 34 世話について相談したことがない理由（複数回答）

（%）

	調査数	相談するほどの悩みではないから	誰に相談するのがよいかわからないから	相談できる人がいないから	家族のことを話したくないから	相談しても何も変わらないから	その他	無回答
小学５年生	1,403	69.9	3.2	2.2	3.1	7.3	8.8	11.8

（%）

	調査数	誰かに相談するほどの悩みではない	家族外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のことのため話しにくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わるとは思わない	その他	無回答
中学２年生	351	55.3	7.7	4.8	2.8	4.3	2.3	2.6	6.6	4.8	28.2
全日制高校２年生	142	51.4	7.7	1.4	0.7	2.8	4.2	2.1	7.0	3.5	30.3
定時制・通信制高校２年生	12	41.7	16.7	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	16.7	8.3	16.7

⑮ 世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について相談した経験が「ない」と回答した人の、世話について話を聞いてくれる人の有無について、いずれも「いる」が「いない」を大きく上回り、「いる」割合は学年が高くなる程低くなっている。

図表 35 世話について話を聞いてくれる人の有無

（%）

	調査数	いる	いない	無回答
小学５年生	1,403	66.6	19.4	14.0
中学２年生	351	59.8	19.1	21.1
全日制高校２年生	142	53.5	23.9	22.5
定時制･通信制高校２年生	12	50.0	33.3	16.7

⑯ 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援について、いずれも「特にない」が最も高くなっているが、中学２年生、全日制高校２年生は「自由に使える時間がほしい」、定時制・通信制高校２年生は「自由に使える時間がほしい」、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」割合が高くなっている。また、「家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい」割合は、学年が上がるにつれ高くなっている。

図表 36 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援（複数回答）

（%）

	調査数	自分のことについて話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを誰かに代わってほしい	自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい	自由に使える時間がほしい	勉強を教えてほしい	お金の面で支援してほしい	その他	特にない	わからない	無回答
小学５年生	2,177	9.7	2.2	0.8	1.3	2.7	12.6	9.0	2.4	0.8	63.1	7.3	5.8

（%）

	調査数	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	家庭への経済的な支援	わからない	その他	特にない	無回答
中学２年生	635	9.0	2.4	1.4	2.4	0.8	11.8	9.6	11.0	2.8	6.6	1.7	58.7	11.2
全日制高校２年生	302	7.0	2.3	2.6	1.0	1.3	7.3	7.0	7.0	3.0	6.3	1.7	53.0	17.5
定時制・通信制高校２年生	28	3.6	7.1	3.6	0.0	3.6	14.3	14.3	7.1	7.1	10.7	0.0	32.1	28.6

⑰ 家族の人以外に相談するときに、相談したい方法

前問で「話を聞いてほしい」「相談にのってほしい」と回答した人の、悩みや困りごとを家族の人以外に相談する時の相談方法について、小学５年生と中学２年生は「直接会って」相談する割合が最も高く、全日制高校２年生は「SNS（ラインなど）」の割合が最も高くなっている。

図表 37 家族の人以外に相談するときに、相談したい方法（複数回答）

（%）

	調査数	直接会って	電話	SNS（ラインなど）	電子メール	その他	無回答
小学５年生	209	69.9	17.7	13.9	6.2	1.4	13.4
中学２年生	62	51.6	30.6	35.5	14.5	3.2	12.9
全日制高校２年生	22	45.5	18.2	59.1	22.7	4.5	18.2

※「定時制・通信制高校２年生」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

⑱ 家族の人以外に相談するときに、相談したい相手

現在何らかの悩みや困りごとがあると回答した人の、家族の人以外に相談する場合の相談相手について、小学５年生、中学２年生は「学校の先生（保健室の先生以外）」、全日制高校２年生は「SNS上で安心して相談できる人」が最も高くなっている。

図表 38 家族の人以外に相談するときに、相談したい相手（複数回答）

（%）

	調査数	学校の先生（保健室の先生以外）	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	病院の人や福祉サービスの人	近所の人	SNS上で安心して相談できる人	同じような経験をした先輩	その他	無回答
小学５年生	205	40.5	13.7	14.6	2.0	6.8	8.3	9.8	13.2	22.4
中学２年生	60	33.3	16.7	20.0	11.7	10.0	28.3	30.0	20.0	10.0
全日制高校２年生	21	38.1	23.8	28.6	9.5	0.0	42.9	9.5	4.8	9.5

※「定時制・通信制高校２年生」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

（4）ヤングケアラーについて

① ヤングケアラーの自覚

自分がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した割合は、中学２年生、全日制高校２年生は約２%、定時制・通信制高校２年生は４%となっている。定時制高校２年生は、「わからない」が他に比べやや高い傾向にある。

図表 39 自分はヤングケアラーにあてはまると思うか

（%）

	調査数	あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答
中学２年生	11,688	1.7	80.7	15.0	2.6
全日制高校２年生	8,001	1.6	79.5	16.1	2.8
定時制･通信制高校２年生	327	4.0	66.7	25.1	0.0

② ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーの認知度をみると、いずれも「聞いたことはない」が約５割、「聞いたことがあり、内容も知っている」は２～３割、「聞いたことはあるが、よく知らない」が２割未満となっている。

図表 40 ヤングケアラーの認知度

（%）

	調査数	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことはあるが、よく知らない	聞いたことはない	無回答
中学２年生	11,688	25.2	19.8	53.1	1.9
全日制高校２年生	8,001	32.2	19.6	45.4	2.8
定時制･通信制高校２年生	327	26.9	17.1	50.8	5.2

③ ヤングケアラーについて知ったきっかけ

ヤングケアラーについて、「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した人の知ったきっかけについて、いずれも「テレビや新聞、ラジオ」が最も高くなっている。また、定時制・通信制高校２年生では「SNSやインターネット」が４割強、全日制高校２年生は「学校」が３割強となっている。

図表 41 ヤングケアラーについて知ったきっかけ（複数回答）

（%）

	調査数	テレビや新聞、ラジオ	雑誌や本	SNSやインターネット	広告やチラシ、掲示物	イベントや交流会など	学校	友人・知人から聞いた	その他	無回答
中学２年生	5,253	64.3	12.0	26.1	7.7	1.0	25.5	5.3	3.6	1.6
全日制高校２年生	4,144	59.5	6.2	27.4	5.4	0.8	33.9	3.5	1.9	2.3
定時制・通信制高校２年生	144	61.8	5.6	40.3	5.6	0.7	24.3	3.5	2.1	0.7

3．テーマ別の分析

（1）家族の世話の有無による学校生活等の状況

① 家族の世話の有無×家族構成

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、小学５年生と高校２年生は「ひとり親家庭」の割合が高くなっている。

図表 42 家族の世話の有無×家族構成

（%）

	家族の世話をしている	調査数	二世代世帯	三世代世帯	ひとり親家庭	その他の世帯	無回答
小学５年生	いる	2,177	64.7	25.4	7.2	1.0	1.7
	いない	11,169	67.9	24.8	5.4	0.6	1.3
中学２年生	いる	635	60.8	25.8	8.5	0.6	4.3
	いない	10,482	58.6	26.2	9.8	3.0	2.4
高校２年生	いる	330	49.4	31.5	11.2	3.9	3.9
	いない	7,605	58.6	26.2	9.8	3.0	2.4

② 家族の世話の有無×健康状態

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、健康状態が「よくない」「あまりよくない」の割合が高くなっている。

図表 43 家族の世話の有無×健康状態

（%）

	家族の世話をしている	調査数	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
小学５年生	いる	2,177	56.2	17.6	19.0	4.5	0.7	2.1
	いない	11,169	59.8	17.1	18.8	2.8	0.3	1.2
中学２年生	いる	635	41.7	21.1	26.1	8.3	1.4	1.3
	いない	10,482	47.5	21.8	23.9	5.2	0.9	0.7
高校２年生	いる	302	42.7	22.5	22.5	8.9	2.0	1.3
	いない	7,342	45.3	23.2	25.3	5.0	0.7	0.6

③ 家族の世話の有無×入学理由（通信制高校生のみ）

通信制高校への入学理由は、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「仕事やアルバイト、自分のやりたいこと等と両立しやすい」の割合が高くなっている。

図表 44 家族の世話の有無×現在在籍している学校に入学した理由（複数回答）

（%）

	世話をしている家族	調査数	学習スタイルが自分に合っている（登校頻度など）	自分に合った授業内容が提供されている	集団生活に入らなくてもよい	仕事やアルバイト、自分のやりたいこと等と両立しやすい	家族の世話や介護と両立しやすい	全日制高校に通っていたが辞めた	高校進学の機会が過去になかった	その他	無回答
通信制高校生	いる	9	44.4	22.2	22.2	66.7	0.0	22.2	0.0	0.0	11.1
	いない	121	71.9	21.5	29.8	47.9	0.0	13.2	0.8	4.1	2.5

④ 家族の世話の有無×出席状況

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「たまに欠席する」、「よく欠席する」の割合が高くなっている。

図表 45 家族の世話の有無×出席状況

（%）

	世話をしている家族	調査数	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
小学５年生	いる	2,177	69.1	27.4	2.3	1.2
	いない	11,169	78.3	19.5	1.5	0.7
中学２年生	いる	635	73.2	18.3	6.8	1.3
	いない	10,482	81.3	12.6	5.4	0.5
高校２年生	いる	302	70.5	21.2	7.0	1.3
	いない	7,342	81.9	12.4	5.0	0.7

⑤ 家族の世話の有無×遅刻や早退の状況

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、遅刻や早退を「たまにする」、「よくする」の割合が高くなっている。

図表 46 家族の世話の有無×遅刻や早退の状況

（%）

	世話をしている家族	調査数	ほとんどしない	たまにする	よくする	無回答
小学5年生	いる	2,177	76.4	19.7	2.7	1.2
	いない	11,169	84.1	13.8	1.4	0.7
中学2年生	いる	635	75.3	19.4	3.9	1.1
	いない	10,482	85.7	11.6	2.3	0.4
高校2年生	いる	302	81.8	15.9	1.7	0.7
	いない	7,342	88.6	9.7	1.2	0.5

⑥ 家族の世話の有無×学校生活等であてはまること

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「持ち物の忘れ物が多い」、「授業中に居眠りをすることが多い」、「宿題や課題ができていないことが多い」など、多くの項目で高くなっている。

図表 47 家族の世話の有無×学校生活等であてはまること

（%）

	世話をしている家族	調査数	授業中に寝てしまうことが多い	宿題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
小学5年生	いる	2,177	7.8	12.8	29.7	3.4	18.8	0.7	2.5	7.2	6.8	51.1	3.0
	いない	11,169	4.6	9.0	21.7	2.0	12.4	0.3	0.9	4.9	4.2	63.8	2.1

（%）

	世話をしている家族	調査数	授業中に居眠りをすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出物（書類等）の提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では１人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
中学２年生	いる	635	22.7	26.9	29.0	11.2	30.9	1.4	3.0	8.7	8.5	37.6	3.8
	いない	10,482	15.0	18.6	19.4	6.0	22.9	0.6	1.0	6.5	6.2	54.5	2.2
高校２年生	いる	302	37.7	16.2	13.9	9.3	12.6	2.6	2.3	7.0	7.9	42.4	5.3
	いない	7,342	34.8	15.2	11.3	4.7	14.5	0.6	0.5	5.8	6.0	48.7	2.5

⑦ 家族の世話の有無×現在の悩みや困りごと

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、多くの項目でいる場合の割合が高い傾向にあるが、特に小学生は「学校の成績のこと」、「友達のこと」、中学２年生は「進路のこと」、「自分と家族との関係のこと」、高校２年生は「自分と家族との関係のこと」、「病気や障がいのある家族がいる」が高くなっている。

図表 48 家族の世話の有無×現在の悩みや困りごと（複数回答）

（%）

	世話をしている家族	調査数	友達のこと	学校の成績のこと	習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特にない	無回答
小学５年生	いる	2,177	13.6	12.5	7.0	7.6	3.9	6.2	4.0	62.5	3.6
	いない	11,169	9.3	7.7	4.9	4.5	2.4	3.0	3.2	74.4	2.3

（%）

	世話をしている家族	調査数	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと	塾（オンライン含む）や習い事ができない	家庭の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	家庭内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）
中学２年生	いる	635	16.7	36.4	36.5	12.4	4.4	3.0	4.9	11.0	7.6
	いない	10,482	13.6	30.9	29.8	10.3	1.9	1.3	2.6	5.2	3.8
高校２年生	いる	302	15.6	31.5	43.0	15.2	7.6	1.7	8.6	11.3	6.3
	いない	7,342	10.0	32.1	42.9	11.6	3.8	0.9	3.7	3.6	3.1

	世話をしている家族	調査数	病気や障がいのある家族がいる	自分のために使える時間が少ない	その他	特にない	無回答
中学２年生	いる	635	4.7	4.7	3.1	38.4	3.0
	いない	10,482	1.2	3.5	2.1	48.6	2.9
高校２年生	いる	302	6.3	7.9	2.6	30.1	5.3
	いない	7,342	1.1	5.1	1.4	40.3	2.0

⑧ 家族の世話の有無×相談相手・話を聞いてくれる人の有無

悩みや困りごとの相談相手がいると回答した割合は、世話をしている家族がいる場合は６割を超えるものの、世話をしている家族がいない場合に比べやや低くなっている。

図表 49 家族の世話の有無×相談相手・話を聞いてくれる人の有無

（%）

	世話をしている家族	調査数	いる	いない	話はしたくない	無回答
小学５年生	いる	737	61.3	11.8	19.9	5.7
	いない	2,607	61.6	9.8	23.1	4.4
中学２年生	いる	367	65.7	4.9	23.4	6.0
	いない	5,032	71.2	3.7	21.3	3.8
高校２年生	いる	192	75.0	7.8	13.0	4.2
	いない	4,181	79.1	3.6	14.1	3.2

（２）性別による世話の状況の違い

① 性別×世話の内容

世話の内容について、男女ともに「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が最も高くなっている。また、「金銭管理」の割合は、男性が女性に比べ高くなっている。

図表 50 性別×父母への世話の内容（複数回答）

（%）

	性別	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいのお世話や送り迎え	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩に一緒に行く	病院に一緒に行く	話を聞く	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
小学５年生	男	577	48.5	9.5	8.8	16.5	4.5	15.9	11.8	1.4	5.4	3.5	6.1	24.3
	女	311	48.9	13.2	11.6	24.1	4.2	21.2	15.1	2.6	3.9	4.5	9.6	22.5

（%）

	性別	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	服薬管理	その他	無回答
中学２年生	男	175	19.4	2.9	1.1	5.1	0.0	1.7	4.6	0.6	2.3	0.0	1.1	8.6
	女	177	11.3	1.1	1.1	6.8	0.0	2.8	5.1	1.7	1.7	1.1	0.6	1.1
高校２年生	男	64	20.3	6.3	3.1	7.8	1.6	6.3	6.3	4.7	1.6	0.0	1.6	17.2
	女	89	14.6	3.4	2.2	5.6	1.1	3.4	4.5	1.1	0.0	0.0	0.0	5.6

図表 51 性別×祖父母への世話の内容（複数回答）

（%）

	性別	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩に一緒に行く	病院に一緒に行く	話を聞く	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
小学5年生	男	259	48.3	8.5	21.6	5.4	19.3	18.1	0.4	8.1	5.0	13.5	27.0
	女	155	46.5	11.6	31.0	8.4	30.3	24.5	3.2	5.2	12.3	20.0	20.6

（%）

	性別	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	身体的な介護（入浴やトイレのお世話）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	服薬管理	その他	無回答
中学2年生	男	175	6.9	2.3	4.0	1.1	3.4	10.3	0.6	1.1	1.7	1.1	5.1
	女	177	7.9	2.8	6.8	2.8	5.6	9.6	0.0	0.0	0.6	1.1	0.6
高校2年生	男	64	12.5	1.6	4.7	0.0	4.7	10.9	0.0	3.1	3.1	0.0	4.7
	女	89	14.6	4.5	5.6	1.1	10.1	19.1	1.1	1.1	1.1	1.1	2.2

図表 52 性別×きょうだいへの世話の内容（複数回答）

（%）

	性別	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいのお世話や送り迎え	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩に一緒に行く	病院へ一緒に行く	話を聞く	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
小学５年生	男	616	33.4	23.1	14.9	14.9	2.4	16.2	27.4	1.3	3.9	2.3	7.1	17.7
	女	578	40.0	36.2	22.0	20.4	3.3	21.6	30.8	1.9	2.2	2.8	9.0	9.7

（%）

	性別	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	服薬管理	その他	無回答
中学２年生	男	175	14.3	23.4	6.9	5.7	0.0	1.7	21.1	1.7	1.1	0.0	3.4	7.4
	女	177	21.5	34.5	4.0	10.7	0.6	6.2	28.2	1.1	0.6	0.0	3.4	2.3
高校２年生	男	64	15.6	7.8	1.6	6.3	0.0	1.6	9.4	3.1	0.0	0.0	0.0	3.1
	女	89	20.2	18.0	6.7	9.0	0.0	6.7	21.3	0.0	0.0	0.0	2.2	1.1

② 性別×世話の開始時期

世話を始めた年齢は、女性は男性に比べ「小学生（低学年）」以降、割合が高くなっている。

図表 53 性別×世話を始めた年齢

（%）

	性別	調査数	就学前	小学生（低学年）	小学生（高学年）	中学生以降	無回答
小学５年生	男	1,202	18.3	31.4	32.0	－	18.3
	女	933	19.8	33.2	32.6	－	14.4
中学２年生	男	333	26.4	5.1	9.0	38.7	20.7
	女	284	19.0	7.0	12.3	52.1	9.5
高校２年生	男	135	41.5	3.0	2.3	34.6	17.8
	女	154	26.6	3.2	7.8	51.3	11.0

③ 性別×世話の頻度

世話の頻度について、女性は男性に比べ「ほぼ毎日」、「週に３～５日」の割合が高くなっている。

図表 54 性別×世話の頻度

（%）

	性別	調査数	ほぼ毎日	週に3～5回	週に1～2回	1か月に数日	その他	無回答
小学５年生	男	1,202	31.3	16.1	16.6	10.9	3.3	21.8
	女	933	42.4	18.0	12.0	7.4	3.4	16.7
中学２年生	男	333	31.8	10.2	8.1	6.6	3.6	39.6
	女	284	38.0	12.3	13.0	6.3	1.4	28.9
高校２年生	男	135	17.0	5.2	8.1	10.4	0.7	58.5
	女	154	25.3	14.9	11.7	5.2	2.6	40.3

④ 性別×世話に費やす時間

世話に費やす時間については、女性は男性に比べ「３～７時間未満」、「７時間以上」の割合が高い傾向にある。

図表 55 性別×世話に費やす時間（平日１日あたり）

（%）

	性別	調査数	３時間未満	３～７時間未満	７時間以上	無回答
小学５年生	男	1,202	64.7	11.3	7.9	16.1
	女	933	61.1	13.6	11.0	14.3
中学２年生	男	333	70.3	6.6	5.1	18.0
	女	284	70.1	10.6	9.5	9.9
高校２年生	男	135	76.3	0.7	6.7	16.3
	女	154	77.3	9.7	3.2	9.7

⑤ 性別×世話のきつさ

世話をすることに感じている大変さ・きつさについて、女性は男性に比べ「身体的にきつい（大変）」、「精神的にきつい（大変）」、「時間的余裕がない」のいずれの面においても割合が高くなっている。

図表 56 性別×世話をすることに感じている大変さ・きつさ（複数回答）

（%）

	性別	調査数	体力の面で大変	気持ちの面で大変	時間の余裕がない	特に大変さは感じていない	無回答
小学５年生	男	1,202	11.4	12.0	7.9	56.6	18.9
	女	933	11.5	14.7	12.8	56.6	14.8

（%）

	性別	調査数	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつさは感じていない	無回答
中学２年生	男	333	4.5	7.8	6.0	52.9	33.0
	女	284	8.8	14.1	10.6	57.4	21.1
高校２年生	男	135	3.7	5.9	3.7	41.5	48.1
	女	154	3.9	7.8	7.8	50.6	33.1

⑥ 性別×世話について相談した経験

世話について相談した経験の有無では、男性は女性に比べ「ある」の割合が低くなっている。

図表 57 性別×世話について相談した経験

（%）

	性別	調査数	ある	ない	無回答
小学5年生	男	1,202	14.6	64.7	20.7
	女	933	17.9	64.4	17.7
中学2年生	男	333	9.9	51.4	38.7
	女	284	15.1	61.3	23.6
高校2年生	男	135	8.1	38.5	53.3
	女	154	12.3	54.5	33.1

⑦ 性別×世話についての相談相手

世話についての相談相手をみると、男女ともに、「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」の割合が最も高くなっているが、女性は男性に比べ「友人」が高く、男性は女性に比べ「学校の先生（保健室の先生以外）」、「役所や保健センターの人」が高くなっている。

図表 58 性別×世話についての相談相手（複数回答）

（%）

	性別	調査数	家族（お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい）	しんせき（おじ、おばなど）	友だち	学校の先生（保健室の先生以外）	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	病院・医療・福祉サービスの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
小学5年生	男	175	82.9	4.0	17.7	12.6	1.7	1.7	0.0	2.3	0.6	0.0	11.4
	女	167	83.2	6.0	33.5	10.2	3.0	4.8	1.2	2.4	2.4	2.4	1.8

（%）

	性別	調査数	家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）	親戚（おじ、おばなど）	友人	学校の先生（保健室の先生以外）	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	医師や看護師、その他病院の人	ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人	役所や保健センターの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
中学２年生	男	33	69.7	12.1	42.4	24.2	3.0	9.1	0.0	3.0	6.1	0.0	0.0	0.0	9.1
	女	43	55.8	11.6	44.2	16.3	14.0	18.6	4.7	2.3	2.3	7.0	14.0	4.7	4.7
高校２年生	男	11	72.7	27.3	45.5	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	18.2	0.0	18.2
	女	19	57.9	5.3	47.4	15.8	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0

⑧ 性別×世話についての相談相手の有無

世話についての相談相手の有無は、男女ともに「いる」割合が高くなっている。
中学２年生、高校２年生の「話はしたくない」は、女性が男性に比べ高くなっている。

図表 59 性別×世話についての相談相手の有無

（%）

	性別	調査数	いる	いない	話はしたくない	悩んでいることは特にない	無回答
小学５年生	男	778	67.6	19.3	－	－	13.1
	女	601	65.7	19.5	－	－	14.8
中学２年生	男	170	71.2	3.5	18.8	1.8	4.7
	女	189	61.4	4.2	27.0	1.1	6.3
高校２年生	男	80	73.8	8.8	8.8	2.5	6.3
	女	107	78.5	7.5	11.2	0.9	1.9

⑨ 性別×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援については、全体的に女性は男性に比べ回答割合が高くなっている。小学５年生は「勉強を教えてほしい」、「自分のことについて話を聞いてほしい」、中学２年生は「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」、「自由に使える時間がほしい」、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」などの項目で、女性の割合が高くなっている。

図表 60 性別×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援（複数回答）

（%）

	性別	調査数	自分のことについて話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを誰かに代わってほしい	自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい	自由に使える時間がほしい	勉強を教えてほしい	お金の面で支援してほしい	その他	特にない	わからない	無回答
小学５年生	男	1,202	7.8	1.7	0.7	0.8	1.8	11.1	6.7	2.4	0.7	65.6	7.7	6.3
	女	933	12.1	2.8	1.0	1.9	3.6	13.9	12.3	2.1	0.9	61.2	6.8	4.2

（%）

	性別	調査数	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	家庭への経済的な支援	わからない	その他	特にない	無回答
中学２年生	男	333	4.5	1.2	0.9	1.2	0.9	8.4	4.8	4.5	0.9	6.9	2.1	64.6	12.6
	女	284	14.1	2.8	2.1	3.2	0.7	15.5	15.1	18.7	4.6	6.7	1.1	53.2	8.5
高校２年生	男	135	5.9	2.2	2.2	0.7	1.5	7.4	6.7	6.7	3.0	4.4	2.2	52.6	20.0
	女	154	6.5	2.6	3.2	1.3	1.3	6.5	7.1	6.5	3.2	8.4	1.3	54.5	14.3

（３）家族構成による世話の状況の違い

① 家族構成×世話を必要としている家族

世話を必要としている家族について、いずれの世帯も「父母」、「きょうだい」の割合が高い傾向にあるが、中学２年生と高校２年生の三世代世帯は「祖父母」が高くなっている。

図表 61 家族構成×世話を必要としている家族（複数回答）

（%）

	家族構成	調査数	父母	祖父母	きょうだい	その他	無回答
小学5年生	二世代世帯	1,409	72.9	17.7	60.8	4.6	7.7
	三世代世帯	553	66.7	60.6	50.6	5.4	8.5
	ひとり親家庭	156	56.4	24.4	39.1	7.7	7.7
	その他の世帯	21	76.2	23.8	47.6	19	9.5
中学2年生	二世代世帯	386	42.7	10.9	44.3	7.0	29.5
	三世代世帯	164	31.1	50.6	31.1	8.5	20.1
	ひとり親家庭	54	50.0	14.8	44.4	5.6	7.4
	その他の世帯	4	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
高校2年生	二世代世帯	163	53.4	9.2	26.4	4.9	34.4
	三世代世帯	104	37.5	55.8	25.0	5.8	26.0
	ひとり親家庭	37	35.1	5.4	37.8	2.7	29.7
	その他の世帯	13	53.8	15.4	15.4	23.1	30.8

② 家族構成×世話の内容

父母への世話の内容をみると、いずれの世帯も「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が最も高く、中学２年生と高校２年生のひとり親家庭は他世帯に比べ高い傾向にある。

図表 62 家族構成×父母への世話の内容（複数回答）

（%）

	家族構成	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいのお世話や送り迎え	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩に一緒に行く	病院に一緒に行く	話を聞く	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
小学5年生	二世代世帯	577	48.4	12.3	11.3	19.4	4.3	17.9	11.6	2.4	5.0	2.4	8.7	22.2
	三世代世帯	226	52.7	9.3	7.5	18.6	4.4	17.3	14.6	0.9	4.9	6.6	4.4	25.2
	ひとり親家庭	82	42.7	6.1	7.3	20.7	7.3	0.7	15.9	1.2	6.1	8.5	7.3	30.5
	その他の世帯	10	50.0	10.0	0.0	20.0	0.0	10.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0

（%）

	家族構成	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	服薬管理	その他	無回答
中学2年生	二世代世帯	216	15.7	1.9	0.5	5.6	0.0	3.2	4.6	0.9	2.3	0.5	0.9	5.1
	三世代世帯	104	11.5	2.9	1.9	3.8	0.0	1.9	3.8	0.0	1.0	1.0	1.9	1.9
	ひとり親家庭	33	27.3	3.0	3.0	15.2	0.0	0.0	9.1	6.1	6.1	0.0	0.0	6.1
高校2年生	二世代世帯	75	21.3	6.7	2.7	9.3	2.7	4.0	4.0	5.3	0.0	0.0	0.0	13.3
	三世代世帯	64	9.4	1.6	3.1	4.7	0.0	1.6	4.7	0.0	1.6	0.0	0.0	7.8
	ひとり親家庭	12	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3
	その他の世帯	6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7

※中学２年生「その他の世帯」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

祖父母への世話の内容をみると、中学２年生と高校２年生の三世代世帯は「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」、「見守り」が他世帯に比べ高くなっている。

図表 63 家族構成×祖父母への世話の内容（複数回答）

（%）

	家族構成	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩に一緒に行く	病院に一緒に行く	話を聞く	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
小学5年生	二世代世帯	155	47.7	12.9	27.7	7.7	23.9	20.0	1.9	10.3	7.1	18.1	28.4
	三世代世帯	232	47.8	6.9	23.3	5.6	22.4	19.8	1.3	4.7	6.5	14.7	23.3
	ひとり親家庭	25	44.0	16.0	28.0	12.0	28.0	24.0	0.0	12.0	24.0	16.0	24.0
	その他の世帯	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3

（%）

	家族構成	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	身体的な介護（入浴やトイレのお世話）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	服薬管理	その他	無回答
中学2年生	二世代世帯	216	2.3	0.0	1.9	0.9	2.3	3.7	0.5	0.5	0.0	0.9	0.9
	三世代世帯	104	19.2	7.7	13.5	3.8	10.6	24.0	0.0	0.0	2.9	0.0	7.7
	ひとり親家庭	33	3.0	3.0	6.1	6.1	0.0	9.1	0.0	3.0	3.0	0.0	0.0
高校2年生	二世代世帯	75	4.0	0.0	1.3	0.0	2.7	5.3	0.0	0.0	0.0	1.3	2.7
	三世代世帯	64	26.6	6.3	10.9	1.6	14.1	28.1	1.6	4.7	4.7	0.0	6.3
	ひとり親家庭	12	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他の世帯	6	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※中学２年生「その他の世帯」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

きょうだいへの世話の内容をみると、ひとり親家庭は「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が他世帯に比べ高くなっている。また、小学５年生は他学年に比べ、いずれの世帯も多くの項目で割合が高くなっている。

図表 64 家族構成×きょうだいへの世話の内容（複数回答）

（%）

	家族構成	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいのお世話や送り迎え	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩に一緒に行く	病院へ一緒に行く	話を聞く	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
小学5年生	二世代世帯	857	36.4	28.7	20.8	17.0	2.5	18.8	28.0	1.4	2.9	1.8	9.5	12.6
	三世代世帯	280	36.1	31.1	11.4	20.4	3.6	17.9	31.1	1.8	3.6	4.3	5.0	17.9
	ひとり親家庭	61	47.5	27.9	13.1	16.4	4.9	26.2	29.5	3.3	3.3	3.3	3.3	9.8
	その他の世帯	10	30.0	40.0	0.0	10.0	0.0	20.0	30.0	0.0	0.0	0.0	10.0	20.0

（%）

	家族構成	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	服薬管理	その他	無回答
中学2年生	二世代世帯	216	17.1	32.4	6.5	8.8	0.0	2.8	25.0	1.9	1.4	0.0	4.6	5.6
	三世代世帯	104	17.3	22.1	3.8	9.6	1.0	5.8	26.9	1.0	0.0	0.0	1.0	1.9
	ひとり親家庭	33	18.2	36.4	6.1	9.1	0.0	9.1	21.2	0.0	0.0	0.0	6.1	3.0
高校2年生	二世代世帯	75	24.0	17.3	5.3	8.0	0.0	6.7	21.3	2.7	0.0	0.0	0.0	2.7
	三世代世帯	64	7.8	7.8	6.3	7.8	0.0	1.6	14.1	0.0	0.0	0.0	3.1	1.6
	ひとり親家庭	12	41.7	33.3	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他の世帯	6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※中学２年生「その他の世帯」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

③ 家族構成×世話の開始時期

世話を始めた年齢は、高校２年生のその他の世帯において、「就学前」の割合が他世帯、他学年と比べ高くなっている。

図表 65 家族構成×世話を始めた年齢

（%）

	家族構成	調査数	就学前	小学生（低学年）	小学生（高学年）	中学生以降	無回答
小学5年生	二世代世帯	1,409	21.5	32.6	30.7	－	15.2
	三世代世帯	553	13.9	31.5	36.5	－	18.1
	ひとり親家庭	156	14.7	31.4	34.0	－	19.9
	その他の世帯	21	19.0	42.9	14.3	－	23.8
中学2年生	二世代世帯	386	25.6	6.2	12.2	41.2	14.8
	三世代世帯	164	15.9	7.3	7.9	52.4	16.5
	ひとり親家庭	54	20.4	3.7	11.1	55.6	9.3
高校2年生	二世代世帯	163	37.4	3.7	6.1	36.2	16.6
	三世代世帯	104	24.0	1.9	6.7	56.7	10.6
	ひとり親家庭	37	29.7	2.7	0.0	51.4	16.2
	その他の世帯	13	53.8	0.0	0.0	30.8	15.4

※中学２年生「その他の世帯」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

④ 家族構成×世話を一緒にしている人

ひとり親家庭は、世話をする人が「自分のみ」の割合が他世帯に比べ高くなっている。三世代世帯では、「福祉サービス（ヘルパーなど）を利用」の割合が他世帯に比べ高くなっている。

図表 66 家族構成×世話を一緒にしている人（複数回答）

（%）

	家族構成	調査数	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービスを利用	その他	無回答
小学5年生	二世代世帯	1,409	54.6	39.8	8.7	5.3	28.2	1.6	8.9	0.5	4.5	20.9
	三世代世帯	553	51.5	35.6	26.8	17.0	27.3	2.7	9.4	2.2	3.8	18.6
	ひとり親家庭	156	48.1	9.0	9.6	4.5	20.5	1.3	12.8	0.6	5.1	19.9
	その他の世帯	21	42.9	33.3	14.3	9.5	42.9	0.0	4.8	0.0	14.3	19.0
中学2年生	二世代世帯	386	40.4	31.9	7.0	5.7	21.8	2.1	5.4	1.6	4.7	40.7
	三世代世帯	164	45.1	31.1	26.8	15.9	25.0	4.9	6.7	5.5	4.3	34.1
	ひとり親家庭	54	42.6	7.4	3.7	1.9	22.2	3.7	7.4	0.0	0.0	37.0
高校2年生	二世代世帯	163	29.4	17.8	3.1	2.5	14.1	0.0	3.7	0.6	3.1	55.8
	三世代世帯	104	41.3	24.0	10.6	8.7	22.1	4.8	4.8	8.7	3.8	40.4
	ひとり親家庭	37	27.0	0.0	2.7	2.7	18.9	5.4	10.8	2.7	2.7	45.9
	その他の世帯	13	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	7.7	0.0	76.9

※中学２年生「その他の世帯」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

⑤ 家族構成×世話の頻度

いずれの学年もひとり親家庭の「ほぼ毎日」の割合は高い傾向にあり、中学２年生と高校２年生は他世帯に比べ大幅に高くなっている。

図表 67 家族構成×世話の頻度

（%）

	家族構成	調査数	ほぼ毎日	週に3～5回	週に1～2回	1か月に数日	その他	無回答
小学5年生	二世代世帯	1,409	36.6	16.2	15.8	9.1	4.1	18.2
	三世代世帯	553	36.3	17.5	13.4	10.8	1.3	20.6
	ひとり親家庭	156	36.5	18.6	10.9	7.7	3.8	22.4
	その他の世帯	21	28.6	38.1	9.5	0.0	0.0	23.8
中学2年生	二世代世帯	386	35.0	10.4	10.9	7.0	3.1	33.7
	三世代世帯	164	32.3	14.6	9.8	6.7	3.0	33.5
	ひとり親家庭	54	50.0	7.4	14.8	5.6	0.0	22.2
高校2年生	二世代世帯	163	19.0	8.6	11.0	9.2	0.6	51.5
	三世代世帯	104	26.0	18.3	8.7	5.8	2.9	38.5
	ひとり親家庭	37	37.8	2.7	10.8	5.4	0.0	43.2
	その他の世帯	13	7.7	0.0	0.0	0.0	15.4	76.9

※中学２年生「その他の世帯」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

⑥ 家族構成×世話に費やす時間

世話に費やす時間について、全体的に「３時間未満」の割合が高いものの、小学５年生ではひとり親家庭とその他世帯において、「７時間以上」の割合が１割を超えている。

図表 68 家族構成×世話に費やす時間（平日１日あたり）

（%）

	家族構成	調査数	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	無回答
小学5年生	二世代世帯	1,409	63.2	13.0	9.7	14.1
	三世代世帯	553	64.0	11.8	8.3	15.9
	ひとり親家庭	156	59.6	10.9	10.9	18.6
	その他の世帯	21	52.4	9.5	14.3	23.8
中学2年生	二世代世帯	386	71.5	8.5	6.7	13.2
	三世代世帯	164	68.9	7.9	8.5	14.6
	ひとり親家庭	54	66.7	16.7	5.6	11.1
高校2年生	二世代世帯	163	75.5	4.3	6.1	14.1
	三世代世帯	104	76.0	7.7	3.8	12.5
	ひとり親家庭	37	78.4	5.4	2.7	13.5
	その他の世帯	13	69.2	15.4	0.0	15.4

※中学２年生「その他の世帯」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

⑦ 家族構成×世話による制約

ひとり親家庭では、世話による制約として「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」、「自分の時間が取れない」の割合が他に比べやや高くなっている。

図表 69 家族構成×世話をしているために、やりたいけれどできていないこと（複数回答）

（%）

	家族構成	調査数	学校を休んでしまう	遅刻や早退をしてしまう	宿題など勉強する時間がない	眠る時間がたりない	友達と遊ぶことができない	習い事ができない	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
小学5年生	二世代世帯	1,409	2.6	2.6	5.7	4.9	4.6	0.3	8.4	1.1	78.4	4.6
	三世代世帯	553	2.5	3.3	6.9	8.3	8.0	0.7	10.5	0.5	73.8	4.2
	ひとり親家庭	156	6.4	4.5	7.7	9.0	6.4	1.9	13.5	2.6	66.7	5.8
	その他の世帯	21	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	9.5	0.0	76.2	9.5

（%）

	家族構成	調査数	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、または辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
中学2年生	二世代世帯	386	0.3	0.5	8.0	5.4	4.9	1.6	1.6	7.3	2.6	71.5	10.1
	三世代世帯	164	1.2	2.4	9.1	6.7	5.5	1.2	1.2	6.1	2.4	70.1	8.5
	ひとり親家庭	54	1.9	3.7	11.1	16.7	11.1	1.9	1.9	9.3	0.0	68.5	0.8
高校2年生	二世代世帯	160	2.5	1.3	4.4	3.8	6.3	1.3	0.6	3.8	1.9	63.8	18.8
	三世代世帯	103	2.9	0.0	6.8	9.7	3.9	0.0	1.0	1.9	1.0	67.0	14.6
	ひとり親家庭	32	3.1	6.3	3.1	9.4	6.3	0.0	3.1	15.6	3.1	43.8	28.1
	その他の世帯	13	0.0	0.0	7.7	7.7	7.7	0.0	0.0	7.7	15.4	61.5	15.4

※中学２年生「その他の世帯」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

⑧ 家族構成×世話をすることに感じているきつさ

世話をすることに感じている大変さ・きつさは、小学５年生はその他の世帯がすべての項目で他世帯に比べ高く、中学２年生、高校２年生は、ひとり親家庭の割合が高い傾向にある。

図表 70 家族構成×世話をすることに感じている大変さ・きつさ（複数回答）

（%）

	家族構成	調査数	体力の面で大変	気持ちの面で大変	時間の余裕がない	特に大変さは感じていない	無回答
小学5年生	二世代世帯	1,409	10.6	12.3	10.1	57.6	17.1
	三世代世帯	553	12.7	14.8	9.8	56.2	15.6
	ひとり親家庭	156	10.3	13.5	12.2	53.8	19.9
	その他の世帯	21	28.6	19.0	14.3	33.3	19.0

（%）

	家族構成	調査数	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつさは感じていない	無回答
中学2年生	二世代世帯	386	5.7	8.8	8.3	55.7	27.7
	三世代世帯	164	6.7	17.1	7.9	56.7	22.6
	ひとり親家庭	54	13.0	13.0	14.8	50.0	25.9
高校2年生	二世代世帯	163	3.7	4.3	4.9	47.2	41.7
	三世代世帯	104	4.8	12.5	9.6	49.0	30.8
	ひとり親家庭	37	8.1	18.9	16.2	35.1	40.5
	その他の世帯	13	0.0	7.7	0.0	38.5	53.8

※中学２年生「その他の世帯」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

⑨ 家族構成×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援について、ひとり親家庭の小学５年生は「自由に使える時間がほしい」、中学２年生は「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」、高校２年生は「自由に使える時間がほしい」、「家庭への経済的な支援」の割合が高くなっている

図表 71 家族構成×学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援（複数回答）

（%）

	家族構成	調査数	自分のことについて話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを誰かに代わってほしい	自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい	自由に使える時間がほしい	勉強を教えてほしい	お金の面で支援してほしい	その他	特にない	わからない	無回答
小学5年生	二世代世帯	1,409	9.0	1.9	0.7	1.3	2.7	11.4	8.6	2.0	0.6	66.2	7.0	5.0
	三世代世帯	553	10.5	2.2	1.1	1.4	2.9	15.0	9.8	2.9	0.9	60.4	6.9	5.1
	ひとり親家庭	156	10.9	3.8	1.3	1.3	1.9	13.5	9.0	4.5	2.6	55.1	10.9	8.3
	その他の世帯	21	23.8	0.0	0.0	0.0	0.0	19.0	23.8	4.8	0.0	47.6	9.5	4.8

（%）

	家族構成	調査数	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート
中学2年生	二世代世帯	386	8.0	1.8	1.0	2.6	0.8	11.4	8.3	10.1
	三世代世帯	164	11.6	3.7	3.0	3.0	0.6	14.6	13.4	12.2
	ひとり親家庭	54	11.1	1.9	0.0	0.0	0.0	9.3	7.4	16.7
高校2年生	二世代世帯	163	8.0	3.7	2.5	0.0	0.6	6.7	7.4	5.5
	三世代世帯	104	2.9	1.0	3.8	2.9	2.9	4.8	5.8	8.7
	ひとり親家庭	37	8.1	5.4	0.0	0.0	2.7	21.6	16.2	10.8
	その他の世帯	13	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	家族構成	調査数	家庭への経済的な支援	わからない	その他	特にない	無回答
中学2年生	二世代世帯	386	1.3	7.3	2.1	60.9	10.4
	三世代世帯	164	4.3	4.3	1.8	55.5	9.8
	ひとり親家庭	54	11.1	9.3	0.0	61.1	7.4
高校2年生	二世代世帯	163	1.2	4.9	1.2	52.1	19.0
	三世代世帯	104	1.9	12.5	0.0	54.8	12.5
	ひとり親家庭	37	18.9	0.0	2.7	32.4	35.1
	その他の世帯	13	0.0	7.7	15.4	61.5	7.7

※中学２年生「その他の世帯」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

（４）平日１日あたりの世話に費やす時間による生活状況等

① 平日１日あたりの世話に費やす時間×健康状態

世話に費やす時間が１日７時間以上の場合、７時間未満に比べ、健康状態が「よくない」、「あまりよくない」の割合が高くなる傾向にある。

図表 72 世話に費やす時間（平日１日あたり）×健康状態

（%）

	費やす時間	調査数	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
小学5年生	３時間未満	1,369	57.4	17.9	18.8	3.9	0.5	1.4
	３～７時間未満	268	53.4	16.4	21.3	6.3	1.5	1.1
	７時間以上	204	56.9	16.7	18.6	5.4	0.5	2.0
中学2年生	３時間未満	441	41.7	22.7	26.1	7.7	1.4	0.5
	３～７時間未満	55	36.4	21.8	32.7	9.1	0.0	0.0
	７時間以上	45	33.3	13.3	28.9	20.0	2.2	2.2
高校2年生	３時間未満	234	44.9	21.8	20.9	9.0	2.1	1.3
	３～７時間未満	16	18.8	25.0	43.8	6.3	0.0	6.3
	７時間以上	14	21.4	35.7	28.6	7.1	7.1	0.0

② 平日１日あたりの世話に費やす時間×欠席の状況

世話に費やす時間が１日７時間以上の場合、７時間未満に比べ、中学２年生、高校２年生の「よく欠席する」割合が高くなっている

図表 73 世話に費やす時間（平日１日あたり）×欠席の状況

（%）

	費やす時間	調査数	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
小学5年生	３時間未満	1,369	70.6	26.7	1.9	0.8
	３～７時間未満	268	61.2	34.0	4.1	0.7
	７時間以上	204	66.2	29.4	3.4	1.0
中学2年生	３時間未満	441	73.5	18.1	6.1	2.3
	３～７時間未満	55	72.7	16.4	10.9	0.0
	７時間以上	45	62.2	24.4	13.3	0.0
高校2年生	３時間未満	234	70.5	21.4	6.4	1.7
	３～７時間未満	16	75.0	25.0	0.0	0.0
	７時間以上	14	64.3	21.4	14.3	0.0

③ 平日１日あたりの世話に費やす時間×遅刻や早退の状況

世話に費やす時間が１日７時間以上の場合、７時間未満に比べ、いずれの学年も遅刻や早退を「よくする」割合が高くなっている。

図表 74 世話に費やす時間（平日１日あたり）×遅刻や早退の状況

（%）

	費やす時間	調査数	ほとんどしない	たまにする	よくする	無回答
小学5年生	３時間未満	1,369	78.7	18.1	2.4	0.7
	３～７時間未満	268	71.6	23.9	4.1	0.4
	７時間以上	204	66.7	25.5	4.9	2.9
中学2年生	３時間未満	441	76.2	19.0	3.2	1.6
	３～７時間未満	55	69.1	27.3	3.6	0.0
	７時間以上	45	60.0	22.2	17.8	0.0
高校2年生	３時間未満	234	80.8	16.7	1.7	0.9
	３～７時間未満	16	87.5	12.5	0.0	0.0
	７時間以上	14	78.6	14.3	7.1	0.0

④ 平日１日あたりの世話に費やす時間×学校生活等であてはまること

学校生活等であてはまることについて、世話に費やす時間が１日７時間以上の場合、７時間未満に比べ、いずれの学年も「授業中に居眠りをすることが多い」、「宿題や課題ができていないことが多い」、「部活動や習い事を休むことが多い」、「提出物を出すのが遅れることが多い」などの項目で割合が高くなっている。

図表 75 世話に費やす時間（平日１日あたり）×学校生活等であてはまること（複数回答）

（%）

	費やす時間	調査数	授業中に寝てしまうことが多い	宿題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
小学5年生	３時間未満	1,369	6.8	12.4	28.9	3.0	18.3	0.8	1.5	6.5	6.2	53.6	2.3
	３～７時間未満	268	7.1	12.7	31.0	3.4	19.0	0.4	5.6	6.7	6.3	52.2	1.9
	７時間以上	204	11.8	17.2	28.4	3.9	26.0	0.0	4.4	9.8	11.8	44.6	2.0

（%）

	費やす時間	調査数	授業中に居眠りをすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出物（書類等）の提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では１人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
中学２年生	３時間未満	441	21.3	24.5	29.9	10.7	31.1	1.4	2.3	7.7	7.9	38.3	3.4
	３～７時間未満	55	32.7	36.4	29.1	3.6	32.7	0.0	3.6	12.7	7.3	34.5	1.8
	７時間以上	45	33.3	37.8	26.7	24.4	37.8	4.4	11.1	15.6	20.0	33.3	0.0
高校２年生	３時間未満	234	39.3	14.1	12.0	8.1	11.1	2.1	2.6	7.3	7.3	41.9	4.7
	３～７時間未満	16	25.0	25.0	18.8	12.5	12.5	6.3	0.0	0.0	0.0	43.8	0.0
	７時間以上	14	42.9	35.7	14.3	28.6	28.6	7.1	7.1	0.0	7.1	42.9	0.0

⑤ 平日１日あたりの世話に費やす時間×現在の悩みや困りごと

世話に費やす時間が１日７時間以上の場合、７時間未満に比べて、小学５年生は「学校の成績のこと」、「家族のこと」の割合が高くなっている。中学２年生と高校２年生は３時間以上の場合、「学業成績のこと」、「進路のこと」をあげる割合が高いものの、その他多くの項目で高くなっている。

図表 76 世話に費やす時間（平日１日あたり）×現在の悩みや困りごと（複数回答）

（%）

	費やす時間	調査数	友達のこと	学校の成績のこと	習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特にない	無回答
小学５年生	３時間未満	1,369	12.6	11.8	7.1	6.3	3.1	5.6	4.3	65.1	2.7
	３～７時間未満	268	16.8	13.4	7.5	10.4	5.2	8.2	2.2	60.1	2.2
	７時間以上	204	16.7	18.6	7.4	13.7	5.9	9.3	5.4	52.5	2.0

（%）

	費やす時間	調査数	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと	塾（オンライン含む）や習い事ができない	家庭の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	家庭内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）
中学2年生	３時間未満	441	15.6	35.1	35.8	12.9	3.4	3.4	3.6	10.2	7.0
	３～７時間未満	55	25.5	50.9	52.7	10.9	7.3	3.6	7.3	12.7	18.2
	７時間以上	45	22.2	40.0	51.1	13.3	11.1	2.2	8.9	22.2	11.1
高校2年生	３時間未満	234	15.4	29.1	41.0	15.8	6.4	1.3	7.7	9.8	4.7
	３～７時間未満	16	12.5	37.5	62.5	12.5	18.8	0.0	25.0	31.3	31.3
	７時間以上	14	28.6	42.9	35.7	14.3	21.4	7.1	14.3	14.3	7.1

	費やす時間	調査数	病気や障がいのある家族がいる	自分のために使える時間が少ない	その他	特にない	無回答
中学2年生	３時間未満	441	4.8	3.9	2.7	40.4	2.5
	３～７時間未満	55	3.6	9.1	7.3	16.4	3.6
	７時間以上	45	6.7	13.3	8.9	22.2	2.2
高校2年生	３時間未満	234	6.0	8.1	2.1	32.1	6.4
	３～７時間未満	16	18.8	12.5	6.3	6.3	0.0
	７時間以上	14	7.1	0.0	7.1	35.7	7.1

⑥ 平日１日あたりの世話に費やす時間×世話をすることに感じる大変さ・きつさ

世話に費やす時間が１日７時間以上の場合、「身体的にきつい（大変）」、「精神的にきつい（大変）」、「時間的余裕がない」のいずれの面においても、３時間未満に比べて割合が高くなっている。

図表 77 世話に費やす時間（平日１日あたり）×世話をすることに感じるきつさ（複数回答）

（%）

	費やす時間	調査数	体力の面で大変	気持ちの面で大変	時間の余裕がない	特に大変さは感じていない	無回答
小学5年生	３時間未満	1,369	10.0	11.2	8.7	63.3	12.1
	３～７時間未満	268	17.9	20.1	20.1	54.9	2.6
	７時間以上	204	24.5	30.9	18.6	48.0	5.9

（%）

	費やす時間	調査数	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつさは感じていない	無回答
中学2年生	３時間未満	441	5.9	10.7	7.7	58.0	24.7
	３～７時間未満	55	10.9	18.2	14.5	60.0	10.9
	７時間以上	45	17.8	22.2	20.0	57.8	8.9
高校2年生	３時間未満	234	4.3	6.0	5.6	47.0	39.3
	３～７時間未満	16	12.5	31.3	18.8	50.0	6.3
	７時間以上	14	7.1	7.1	14.3	50.0	35.7

⑦ 平日１日あたりの世話に費やす時間×世話について相談した経験

世話に費やす時間が１日３時間以上の場合、３時間未満に比べて、世話について相談した経験が「ある」の割合が高くなっている。

図表 78 世話に費やす時間（平日１日あたり）×世話についた相談した経験

（%）

	費やす時間	調査数	ある	ない	無回答
小学5年生	３時間未満	1,369	16.9	67.3	15.9
	３～７時間未満	268	20.5	72.4	7.1
	７時間以上	204	20.6	73.0	6.4
中学2年生	３時間未満	441	12.7	56.9	30.4
	３～７時間未満	55	25.5	61.8	12.7
	７時間以上	45	22.2	68.9	8.9
高校2年生	３時間未満	234	10.3	46.2	43.6
	３～７時間未満	16	25.0	68.8	6.3
	７時間以上	14	14.3	57.1	28.6

⑧ 平日１日あたりの世話に費やす時間×世話に関する相談相手

世話についての相談相手については、全体的に「家族（お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい）」の割合が高く、世話に費やす時間が長くなるほど、「友人」、「SNS上での知り合い」の割合が高くなっている。

図表 79 世話に費やす時間（平日１日あたり）×世話に関する相談相手（複数回答）

（%）

	費やす時間	調査数	家族（お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい）	しんせき（おじ、おばなど）	友だち	学校の先生（保健室の先生以外）	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	病院・医療・福祉サービスの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
小学5年生	３時間未満	231	86.1	4.3	22.5	9.5	1.7	3.0	0.0	1.7	0.9	0.4	6.1
	３～７時間未満	55	72.7	9.1	29.1	18.2	3.6	1.8	1.8	3.6	1.8	1.8	7.3
	７時間以上	42	85.7	2.4	31.0	11.9	2.4	7.1	2.4	2.4	4.8	4.8	4.8

（%）

	費やす時間	調査数	家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）	親戚（おじ、おばなど）	友人	学校の先生（保健室の先生以外）	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	医師や看護師、その他病院の人	ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人
中学2年生	３時間未満	56	60.7	5.4	42.9	23.2	8.9	16.1	1.8	0.0
	３～７時間未満	14	35.7	21.4	42.9	21.4	7.1	21.4	0.0	7.1
	７時間以上	10	80.0	30.0	40.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
高２	３時間未満	24	70.8	16.7	41.7	12.5	4.2	0.0	4.2	0.0

	費やす時間	調査数	役所や保健センターの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
中学2年生	３時間未満	56	1.8	3.6	3.6	3.6	5.4
	３～７時間未満	14	7.1	0.0	14.3	0.0	7.1
	７時間以上	10	10.0	10.0	20.0	10.0	10.0
高２	３時間未満	24	4.2	0.0	12.5	0.0	8.3

※高校２年生「３～７時間未満」「７時間以上」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

⑨ 平日１日あたりの世話に費やす時間×世話について相談をしたことがない理由

世話に関する相談をしたことがない理由をみると、世話に費やす時間が１日７時間以上の場合、３時間未満に比べ「相談しても状況が変わるとは思わない（何も変わらないから）」、「家族のことのため話しにくい」、「家族外の人に相談するような悩みではない」の割合が高くなっている。

図表 80 世話に費やす時間（平日１日あたり）×相談をしたことがない理由（複数回答）

（%）

	費やす時間	調査数	相談するほどの悩みではないから	誰に相談するのがよいかわからないから	相談できる人がいないから	家族のことを話したくないから	相談しても何も変わらないから	その他	無回答
小学5年生	３時間未満	921	72.7	2.9	1.7	3.1	6.7	8.6	9.8
	３～７時間未満	194	77.8	3.6	2.1	3.1	5.7	6.2	6.2
	７時間以上	149	67.1	5.4	4.7	4.0	12.8	10.1	10.1

（%）

	費やす時間	調査数	誰かに相談するほどの悩みではない	家族外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のことのため話しにくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わるとは思わない	その他	無回答
中学2年生	３時間未満	251	56.6	7.2	3.2	1.6	4.4	1.6	2.8	5.2	4.8	26.3
	３～７時間未満	34	58.8	14.7	11.8	8.8	0.0	0.0	2.9	11.8	11.8	20.6
	７時間以上	31	64.5	12.9	12.9	6.5	12.9	12.9	3.2	16.1	3.2	12.9
高校2年生	３時間未満	108	52.8	7.4	1.9	0.0	1.9	5.6	1.9	3.7	4.6	29.6
	３～７時間未満	11	63.6	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	27.3	0.0	0.0
	７時間以上	8	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0

（５）世話を必要としている家族による世話の状況等

① 世話を必要としている家族×回答者の性別

世話を必要としている家族が父母の場合、いずれの学年も「男性」が高く、祖父母、きょうだい、その他の場合は学年が上がるにつれ「女性」の割合が高くなる傾向にある。

図表 81 世話を必要としている家族×回答者の性別

（%）

	世話を必要としている家族	調査数	男性	女性	その他	無回答
小学5年生	父母	1,519	64.4	33.5	0.3	1.8
	祖父母	638	62.7	35.3	0.3	1.7
	きょうだい	1,218	50.6	47.5	0.1	1.9
	その他	112	41.1	54.5	0.0	4.5
中学2年生	父母	253	65.6	32.8	0.4	1.2
	祖父母	136	58.1	40.4	0.7	0.7
	きょうだい	253	44.7	52.6	0.8	2.0
	その他	44	45.5	50.0	4.5	0.0
高校2年生	父母	131	52.7	45.0	1.5	0.8
	祖父母	74	45.9	50.0	2.7	1.4
	きょうだい	79	38.0	57.0	1.3	3.8
	その他	17	41.2	58.8	0.0	0.0

② 世話を必要としている家族×世話を一緒にしている人

世話を必要としている家族がきょうだいの場合、小学５年生、高校２年生は「自分のみ」の割合が他の世話を必要としている家族に比べ高くなっている。一方、世話を必要としている家族が祖父母の場合、中学２年生と高校２年生は「福祉サービスを利用」の割合が他の世話を必要としている家族に比べ高くなっている。

図表 82 世話を必要としている家族×世話を一緒にしている人（複数回答）

（%）

	世話を必要としている家族	調査数	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービスを利用	その他	無回答
小学5年生	父母	1,519	53.7	39.3	14.2	9.5	28.4	2.8	6.4	0.3	6.1	24.0
	祖父母	638	54.1	37.9	30.1	22.4	28.8	3.9	6.6	1.7	4.7	21.3
	きょうだい	1,218	60.1	44.4	14.5	9.5	35.3	2.0	9.9	0.7	3.0	12.9
	その他	112	48.2	29.5	17.9	8.0	35.7	8.0	8.9	2.7	14.3	16.1
中学2年生	父母	253	36.8	28.5	8.7	7.5	21.7	3.6	5.5	2.8	7.9	40.7
	祖父母	136	47.8	31.6	19.1	10.3	19.9	7.4	8.1	8.8	8.1	27.2
	きょうだい	253	62.1	47.0	17.8	13.0	32.4	3.6	5.5	0.8	4.0	20.6
	その他	44	45.5	31.8	18.2	11.4	38.6	4.5	2.3	9.1	20.5	25.0
高校2年生	父母	131	29.8	10.7	3.8	3.1	19.1	1.5	6.1	4.6	3.1	46.6
	祖父母	74	55.4	29.7	12.2	5.4	25.7	8.1	2.7	12.2	4.1	24.3
	きょうだい	79	53.2	38.0	15.2	7.6	31.6	1.3	10.1	6.3	1.3	24.1
	その他	17	23.5	5.9	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	17.6	58.8

③ 世話を必要としている家族×世話の開始時期

世話を必要としている家族が父母の場合、高校２年生の「就学前」が最も高く、祖父母、きょうだいの場合は小学５年生の「就学前」が最も高くなっている。また、中学２年生と高校２年生は「中学生以降」に父母、祖父母、きょうだいの世話を始めた割合が高くなっている。

図表 83 世話を必要としている家族×世話を始めた年齢

（%）

	世話を必要としている家族	調査数	就学前	小学生（低学年）	小学生（高学年）	中学生以降	無回答
小学5年生	父母	1,519	19.6	29.4	28.2	－	22.7
	祖父母	638	17.7	28.5	32.4	－	21.3
	きょうだい	1,218	19.8	36.8	32.8	－	10.7
	その他	112	18.8	27.7	26.8	－	26.8
中学2年生	父母	253	28.1	6.7	7.1	40.7	17.4
	祖父母	136	16.2	5.9	7.4	55.9	14.7
	きょうだい	253	16.2	10.3	19.8	48.6	5.1
	その他	44	31.8	9.1	0.0	43.2	15.9
高校2年生	父母	131	34.4	5.3	4.6	39.7	16.0
	祖父母	74	12.2	1.4	2.7	77.0	6.8
	きょうだい	79	19.0	5.1	12.7	57.0	6.3
	その他	17	64.7	5.9	0.0	29.4	0.0

④ 世話を必要としている家族×世話の頻度

世話を必要としている家族がきょうだいの場合、いずれの学年も「ほぼ毎日」の割合が、他の世話を必要としている家族に比べ高くなっている。

図表 84 世話を必要としている家族×世話の頻度

（%）

	世話を必要としている家族	調査数	ほぼ毎日	週に3～5回	週に1～2回	1か月に数日	その他	無回答
小学5年生	父母	1,519	24.8	17.3	17.2	11.1	4.6	24.9
	祖父母	638	24.3	18.2	16.8	14.1	2.8	23.8
	きょうだい	1,218	48.3	17.3	12.7	7.4	2.5	11.7
	その他	112	39.3	19.6	10.7	8.0	8.9	13.4
中学2年生	父母	253	38.7	6.3	9.9	9.9	2.8	32.4
	祖父母	136	25.0	20.6	11.0	9.6	3.7	30.1
	きょうだい	253	52.2	15.4	12.3	5.9	1.2	13.0
	その他	44	34.1	9.1	9.1	4.5	18.2	25.0
高校2年生	父母	131	19.1	7.6	11.5	9.9	1.5	50.4
	祖父母	74	32.4	13.5	17.6	10.8	1.4	24.3
	きょうだい	79	36.7	19.0	13.9	10.1	1.3	19.0
	その他	17	17.6	0.0	5.9	0.0	11.8	64.7

⑤ 世話を必要としている家族×世話に費やす時間

世話を必要としている家族がきょうだいの場合、いずれの学年も１日３時間以上の割合が、他の世話を必要としている家族に比べ高くなっている。

図表 85 世話を必要としている家族×世話に費やす時間（平日１日あたり）

（%）

	世話を必要としている家族	調査数	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	無回答
小学5年生	父母	1,519	65.5	8.6	6.5	19.5
	祖父母	638	65.5	8.9	7.4	18.2
	きょうだい	1,218	59.7	16.5	12.5	11.3
	その他	112	56.3	9.8	18.8	15.2
中学2年生	父母	253	73.5	5.9	5.1	15.4
	祖父母	136	72.8	10.3	7.4	9.6
	きょうだい	253	70.8	11.9	10.3	7.1
	その他	44	54.5	13.6	18.2	13.6
高校2年生	父母	131	79.4	1.5	6.1	13.0
	祖父母	74	79.7	6.8	6.8	6.8
	きょうだい	79	69.6	12.7	10.1	7.6
	その他	17	94.1	0.0	0.0	5.9

⑥ 世話を必要としている家族×世話をすることに感じているきつさ

世話を必要としている家族がきょうだいの場合、小学５年生は「体力の面で大変」「気持ちの面で大変」「時間の余裕がない」が他に比べやや高くなっている。また、中学２年生と高校２年生は祖父母の場合に「精神的にきつい」が他の世話を必要としている家族に比べ高くなっている。

図表 86 世話を必要としている家族×世話をすることに感じている大変さ

（%）

	世話を必要としている家族	調査数	体力の面で大変	気持ちの面で大変	時間の余裕がない	特に大変さは感じていない	無回答
小学5年生	父母	1,519	10.9	10.5	8.3	55.0	21.9
	祖父母	638	11.0	12.1	8.6	58.5	18.7
	きょうだい	1,218	13.1	14.9	12.2	59.1	10.8
	その他	112	15.2	17.9	13.4	50.9	17.0

図表 87 世話を必要としている家族×世話をすることに感じているきつさ

（%）

	世話を必要としている家族	調査数	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつさは感じていない	無回答
中学2年生	父母	253	9.5	10.7	8.7	54.5	26.9
	祖父母	136	6.6	19.1	12.5	56.6	16.2
	きょうだい	253	8.3	11.9	12.3	63.6	15.8
	その他	44	15.9	18.2	11.4	47.7	25.0
高校2年生	父母	131	6.1	6.1	3.1	46.6	38.9
	祖父母	74	5.4	16.2	9.5	59.5	17.6
	きょうだい	79	3.8	11.4	11.4	58.2	20.3
	その他	17	0.0	5.9	5.9	47.1	41.2

⑦ 世話を必要としている家族×世話に関する相談の経験

世話を必要としている家族がきょうだいの場合、世話について相談した経験がいずれの学年も「ない」割合が、他の世話を必要としている家族に比べ高くなっている。

図表 88 世話を必要としている家族×世話に関する相談の経験

（%）

	世話を必要としている家族	調査数	ある	ない	無回答
小学5年生	父母	1,519	16.9	59.5	23.6
	祖父母	638	18.5	61.6	19.9
	きょうだい	1,218	16.6	69.5	14.0
	その他	112	17.0	65.2	17.9
中学2年生	父母	253	13.0	52.2	34.8
	祖父母	136	12.5	60.3	27.2
	きょうだい	253	17.4	65.6	17.0
	その他	44	15.9	54.5	29.5
高校2年生	父母	131	15.3	40.5	44.3
	祖父母	74	14.9	59.5	25.7
	きょうだい	79	12.7	63.3	24.1
	その他	17	0.0	47.1	52.9

⑧ 世話を必要としている家族×世話について相談したことがない理由

世話について相談したことがない理由について、世話を必要としている家族を問わず、いずれの学年も「誰かに相談するほどの悩みではない」の割合が高くなっている。

図表 89 世話を必要としている家族×世話について相談したことがない理由（複数回答）

（%）

	世話を必要としている家族	調査数	相談するほどの悩みではないから	誰に相談するのがよいかわからないから	相談できる人がいないから	家族のことを話したくないから	相談しても何も変わらないから	その他	無回答
小学5年生	父母	904	66.5	4.5	2.1	3.5	5.6	7.7	15.4
	祖父母	393	71.5	2.3	1.0	3.8	5.6	6.9	13.5
	きょうだい	846	73.3	2.8	1.5	2.1	7.3	9.8	8.9
	その他	73	57.5	5.5	2.7	5.5	6.8	20.5	12.3

（%）

	世話を必要としている家族	調査数	誰かに相談するほどの悩みではない	家族外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のことのため話しにくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わるとは思わない	その他	無回答
中学2年生	父母	132	53.8	2.3	3.8	4.5	4.5	3.0	1.5	6.1	9.8	29.5
	祖父母	82	51.2	7.3	3.7	6.1	4.9	2.4	3.7	9.8	7.3	23.2
	きょうだい	166	64.5	9.0	5.4	3.6	4.8	1.8	1.8	7.2	5.4	19.9
	その他	24	66.7	12.5	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	29.2
高校2年生	父母	53	39.6	0.0	3.8	0.0	5.7	3.8	1.9	5.7	1.9	43.4
	祖父母	44	61.4	4.5	6.8	0.0	0.0	4.5	0.0	6.8	6.8	13.6
	きょうだい	50	64.0	16.0	2.0	0.0	4.0	2.0	2.0	10.0	0.0	16.0
	その他	8	25.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	37.5

（６）世話をすることに感じているきつさによる世話の状況の違い

① 世話をすることに感じている大変さ・きつさ×世話対象の状況

父母の状況をみると、いずれの学年も「身体的にきつい（体力の面で大変）」において、「高齢（65歳以上）」の割合が高くなっている。

図表 90 世話をすることに感じている大変さ・きつさ×父母の状況（複数回答）

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	高齢（65歳以上）	要介護（食事や身の回りのお世話）が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	こころの病気（うつ病など）
小学5年生	体力の面で大変	98	4.1	2.0	1.0	1.0	0.0	0.0
	気持ちの面で大変	100	8.0	3.0	5.0	3.0	0.0	2.0
	時間の余裕がない	78	3.8	6.4	2.6	0.0	0.0	3.8
	特に大変さは感じていない	498	3.4	2.4	0.4	0.2	0.2	0.4

	大変さ・きつさ	調査数	依存症	こころの病気、依存症以外の病気	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
小学5年生	体力の面で大変	98	0.0	1.0	3.1	3.1	55.1	8.2
	気持ちの面で大変	100	0.0	0.0	6.0	9.0	47.0	4.0
	時間の余裕がない	78	1.3	1.3	10.3	12.8	35.9	11.5
	特に大変さは感じていない	498	0.4	0.0	2.4	5.6	43.4	6.2

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	高齢（65歳以上）	要介護（食事や身の回りのお世話）が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患
中学2年生	身体的にきつい	30	6.7	3.3	3.3	0.0	0.0	0.0
	精神的にきつい	50	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0
	時間的余裕がない	42	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4
	特にきつさは感じていない	228	3.1	1.8	0.4	1.8	0.9	0.4
高校2年生	身体的にきつい	9	22.2	11.1	0.0	11.1	0.0	22.2
	精神的にきつい	18	16.7	0.0	5.6	11.1	0.0	5.6
	時間的余裕がない	16	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	特にきつさは感じていない	91	3.3	0.0	1.1	3.3	0.0	0.0

	大変さ・きつさ	調査数	依存症（アルコールやギャンブルなど）	精神疾患、依存症以外の病気	日本語を第一言語としない	その他	無回答
中学2年生	身体的にきつい	30	0.0	0.0	3.3	16.7	13.3
	精神的にきつい	50	0.0	4.0	0.0	14.0	12.0
	時間的余裕がない	42	0.0	4.8	0.0	7.1	9.5
	特にきつさは感じていない	228	0.9	1.3	0.9	7.9	5.3
高校2年生	身体的にきつい	9	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1
	精神的にきつい	18	0.0	0.0	0.0	5.6	5.6
	時間的余裕がない	16	0.0	0.0	6.3	0.0	12.5
	特にきつさは感じていない	91	0.0	0.0	3.3	13.2	8.8

祖父母の状況をみると、中学２年生と高校２年生は「精神的にきつい（気持ちの面で大変）」において、「高齢（65歳以上）」の割合が最も高く、小学５年生は「体力の面で大変」、「気持ちの面で大変」において、「高齢（65歳以上）」の割合が同程度で高くなっている。

図表 91 世話をすることに感じている大変さ・きつさ×祖父母の状況（複数回答）

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	高齢（65歳以上）	要介護（食事や身の回りのお世話）が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	こころの病気（うつ病など）
小学5年生	体力の面で大変	48	37.5	10.4	8.3	4.2	4.2	0.0
	気持ちの面で大変	55	43.6	12.7	12.7	1.8	3.6	3.6
	時間の余裕がない	39	28.2	5.1	10.3	5.1	0.0	7.7
	特に大変さは感じていない	247	36.4	6.9	2.4	3.2	0.0	1.2

	大変さ・きつさ	調査数	依存症	こころの病気、依存症以外の病気	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
小学5年生	体力の面で大変	48	0.0	0.0	2.1	4.2	25.0	6.3
	気持ちの面で大変	55	0.0	0.0	3.6	5.5	32.7	5.5
	時間の余裕がない	39	2.6	0.0	5.1	17.9	28.2	12.8
	特に大変さは感じていない	247	0.4	0.4	1.2	3.6	28.7	4.5

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	高齢（65歳以上）	要介護（食事や身の回りのお世話）が必要	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患
中学2年生	身体的にきつい	30	6.7	3.3	3.3	6.7	6.7	0.0
	精神的にきつい	50	16.0	12.0	12.0	6.0	4.0	0.0
	時間的余裕がない	42	11.9	7.1	7.1	4.8	2.4	0.0
	特にきつさは感じていない	228	14.9	2.6	4.4	1.3	0.0	0.0
高校2年生	身体的にきつい	9	11.1	0.0	22.2	11.1	0.0	0.0
	精神的にきつい	18	38.9	16.7	22.2	22.2	5.6	0.0
	時間的余裕がない	16	31.3	6.3	25.0	6.3	0.0	0.0
	特にきつさは感じていない	91	29.7	6.6	4.4	4.4	0.0	0.0

	大変さ・きつさ	調査数	依存症（アルコールやギャンブルなど）	精神疾患、依存症以外の病気	日本語を第一言語としない	その他	無回答
中学2年生	身体的にきつい	30	3.3	0.0	0.0	3.3	3.3
	精神的にきつい	50	2.0	2.0	0.0	4.0	0.0
	時間的余裕がない	42	0.0	2.4	0.0	0.0	4.8
	特にきつさは感じていない	228	0.0	0.4	0.0	0.0	0.9
高校2年生	身体的にきつい	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	精神的にきつい	18	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	時間的余裕がない	16	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3
	特にきつさは感じていない	91	0.0	0.0	0.0	1.1	1.1

きょうだいの状況をみると、小学５年生はいずれの面においても、「幼い」割合が最も高くなっている。中学２年生、高校２年生は「時間的余裕がない」において、「幼い」割合が最も高くなっている。

図表 92 世話をすることに感じている大変さ・きつさ×きょうだいの状況（複数回答）

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	幼い	介護（食事や身の回りのお世話）が必要	身体障がい	知的障がい	病気	日本語が苦手	その他	わからない	無回答
小学5年生	体力の面で大変	160	58.8	6.3	0.6	1.9	1.3	5.0	11.3	15.6	6.3
	気持ちの面で大変	181	54.7	5.5	1.7	5.0	2.2	4.4	12.7	16.0	4.4
	時間の余裕がない	148	55.4	5.4	2.0	2.7	1.4	3.4	14.9	16.9	4.1
	特に大変さは感じていない	720	44.0	2.2	1.1	1.7	0.8	2.6	11.3	21.7	4.0

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	幼い	介護（食事や身の回りのお世話）が必要	身体障がい	知的障がい	精神疾患	精神疾患、依存症以外の病気	日本語を第一言語としない	その他	無回答
中学2年生	身体的にきつい	30	43.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0
	精神的にきつい	50	30.0	0.0	0.0	4.0	2.0	0.0	2.0	6.0	6.0
	時間的余裕がない	42	50.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	2.4	4.8	0.0
	特にきつさは感じていない	228	50.4	0.0	1.3	3.1	0.4	0.0	0.9	6.1	3.5
高校2年生	身体的にきつい	9	22.2	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	精神的にきつい	18	11.1	0.0	11.1	16.7	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
	時間的余裕がない	16	43.8	0.0	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3
	特にきつさは感じていない	91	28.6	0.0	2.2	4.4	0.0	0.0	2.2	1.1	3.3

② 世話をすることに感じている大変さ・きつさ×世話内容

父母への世話の内容について、いずれの面においても「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が最も高くなっている。

図表 93 世話をすることに感じている大変さ・きつさ×父母への世話の内容（複数回答）

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいのお世話や送り迎え	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩に一緒に行く	病院に一緒に行く	話を聞く	見守り
小学5年生	体力の面で大変	98	62.2	16.3	21.4	16.3	7.1	26.5	26.5
	気持ちの面で大変	100	59.0	20.0	16.0	28.0	5.0	28.0	32.0
	時間の余裕がない	78	70.5	23.1	20.5	32.1	7.7	28.2	28.2
	特に大変さは感じていない	498	53.6	10.2	9.4	21.1	4.8	19.1	11.0

	大変さ・きつさ	調査数	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
小学5年生	体力の面で大変	98	1.0	11.2	3.1	8.2	8.2
	気持ちの面で大変	100	2.0	10.0	9.0	7.0	8.0
	時間の余裕がない	78	6.4	11.5	7.7	2.6	10.3
	特に大変さは感じていない	498	1.8	3.8	3.0	6.2	16.7

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいのお世話や送り迎え	身体的な介護（入浴やトイレのお世話）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り
中学2年生	身体的にきつい	30	40.0	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0	3.3
	精神的にきつい	50	22.0	4.0	0.0	4.0	0.0	4.0	2.0
	時間的余裕がない	42	21.4	4.8	2.4	4.8	0.0	2.4	2.4
	特にきつさは感じていない	228	12.7	0.9	0.9	6.1	0.0	2.2	4.4
高校2年生	身体的にきつい	9	44.4	11.1	0.0	11.1	0.0	22.2	22.2
	精神的にきつい	18	22.2	11.1	0.0	5.6	0.0	11.1	11.1
	時間的余裕がない	16	12.5	0.0	0.0	6.3	0.0	6.3	0.0
	特にきつさは感じていない	91	16.5	2.2	2.2	5.5	2.2	2.2	4.4

	大変さ・きつさ	調査数	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	服薬管理	その他	無回答
中学2年生	身体的にきつい	30	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	精神的にきつい	50	0.0	2.0	2.0	2.0	4.0
	時間的余裕がない	42	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0
	特にきつさは感じていない	228	0.4	2.2	0.0	1.3	2.2
高校2年生	身体的にきつい	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	精神的にきつい	18	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6
	時間的余裕がない	16	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3
	特にきつさは感じていない	91	3.3	1.1	0.0	1.1	4.4

祖父母への世話の内容について、いずれの面においても、小学５年生は「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が最も高く、中学２年生と高校２年生は「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」、「見守り」の割合が高くなっている。

図表 94 世話をすることに感じている大変さ・きつさ×祖父母への世話の内容（複数回答）

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩に一緒に行く	病院に一緒に行く	話を聞く	見守り	通訳（日本語や手話など）
小学5年生	体力の面で大変	48	66.7	22.9	29.2	12.5	35.4	41.7	4.2
	気持ちの面で大変	55	56.4	12.7	21.8	3.6	27.3	43.6	3.6
	時間の余裕がない	39	69.2	12.8	33.3	5.1	23.1	30.8	5.1
	特に大変さは感じていない	247	49.0	9.7	27.5	7.3	25.9	18.6	0.8

	大変さ・きつさ	調査数	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
小学5年生	体力の面で大変	48	16.7	10.4	22.9	8.3
	気持ちの面で大変	55	10.9	14.5	20.0	9.1
	時間の余裕がない	39	10.3	15.4	20.5	12.8
	特に大変さは感じていない	247	5.7	6.5	16.2	19.0

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	身体的な介護（入浴やトイレのお世話）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り
中学2年生	身体的にきつい	30	10.0	6.7	3.3	0.0	6.7	13.3
	精神的にきつい	50	14.0	6.0	6.0	2.0	10.0	18.0
	時間的余裕がない	42	9.5	4.8	7.1	4.8	9.5	9.5
	特にきつさは感じていない	228	4.8	1.8	4.8	2.6	4.4	10.1
高校2年生	身体的にきつい	9	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	22.2
	精神的にきつい	18	22.2	5.6	11.1	0.0	16.7	33.3
	時間的余裕がない	16	18.8	0.0	12.5	6.3	12.5	25.0
	特にきつさは感じていない	91	15.4	3.3	5.5	0.0	8.8	15.4

	大変さ・きつさ	調査数	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	服薬管理	その他	無回答
中学2年生	身体的にきつい	30	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0
	精神的にきつい	50	2.0	2.0	4.0	2.0	2.0
	時間的余裕がない	42	2.4	2.4	4.8	2.4	0.0
	特にきつさは感じていない	228	0.0	0.4	0.9	0.4	3.5
高校2年生	身体的にきつい	9	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0
	精神的にきつい	18	5.6	11.1	11.1	0.0	0.0
	時間的余裕がない	16	0.0	6.3	0.0	0.0	6.3
	特にきつさは感じていない	91	0.0	0.0	1.1	1.1	3.3

きょうだいへの世話の内容について、いずれの面においても、小学５年生は「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」、中学２年生は「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が最も高くなっている。また、高校２年生は「時間的余裕がない」において、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」の割合が高くなっている。

図表 95 世話をすることに感じている大変さ・きつさ×きょうだいへの世話の内容（複数回答）

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいのお世話や送り迎え	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩に一緒に行く	病院に一緒に行く	話を聞く
小学5年生	体力の面で大変	160	48.1	39.4	26.3	25.6	6.3	24.4
	気持ちの面で大変	181	44.8	40.9	25.4	23.2	3.9	29.3
	時間の余裕がない	148	53.4	43.2	33.8	27.7	4.7	30.4
	特に大変さは感じていない	720	35.7	28.5	16.4	16.3	1.9	17.6

	大変さ・きつさ	調査数	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
小学5年生	体力の面で大変	160	35.6	4.4	8.1	4.4	6.9	6.3
	気持ちの面で大変	181	40.9	2.2	5.5	7.7	8.3	6.1
	時間の余裕がない	148	43.9	2.0	7.4	4.7	6.1	6.1
	特に大変さは感じていない	720	28.3	1.4	1.7	1.4	9.2	9.7

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）
中学2年生	身体的にきつい	30	26.7	36.7	6.7	20.0	0.0	6.7
	精神的にきつい	50	20.0	28.0	6.0	14.0	2.0	8.0
	時間的余裕がない	42	21.4	38.1	9.5	21.4	0.0	7.1
	特にきつさは感じていない	228	19.3	31.6	6.1	7.9	0.0	4.4
高校2年生	身体的にきつい	9	0.0	11.1	11.1	22.2	0.0	0.0
	精神的にきつい	18	16.7	11.1	11.1	11.1	0.0	5.6
	時間的余裕がない	16	31.3	31.3	12.5	6.3	0.0	12.5
	特にきつさは感じていない	91	20.9	16.5	4.4	9.9	0.0	3.3

	大変さ・きつさ	調査数	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	服薬管理	その他	無回答
中学2年生	身体的にきつい	30	23.3	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0
	精神的にきつい	50	26.0	2.0	2.0	0.0	0.0	2.0
	時間的余裕がない	42	35.7	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0
	特にきつさは感じていない	228	27.2	1.8	0.9	0.0	4.8	3.1
高校2年生	身体的にきつい	9	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	精神的にきつい	18	16.7	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0
	時間的余裕がない	16	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3
	特にきつさは感じていない	91	17.6	2.2	0.0	0.0	1.1	0.0

③ 世話をすることに感じている大変さ・きつさ×世話による制約

世話をしているために、やりたいけれどできていないことについて、小学５年生の「時間の余裕がない」において、「自分の時間が取れない」、「宿題など勉強する時間がない」、「友達と遊ぶことができない」が他の面に比べ高くなっている。

中学２年生は「身体的にきつい」において、「睡眠が十分に取れない」、「自分の時間が取れない」、「どうしても学校を遅刻・早退してしまう」、高校２年生は「時間の余裕がない」において、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」、「睡眠が十分に取れない」、「友人と遊ぶことができない」が他の面に比べ高くなっている。

図表 96 世話をすることに感じている大変さ・きつさ×
世話をしているために、やりたいけれどできていないこと（複数回答）

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	学校を休んでしまう	遅刻や早退をしてしまう	宿題など勉強する時間がない	眠る時間がたりない	友達と遊ぶことができない	習い事ができない	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
小学5年生	体力の面で大変	248	6.0	6.9	16.9	19.4	12.9	1.6	21.4	2.4	56.9	1.2
	気持ちの面で大変	286	6.6	8.0	17.5	16.4	15.7	1.7	27.6	1.7	50.0	1.0
	時間の余裕がない	221	5.9	8.6	29.4	25.8	23.5	0.9	43.0	1.8	32.6	1.8
	特に大変さは感じていない	1,225	1.6	1.2	2.8	3.0	2.5	0.2	3.9	0.6	88.8	1.6

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、または辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
中学2年生	身体的にきつい	42	4.8	11.9	42.9	38.1	21.4	4.8	9.5	33.3	7.1	26.2	0.0
	精神的にきつい	71	2.8	8.5	32.4	28.2	22.5	4.2	8.5	23.9	5.6	33.8	2.8
	時間的余裕がない	53	3.8	7.5	50.9	37.7	28.3	3.8	7.5	28.3	3.8	18.9	0.0
	特にきつさは感じていない	347	0.6	0.3	3.7	2.3	3.5	0.9	0.3	4.3	1.4	86.2	2.9
高校2年生	身体的にきつい	13	15.4	7.7	15.4	23.1	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	30.8	23.1
	精神的にきつい	21	4.8	0.0	19.0	28.6	14.3	0.0	4.8	19.0	9.5	28.6	14.3
	時間的余裕がない	19	10.5	0.0	52.6	42.1	31.6	0.0	0.0	26.3	0.0	10.5	10.5
	特にきつさは感じていない	138	0.0	1.4	1.4	5.1	3.6	1.4	0.7	1.4	0.0	85.5	3.6

④ 世話をすることに感じている大変さ・きつさ×世話に関する相談経験の有無

世話に関する相談経験が「ある」割合は、中学２年生と高校２年生が「精神的にきつい」、で他の面に比べ高くなっている。

図表 97 世話をすることに感じている大変さ・きつさ×世話について相談した経験

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	ある	ない	無回答
小学5年生	体力の面で大変	248	26.6	65.7	7.7
	気持ちの面で大変	286	29.4	64.3	6.3
	時間の余裕がない	221	29.9	62.9	7.2
	特に大変さは感じていない	1,225	12.9	75.1	12.0
中学2年生	身体的にきつい	42	31.0	59.5	9.5
	精神的にきつい	71	36.6	42.3	21.1
	時間的余裕がない	53	30.2	54.7	15.1
	特にきつさは感じていない	347	12.7	69.5	17.9
高校2年生	身体的にきつい	13	38.5	38.5	23.1
	精神的にきつい	21	42.9	42.9	14.3
	時間的余裕がない	19	26.3	52.6	21.1
	特にきつさは感じていない	138	10.1	67.4	22.5

⑤ 世話をすることに感じている大変さ・きつさ×世話について相談をしたことがない理由

世話について相談をしたことがない理由について、小学５年生、中学２年生はいずれの面においても「誰かに相談するほどの悩みではない」の割合が最も高くなっている。高校２年生は「精神的にきつい」において、「相談しても状況が変わるとは思わない」の割合が他の面に比べ高くなっている。

図表 98 世話をすることに感じている大変さ・きつさ×相談をしたことがない理由（複数回答）

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	相談するほどの悩みではないから	誰に相談するのがよいかわからないから	相談できる人がいないから	家族のことを話したくないから	相談しても何も変わらないから	その他	無回答
小学5年生	体力の面で大変	163	69.9	9.8	6.1	4.3	11.7	6.7	8.0
	気持ちの面で大変	184	64.1	9.2	6.0	10.9	14.7	6.5	8.7
	時間の余裕がない	139	68.3	10.1	7.9	9.4	18.7	4.3	7.2
	特に大変さは感じていない	920	74.5	1.6	1.1	1.6	5.1	9.3	9.7

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	誰かに相談するほどの悩みではない	家族外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のことのため話しにくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わるとは思わない	その他	無回答
中学2年生	身体的にきつい	25	52.0	16.0	20.0	16.0	16.0	12.0	8.0	20.0	0.0	16.0
	精神的にきつい	30	36.7	16.7	20.0	13.3	33.3	16.7	16.7	30.0	0.0	13.3
	時間的余裕がない	29	41.4	17.2	13.8	10.3	27.6	17.2	13.8	20.7	6.9	20.7
	特にきつさは感じていない	241	64.3	6.6	3.3	1.7	1.7	1.2	1.2	5.4	5.4	22.4
高校2年生	身体的にきつい	5	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0
	精神的にきつい	9	33.3	22.2	11.1	11.1	22.2	0.0	0.0	55.6	0.0	0.0
	時間的余裕がない	10	50.0	20.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0	40.0	0.0	10.0
	特にきつさは感じていない	93	65.6	7.5	0.0	0.0	0.0	3.2	1.1	3.2	3.2	23.7

⑥ 世話をすることに感じている大変さ・きつさ×世話の悩みについて聞いてくれる人の有無

世話の悩みについて聞いてくれる人が「いる」割合は、いずれの面においても、学年があがるにつれて低くなる傾向にある。

図表 99 世話をすることに感じている大変さ・きつさ×世話の悩みについて聞いてくれる人の有無

（%）

	大変さ・きつさ	調査数	いる	いない	無回答
小学5年生	体力の面で大変	163	64.4	26.4	9.2
	気持ちの面で大変	184	66.8	22.3	10.9
	時間の余裕がない	139	55.4	30.9	13.7
	特に大変さは感じていない	920	70.4	17.0	12.6
中学2年生	身体的にきつい	25	48.0	40.0	12.0
	精神的にきつい	30	36.7	36.7	26.7
	時間的余裕がない	29	51.7	37.9	10.3
	特にきつさは感じていない	241	69.3	14.9	15.8
高校2年生	身体的にきつい	5	40.0	40.0	20.0
	精神的にきつい	9	44.4	44.4	11.1
	時間的余裕がない	10	40.0	40.0	20.0
	特にきつさは感じていない	93	64.5	17.2	18.3

（7）ヤングケアラーの自己認識による生活状況、世話の状況の違い

① ヤングケアラーの自己認識×健康状態

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」場合、「あてはまらない」に比べ、健康状態は「あまりよくない」、「よくない」の割合が高くなっている。

図表 100 ヤングケアラーの自己認識×健康状態

（%）

	ヤングケアラーかどうか	調査数	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
中学2年生	あてはまる	194	43.8	21.1	19.6	11.9	1.5	2.1
	あてはまらない	9,431	47.9	22.0	23.7	5.0	0.8	0.7
	わからない	1,757	39.5	20.9	28.3	7.3	2.0	1.8
高校2年生	あてはまる	126	45.2	23.8	23.8	5.6	1.6	0.0
	あてはまらない	6,363	45.8	23.2	24.9	5.0	0.7	0.5
	わからない	1,285	40.0	23.0	28.0	6.0	1.2	1.8

② ヤングケアラーの自己認識×出席状況

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」場合、「あてはまらない」「わからない」に比べ、「たまに欠席する」、「よく欠席する」の割合が高くなっている。

図表 101 ヤングケアラーの自己認識×出席状況

（%）

	ヤングケアラーかどうか	調査数	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
中学2年生	あてはまる	194	72.2	18.6	7.7	1.5
	あてはまらない	9,431	81.7	12.4	5.2	0.6
	わからない	1,757	73.8	17.0	7.3	1.9
高校2年生	あてはまる	126	73.0	19.0	7.9	0.0
	あてはまらない	6,363	82.6	11.9	4.9	0.6
	わからない	1,285	74.7	17.3	5.8	2.2

③ ヤングケアラーの自己認識×遅刻や早退の状況

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」場合、「あてはまらない」「わからない」に比べ、遅刻や早退を「たまにする」、「よくする」の割合が高くなっている。

図表 102 ヤングケアラーの自己認識×遅刻や早退の状況

（%）

	ヤングケアラーかどうか	調査数	ほとんどしない	たまにする	よくする	無回答
中学2年生	あてはまる	194	76.3	17.5	4.6	1.5
	あてはまらない	9,431	86.3	11.2	2.0	0.4
	わからない	1,757	77.4	17.0	4.2	1.5
高校2年生	あてはまる	126	81.7	15.1	3.2	0.0
	あてはまらない	6,363	89.1	9.3	1.1	0.6
	わからない	1,285	83.4	13.3	1.9	1.3

④ ヤングケアラーの自己認識×学校生活等であてはまること

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」場合、「あてはまらない」に比べ、全体的に割合が高くなっている。中学２年生は「提出物（書類等）の提出が遅れることが多い」、高校２年生は「授業中に居眠りすることが多い」の割合が高くなっている。

図表 103 ヤングケアラーの自己認識×学校生活等であてはまること（複数回答）

（%）

	ヤングケアラーかどうか	調査数	授業中に居眠りをすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出物（書類等）の提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
中学2年生	あてはまる	194	25.3	24.7	27.3	10.3	32.0	1.5	5.2	8.2	9.3	38.7	4.1
	あてはまらない	9,431	14.3	17.8	18.9	5.8	22.2	0.6	0.8	6.4	6.0	55.2	2.3
	わからない	1,757	20.7	25.7	25.2	9.4	30.4	0.8	2.5	8.1	8.4	43.0	4.1
高校2年生	あてはまる	126	42.9	15.9	11.9	7.9	14.3	1.6	2.4	4.8	4.8	42.1	0.0
	あてはまらない	6,363	34.4	14.9	11.3	4.9	14.5	0.6	0.4	5.9	6.0	49.0	2.3
	わからない	1,285	36.0	16.0	11.4	5.1	14.9	0.6	1.2	5.8	6.2	45.0	5.8

⑤ ヤングケアラーの自己認識×現在の悩みや困りごと

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」場合、「あてはまらない」、「わからない」に比べ、全体的に割合が高くなっているが、特に「友人との関係のこと」、「自分と家族との関係のこと」、「家庭内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）」、高校２年生における「家庭の経済的状況のこと」の割合は「あてはまらない」に比べ高くなっている。

図表 104 ヤングケアラーの自己認識×現在の悩みや困りごと（複数回答）

（%）

	ヤングケアラーかどうか	調査数	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと	塾（オンライン含む）や習い事ができない	家庭の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	家庭内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）
中学2年生	あてはまる	194	23.2	40.7	37.1	12.4	5.7	3.1	7.2	14.4	10.8
	あてはまらない	9,431	13.5	31.0	29.9	10.3	1.7	1.2	2.3	4.6	3.6
	わからない	1,757	14.9	31.9	31.9	11.0	3.4	2.6	4.7	9.8	6.4
高校2年生	あてはまる	126	16.7	31.7	39.7	12.7	9.5	2.4	14.3	14.3	10.3
	あてはまらない	6,363	10.2	33.2	44.2	12.1	3.8	1.0	3.6	3.7	3.2
	わからない	1,285	10.4	25.8	35.3	9.3	4.3	0.7	5.0	3.9	3.3

	ヤングケアラーかどうか	調査数	病気や障がいのある家族がいる	自分のために使える時間が少ない	その他	特にない	無回答
中学2年生	あてはまる	194	6.7	9.3	6.2	32.0	3.6
	あてはまらない	9,431	1.1	3.4	2.0	48.5	2.8
	わからない	1,757	3.5	4.4	2.7	43.8	5.4
高校2年生	あてはまる	126	11.1	7.1	0.0	34.1	3.2
	あてはまらない	6,363	1.0	4.9	1.4	39.0	2.1
	わからない	1,285	2.5	5.7	1.7	45.0	3.7

⑥ ヤングケアラーの自己認識×世話を一緒にする人

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」場合、「あてはまらない」、「わからない」に比べ、中学２年生は「自分のみ」の割合が高くなっている。

図表 105 ヤングケアラーの自己認識×世話を一緒にする人（複数回答）

（%）

	ヤングケアラーかどうか	調査数	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービスを利用	その他	無回答
中学2年生	あてはまる	58	51.7	36.2	13.8	3.4	25.9	6.9	19.0	6.9	3.4	13.8
	あてはまらない	253	45.8	31.6	13.4	9.9	24.1	2.0	2.8	2.8	2.4	40.3
	わからない	239	42.3	30.5	11.7	8.4	23.0	3.3	5.4	1.3	7.1	35.1
高校2年生	あてはまる	27	66.7	33.3	7.4	11.1	25.9	3.7	7.4	3.7	3.7	14.8
	あてはまらない	108	33.3	22.2	6.5	6.5	21.3	1.9	5.6	5.6	2.8	48.1
	わからない	112	32.1	12.5	7.1	2.7	17.0	2.7	5.4	3.6	3.6	48.2

⑦ ヤングケアラーの自己認識×世話の頻度

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」場合、「あてはまらない」、「わからない」に比べ、世話の頻度は「ほぼ毎日」の割合が大幅に高くなっている。

図表 106 ヤングケアラーの自己認識×世話の頻度

（%）

	ヤングケアラーかどうか	調査数	ほぼ毎日	週に3～5回	週に1～2回	1か月に数日	その他	無回答
中学2年生	あてはまる	58	63.8	12.1	8.6	3.4	0.0	12.1
	あてはまらない	253	32.8	10.3	11.5	8.3	2.8	34.4
	わからない	239	35.1	13.8	11.7	5.9	4.6	28.9
高校2年生	あてはまる	27	59.3	11.1	18.5	3.7	0.0	7.4
	あてはまらない	108	14.8	14.8	8.3	12.0	1.9	48.1
	わからない	112	22.3	8.9	10.7	8.0	2.7	47.3

⑧ ヤングケアラーの自己認識×世話に費やす時間

世話に費やす時間について、ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」場合、「あてはまらない」、「わからない」に比べ、中学２年生では３時間以上、高校２年生では３～７時間未満の割合が高くなっている。

図表 107 ヤングケアラーの自己認識×に費やす時間（平日１日あたり）

（%）

	ヤングケアラーかどうか	調査数	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	無回答
中学2年生	あてはまる	58	51.7	24.1	15.5	8.6
	あてはまらない	253	69.2	7.1	7.5	16.2
	わからない	239	74.9	6.7	6.3	12.1
高校2年生	あてはまる	27	77.8	14.8	3.7	3.7
	あてはまらない	108	75.0	5.6	5.6	13.9
	わからない	112	78.6	5.4	3.6	12.5

⑨ ヤングケアラーの自己認識×世話による制約

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」割合は、「あてはまらない」、「わからない」に比べ、中学２年生は「どうしても学校を遅刻・早退してしまう」、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」、「睡眠が十分に取れない」、「友人と遊ぶことができない」、「自分の時間が取れない」、高校２年生は「学校に行きたくても行けない」、「睡眠が十分に取れない」、「自分の時間が取れない」の割合が高くなっている。

図表 108 ヤングケアラーの自己認識×世話のために、やりたいけれどできていないこと（複数回答）

（%）

	ヤングケアラーかどうか	調査数	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、または辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
中学2年生	あてはまる	58	1.7	12.1	31.0	22.4	12.1	6.9	5.2	20.7	1.7	43.1	8.6
	あてはまらない	253	0.4	0.4	4.3	3.6	1.6	0.0	0.0	3.2	1.6	79.8	8.3
	わからない	239	0.8	0.0	7.9	7.5	7.1	1.7	2.1	7.1	2.1	72.4	6.3
高校2年生	あてはまる	27	11.1	0.0	7.4	18.5	7.4	0.0	7.4	14.8	7.4	40.7	7.4
	あてはまらない	108	0.9	0.9	5.6	5.6	4.6	0.0	0.9	2.8	0.9	73.1	13.9
	わからない	112	2.7	1.8	6.3	7.1	6.3	0.9	0.0	3.6	0.0	66.1	16.1

⑩ ヤングケアラーの自己認識×世話をすることに感じているきつさ

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」場合、「あてはまらない」「わからない」に比べ、いずれの面においても割合が高くなっている。

図表 109 ヤングケアラーの自己認識×世話をすることに感じているきつさ（複数回答）

（%）

	ヤングケアラーかどうか	調査数	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつさは感じていない	無回答
中学2年生	あてはまる	58	19.0	31.0	25.9	44.8	8.6
	あてはまらない	253	4.3	7.1	3.6	64.8	23.3
	わからない	239	7.1	12.6	10.0	55.2	24.7
高校2年生	あてはまる	27	11.1	25.9	22.2	51.9	3.7
	あてはまらない	108	2.8	3.7	4.6	55.6	34.3
	わからない	112	5.4	8.0	6.3	48.2	36.6

⑪ ヤングケアラーの自己認識×世話について相談した経験

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」場合、「あてはまらない」、「わからない」に比べ、世話について相談したことが「ある」割合が高くなっている。

図表 110 ヤングケアラーの自己認識×世話について相談した経験

（%）

	ヤングケアラーかどうか	調査数	ある	ない	無回答
中学2年生	あてはまる	58	36.2	44.8	19.0
	あてはまらない	253	9.1	65.6	25.3
	わからない	239	13.0	57.3	29.7
高校2年生	あてはまる	27	40.7	48.1	11.1
	あてはまらない	108	5.6	55.6	38.9
	わからない	112	11.6	52.7	35.7

⑫ ヤングケアラーの自己認識×世話についての相談相手

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」場合、「あてはまらない」、「わからない」に比べ、中学２年生の相談相手は「保健室の先生」、「医師や看護師、その他病院の人」、「役所や保健センターの人」、「SNS上での知り合い」の割合が高くなっている。

図表 111 ヤングケアラーの自己認識×世話についての相談相手（複数回答）

（%）

	ヤングケアラーかどうか	調査数	家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）	親戚（おじ、おばなど）	友人	学校の先生（保健室の先生以外）	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	医師や看護師、その他病院の人	ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人	役所や保健センターの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
中学2年生	あてはまる	21	61.9	14.3	28.6	19.0	14.3	19.0	9.5	4.8	9.5	4.8	19.0	4.8	9.5
	あてはまらない	23	65.2	0.0	39.1	17.4	8.7	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3
	わからない	31	51.6	19.4	54.8	22.6	6.5	19.4	0.0	3.2	3.2	3.2	6.5	3.2	6.5
高校2年生	あてはまる	11	27.3	9.1	63.6	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	18.2	9.1	18.2
	あてはまらない	6	100.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
	わからない	13	76.9	7.7	38.5	30.8	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

⑬ ヤングケアラーの自己認識×世話についての相談をしたことがない理由

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」場合、「あてはまらない」、「わからない」に比べ、「家族外の人に相談するような悩みではない」、「相談しても状況が変わるとは思わない」の割合が高くなっている。

図表 112 ヤングケアラーの自己認識×世話についての相談をしたことがない理由（複数回答）

（%）

	ヤングケアラーかどうか	調査数	誰かに相談するほどの悩みではない	家族外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のことのため話しにくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わるとは思わない	その他	無回答
中学2年生	あてはまる	26	57.7	26.9	15.4	15.4	15.4	7.7	11.5	23.1	7.7	7.7
	あてはまらない	166	59.6	6.6	2.4	0.6	1.8	0.6	1.2	3.6	3.0	28.9
	わからない	137	53.3	6.6	5.8	3.6	5.8	3.6	2.2	7.3	5.8	27.7
高校2年生	あてはまる	13	61.5	15.4	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7	23.1	0.0	7.7
	あてはまらない	60	60.0	8.3	0.0	1.7	1.7	1.7	1.7	5.0	1.7	26.7
	わからない	59	45.8	6.8	3.4	0.0	5.1	6.8	1.7	6.8	5.1	32.2

⑭ ヤングケアラーの自己認識×世話について話を聞いてくれる人の有無

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」場合、「あてはまらない」、「わからない」に比べ、世話について話を聞いてくれる人が「いない」割合が高くなっている。

図表 113 ヤングケアラーの自己認識×世話について話を聞いてくれる人の有無

（%）

	ヤングケアラーかどうか	調査数	いる	いない	無回答
中学2年生	あてはまる	26	50.0	42.3	7.7
	あてはまらない	166	66.9	12.7	20.5
	わからない	137	54.7	22.6	22.6
高校2年生	あてはまる	13	46.2	30.8	23.1
	あてはまらない	60	60.0	18.3	21.7
	わからない	59	54.2	27.1	18.6

⑮ ヤングケアラーの自己認識×学校や大人に助けてほしいこと

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」場合、「あてはまらない」に比べ、中学２年生は「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、「自由に使える時間がほしい」、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」、「家庭への経済的な支援」の割合が高くなっている。高校２年生は「家族のお世話について相談にのってほしい」、「家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい」、「自由に使える時間がほしい」、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」、「家庭への経済的な支援」の割合が高くなっている。

図表 114 ヤングケアラーの自己認識×学校や大人に助けてほしいこと（複数回答）

（%）

	ヤングケアラーかどうか	調査数	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい
中学2年生	あてはまる	58	22.4	8.6	5.2	3.4	1.7	25.9	22.4
	あてはまらない	253	5.9	0.8	0.4	1.6	0.0	7.9	8.7
	わからない	239	9.6	2.9	2.1	2.1	1.3	14.6	9.2
高校2年生	あてはまる	27	7.4	11.1	11.1	7.4	3.7	18.5	14.8
	あてはまらない	108	9.3	1.9	0.9	0.0	0.0	9.3	8.3
	わからない	112	8.0	1.8	3.6	0.9	1.8	5.4	5.4

	ヤングケアラーかどうか	調査数	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	家庭への経済的な支援	わからない	その他	特にない	無回答
中学2年生	あてはまる	58	25.9	12.1	5.2	3.4	43.1	8.6
	あてはまらない	253	9.1	1.6	4.0	0.8	71.9	5.1
	わからない	239	10.9	2.5	10.5	2.1	55.2	7.9
高校2年生	あてはまる	27	11.1	18.5	7.4	0.0	29.6	11.1
	あてはまらない	108	10.2	1.9	4.6	1.9	63.0	8.3
	わからない	112	5.4	1.8	8.9	0.9	58.9	9.8

（８）世話に関しての相談の状況

① 世話に関する相談の経験×世話の頻度

世話に関する相談をしたことが「ある」場合、「ない」に比べ、いずれの学年も世話の頻度は「ほぼ毎日」の割合が高くなっている。

図表 115 世話に関する相談の有無×世話をしている頻度

（%）

	相談の有無	調査数	ほぼ毎日	週に3～5回	週に1～2回	1か月に数日	その他	無回答
小学５年生	ある	348	42.8	19.3	19.3	8.9	2.0	7.8
	ない	1,403	40.4	18.4	15.5	10.2	3.6	11.8
中学２年生	ある	80	62.5	11.3	8.8	7.5	3.8	6.3
	ない	351	38.2	14.5	12.8	8.3	2.8	23.4
高校２年生	ある	30	46.7	16.7	13.3	10.0	0.0	13.3
	ない	142	26.1	15.5	14.8	10.6	2.8	30.3

② 世話に関する相談の経験×世話による制約

世話に関する相談をしたことが「ある」場合、「ない」に比べ、いずれの学年も多くの項目で「ある」割合が高くなっている。小学５年生、高校２年生は「自分の時間が取れない」、中学２年生は「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」、「睡眠が十分に取れない」の割合が最も高くなっている。

図表 116 世話に関する相談の有無×世話のために、やりたいけれどできていないこと（複数回答）

（%）

	相談の有無	調査数	学校を休んでしまう	遅刻や早退をしてしまう	宿題など勉強する時間がない	眠る時間がたりない	友達と遊ぶことができない	習い事ができない	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
小学５年生	ある	348	5.2	5.2	10.9	12.1	10.1	2.0	18.7	1.1	66.4	2.0
	ない	1,403	2.3	2.6	5.9	5.3	5.4	0.1	8.4	1.1	80.3	1.4

（%）

	相談の有無	調査数	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、または辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
中学２年生	ある	80	3.8	5.0	21.3	21.3	17.5	7.5	6.3	16.3	3.8	52.5	1.3
	ない	351	0.3	1.1	8.6	6.0	4.8	0.3	0.9	7.1	1.7	77.2	4.0
高校２年生	ある	30	10.0	0.0	10.0	10.0	3.3	0.0	3.3	13.3	6.7	50.0	10.0
	ない	142	0.0	1.4	7.0	8.5	7.7	0.0	1.4	2.8	1.4	76.8	5.6

４．自由意見について

ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことなどを聞いたところ、以下のような回答があった。

①小学生

自身の状況や気持ちについて
・１日で良いから１人の時間が欲しい。自由な時間が欲しい。 ・いつもありがとうと言ってもらいたい。褒めてもらいたい。 ・自由に何でもしていい場所が欲しい。読書や宿題が出来る静かなところ。 ・周りの大人には、自分が言いたいと思うまで待ってほしい。 ・大人だけで決めず、子どもの意見も聞いてほしい。 ・他の人と差が出ないよう、勉強を手伝ってほしい。分かりやすく教えてほしい。 ・信頼出来る人とたくさん会話をしたい。 ・お母さんが病気になってしまって、私は習い事をやめたくないのに、なにかにつけて「習い事をやめたら？」と言われたり、よく怒られたりする。でもお母さんが笑顔なときは、嬉しい。 ・お母さんが外国人で、あまり日本語が話せないので友達の親などともうまくいっていない。自分は日本人の親の元に生まれてくればよかったと時々思う。

必要と思われる支援について
・誰でも相談できる窓口や電話・手紙などがあったら良いと思う。 ・一番信用できる人を探すことができるアプリがあると良いと思う。 ・経済的支援をして、子どもがお世話しなくてもベビーシッターや介護する人を雇えるようにしたらいいと思う。 ・家事をしてくれるロボットや機械があれば、気楽に過ごせると思う。 ・ヤングケアラーの人たちを支援する法律を作ったら良いと思う。 ・子ども食堂がふえるといいと思う。 ・子どもが学校に行けるように、お世話は福祉サービスの人がやってあげたらいいと思う。

②中学生

自身の状況や気持ちについて

・自分と向き合う時間がほしい。
・ヤングケアラーは、実はたくさんいるという事を知ってほしい。偏見をもってほしくない。そのために「ヤングケアラー」という言葉だけでも知ってほしい。
・あまり歳の離れてない子の面倒を見させられる子どもの気持ちを理解してほしい。

必要と思われる支援について

・少ない時間でも効率的に勉強できる環境や、同じ状況になってしまっている人との触れ合える学校のような環境があるといいと思う。
・無料の食堂や、相談所、幼児の遊び場をつくっては。
・話を聞いてもらうだけでもいいからヤングケアラーの当事者が悩みをはける場所や相談したりできる場所が全国的にできると良い。
・本当に困ったことから小さなことまで本人が安心して相談できるような人間関係を、周りの人が作ってあげることが必要。
・学校の授業や、テレビ、SNS で取り上げるなど、もっと多くの人が知ることが必要。
・高齢者を支援するための人手や福祉施設がもっと充実することが必要。
・生活資金や学費の支援などの金銭的な支援が必要だと思う。

相談方法について

・時間や家族の目が気になって相談に行くことが難しいので SNS での相談ができるといいと思う。
・スマホを持っていなくて連絡手段が無い子でも話ができる場所を作ってほしい。
・子どもが相談しても対応してくれるのか不安で相談にしにくい。
・家族のことはどうしても相談しにくい。

③高校生

自身の状況や気持ちについて

・知的障がいを持つきょうだいがいて、周りの子と違う環境に悩んだことがある。
・家族について話したくない人もいることを理解していくべきだと思う。
・家事や誰かのお世話などをしている人は、そっちばっかりに時間を使っているため、やらなければならないことなどができない。学校側も家庭事情を把握してもらい、理解してもらいたい。
・お世話をするのが子どもしかいない場合の対応に困っている。家庭内に一人でもお世話をする人がいると施設に入れないと断られた。
・私はヤングケアラーでした。今は、家族から離れて高校生らしい人生を送っています。
・自分自身はお世話をしていなくて、親が介護をしているけれど、その親の代わりに家事をすることが大変。 親から祖父母の介護についての愚痴を聞くのが嫌。

必要と思われる支援について

・高齢者の介護に、ロボットを導入する。
・就職活動の説明会を開催し、就職支援をする。
・学校でのヤングケアラーについて知る機会を設ける。
・私達のような学生だけではなく、社会人の人にも知ってもらうことが必要だと思う。
・ヤングケアラーへの精神的なケアが必要だと思う。自分自身に向き合ったり、自分の趣味などを楽しめる余裕を持ってほしい。
・補助金などがいつ使えるかの機会を知らない人が多いと思うので、みんなの目につくところに要項などを掲示すること。
・SNS やポスターでヤングケアラーの認識を広げて行くことが必要。
・ヤングケアラーが気軽に相談できる場や、学習支援が必要だと思う。
・出席日数の減少や課題未提出などによる成績評価は配慮すべきだと思う。
・あの子は家族の世話をしているから可哀想などと決めつけたり、勝手にお世話をやめさせるようなことはしないことも大切だと思う。

相談・周知の方法について

・学校の先生だと普段から関わっているから、相談後のことなどを考えると相談しにくくなると思う。学校で、学校の先生以外で気軽に相談できる人や場を設けるのが良い。
・同世代で同じ状況下にある子同士が集まる場をつくると話しやすいと思う。
・電話や SNS での相談は顔を向かい合わせなくてもいいので気楽にできると思った。
・知らない人に自分のことを話すのは難しいと思うので、どんなアドバイザーが相談に乗っているのか紹介するといいと思う。
・ヤングケアラーの経験者が相談相手だったら、今ヤングケアラーの子は相談しやすいと思う。
・ヤングケアラーであることを恥じてはいけないということ、助けを求めるべきだということを思春期の子どもたちから信頼・好かれている大人が繰り返し子どもたちに伝えることが大切だと思う。
・「ここに連絡すれば相談できますよ」ではなく、学校や大人が定期的に悩みなどないか聞くのがいいと思う。
・分かってもらえるのか不安で相談しにくい。
・他の人には相談できないこともあると思う。無理に聞くのではなく、話をしなくても寄り添うことも大事だと思う。

第３章

学校におけるヤングケアラーへの対応に関する調査

第３章　学校におけるヤングケアラーへの対応に関する調査

１．学校調査の実施概要

（１）調査対象

県内の全小中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校

図表 117 対象校数

（校）

	対象校数
小学校	363
中学校	186
全日制高校	79
定時制高校	11
通信制高校	8
特別支援学校	23
合計	670

（２）実施時期、回収状況

2022年９月５日～2022年９月30日

（３）調査方法

オンライン回答

（４）回答状況

① 回答状況

図表 118 回答状況

（%）

	対象数	回答数	回答率
小学校	363	219	60.3
中学校	186	99	53.2
全日制高校	79	53	67.1
定時制高校	11	6	54.5
通信制高校	8	6	75.0
特別支援学校	23	19	82.6

2．学校におけるヤングケアラーへの対応に関する調査結果

（1）学校の概要

① 回答者の役職

図表 119 回答者の役職

（%）

	調査数	校長	副校長・教頭	主幹・主任教諭	養護教諭	スクールソーシャルワーカー SSW	スクールカウンセラー SC	その他	無回答
小学校	219	16.9	51.6	10.5	5.5	0.0	0.0	15.5	0.0
中学校	99	13.1	44.4	20.2	2.0	0.0	0.0	20.2	0.0
全日制高校	53	7.5	13.2	45.3	1.9	0.0	0.0	32.1	0.0
定時・通信制高校	12	8.3	16.7	58.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
特別支援学校	19	10.5	10.5	26.3	0.0	0.0	0.0	52.6	0.0

② 学校規模と単位制の有無

図表 120 学校規模

（%）

	調査数	50人未満	50人以上	100人以上	150人以上	無回答
小学校	219	59.4	26.9	11.9	0.9	0.9
中学校	99	36.4	19.2	25.3	10.1	5.1
全日制高校	53	5.7	13.2	17.0	56.6	7.5
定時・通信制高校	12	41.7	25.0	25.0	8.3	0.0
特別支援学校	19	84.2	0.0	0.0	0.0	15.8

図表 121 高校での単位制の有無

（%）

あり	なし	無回答
－	－	－
－	－	－
43.4	56.6	0.0
91.7	8.3	0.0
－	－	－

（２）支援が必要だと思われる子どもへの対応

① SSW、SC の配置・派遣状況

SSWの配置・派遣状況は、いずれの学校も「要請に応じて派遣される」が最も高く、半数を占めている。

図表 122 SSW の配置・派遣状況

（%）

	調査数	週に2～3回以上派遣されている・配置されている	週に1回程度派遣されている・配置されている	月に数回以下で派遣されている・配置されている	要請に応じて派遣される	その他	派遣・配置されていない	無回答
小学校	219	1.8	8.2	11.9	53.9	0.0	24.2	0.0
中学校	99	2.0	7.1	9.1	56.6	0.0	25.3	0.0
全日制高校	53	5.7	0.0	3.8	58.5	0.0	32.1	0.0
定時・通信制高校	12	8.3	0.0	8.3	58.3	0.0	25.0	0.0
特別支援学校	19	0.0	5.3	0.0	63.2	5.3	26.3	0.0

SCの配置・派遣状況は、いずれの学校も「月に数回以下で派遣・配置されている」が最も高くなっている。

図表 123 SC の配置・派遣状況

（%）

	調査数	週に2～3回以上派遣されている・配置されている	週に1回程度派遣されている・配置されている	月に数回以下で派遣されている・配置されている	要請に応じて派遣される	その他	派遣・配置されていない	無回答
小学校	219	0.0	10.5	82.2	4.1	2.7	0.5	0.0
中学校	99	8.1	29.3	59.6	1.0	0.0	2.0	0.0
全日制高校	53	1.9	3.8	86.8	3.8	1.9	1.9	0.0
定時・通信制高校	12	33.3	0.0	41.7	25.0	0.0	0.0	0.0
特別支援学校	19	0.0	0.0	94.7	0.0	5.3	0.0	0.0

② 校内で共有している子どものケース

校内で共有している子どものケースについて、小学校、中学校、全日制高校、特別支援学校は「学校を休みがちである」が最も高く、次いで小学校は「遅刻や早退が多い」、中学校、全日制高校、特別支援学校は「精神的な不安定さがある」となっている。一方、定時・通信制高校は全ての学校で「学校を休みがちである」、「精神的な不安定さがある」と回答している。

図表 124 校内で共有している子どものケース（複数回答）

（%）

	小学校	中学校	全日制高校	定時・通信制高校	特別支援学校
	n＝219	n＝99	n＝53	n＝12	n＝19
学校を休みがちである	91.3	97.0	100.0	100.0	89.5
遅刻や早退が多い	88.6	87.9	94.3	75.0	57.9
保健室で過ごしていることが多い	67.6	78.8	88.7	66.7	31.6
精神的な不安定さがある	86.3	96.0	94.3	100.0	78.9
身だしなみが整っていない	49.8	47.5	54.7	50.0	42.1
学力が低下している	48.9	59.6	43.4	41.7	10.5
宿題や持ち物の忘れ物が多い	56.6	54.5	47.2	41.7	26.3
保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	50.7	49.5	39.6	8.3	36.8
学校に必要なものを用意してもらえない	43.4	39.4	20.8	8.3	26.3
部活を途中でやめてしまった	1.4	43.4	37.7	16.7	10.5
修学旅行や宿泊行事等を欠席する	25.1	55.6	52.8	41.7	31.6
校納金が遅れる、未払い	44.7	57.6	52.8	50.0	57.9
その他	2.3	4.0	3.8	0.0	15.8
共有しているケースはない	1.4	0.0	0.0	0.0	5.3
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

③ 情報共有・対応の検討体制

校内で共有している子どものケースについての情報共有・対応の検討体制について、小学校、全日制高校、特別支援学校は「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、中学校は「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」が最も高くなっている。

また、定時・通信制高校は「個別に対応している（決まった検討体制はない）」が割合が最も高くなっている。

図表 125 校内で共有している子どものケース（複数回答）

（%）

	小学校	中学校	全日制高校	定時・通信制高校	特別支援学校
	n＝219	n＝99	n＝53	n＝12	n＝19
不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している	43.4	57.6	24.5	25.0	21.1
不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している	46.6	29.3	39.6	0.0	47.4
個別に対応している（決まった検討体制はない）	10.0	13.1	35.8	75.0	31.6
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

④ 校内の検討体制

「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した学校に、校内の情報共有・対応の検討体制について聞いた結果は以下のとおりである。

ｉ）情報共有・対応の検討方法

小学校、中学校、特別支援学校は「ケース会議」が最も高く、全日制高校では「ケース会議」、「生徒指導部・委員会など」が同割合で高くなっている。

図表 126 校内の情報共有・対応の検討方法（複数回答）

（%）

	調査数	スクリーニング会議	ケース会議	生徒指導部・委員会など	児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有	教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など、児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名	その他	無回答
小学校	197	15.2	92.9	33.0	53.3	59.9	10.7	0.0
中学校	86	33.7	93.0	52.3	55.8	76.7	5.8	0.0
全日制高校	34	14.7	58.8	58.8	35.3	55.9	14.7	0.0
特別支援学校	13	0.0	100.0	23.1	23.1	53.8	7.7	0.0

※定時・通信制高校はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

ⅱ）会議に参加する教職員、会議の頻度

情報共有・対応の検討方法で、「スクリーニング会議」、「ケース会議」、「生徒指導部・委員会など」、「その他」と回答した学校に、それぞれの会議の参加者、頻度をきいた結果は以下のとおりである。

小学校、中学校は「スクリーニング会議」、「ケース会議」において「校長」、「副校長・教頭」、「担当教論」の参加割合が高く、全日制高校は「ケース会議」において「学年主任」、「担当教論」の参加割合が高くなっている。

図表 127 会議の参加者（複数回答）

（%）

		調査数	校長	副校長・教頭	学年主任	担当教論	生徒指導教論	養護教論	SSW	SC	外部の関係機関	その他	該当しない	無回答
スクリーニング会議	小学校	30	93.3	86.7	73.3	90.0	96.7	80.0	3.3	6.7	3.3	16.7	0.0	0.0
	中学校	29	89.7	93.1	86.2	55.2	89.7	72.4	13.8	34.5	0.0	17.2	0.0	0.0
	全日制高校	5	60.0	100.0	100.0	20.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ケース会議	小学校	183	96.2	98.4	67.2	98.9	91.8	85.8	7.1	10.9	13.1	19.7	0.5	0.0
	中学校	80	93.8	96.3	90.0	92.5	93.8	77.5	10.0	36.3	13.8	18.8	1.3	0.0
	全日制高校	20	60.0	75.0	95.0	95.0	75.0	65.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0
	特別支援学校	13	38.5	69.2	69.2	100.0	92.3	53.8	7.7	23.1	46.2	100.0	0.0	0.0
生徒指導部・委員会など	小学校	65	63.1	66.2	56.9	80.0	90.8	64.6	1.5	4.6	0.0	20.0	3.1	0.0
	中学校	45	66.7	71.1	86.7	46.7	93.3	60.0	2.2	15.6	0.0	17.8	0.0	0.0
	全日制高校	20	25.0	45.0	80.0	75.0	95.0	65.0	0.0	0.0	0.0	35.0	0.0	0.0
その他	小学校	21	66.7	57.1	52.4	66.7	66.7	66.7	4.8	9.5	4.8	38.1	9.5	0.0
	中学校	5	100.0	100.0	100.0	60.0	100.0	80.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	全日制高校	5	20.0	20.0	60.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	20.0	0.0

※定時・通信制高校の全項目、特別支援学校の「スクリーニング会議」「生徒指導部・委員会など」「その他」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

それぞれの会議の頻度は以下のとおりである。

図表 128 会議の頻度

（%）

		調査数	2週間に1回以上	月に1回程度	半年に1回程度	年に1回程度	該当しない	無回答
スクリーニング会議	小学校	30	30.0	16.7	43.3	6.7	3.3	0.0
	中学校	29	31.0	27.6	34.5	6.9	0.0	0.0
	全日制高校	5	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ケース会議	小学校	183	18.6	59.6	18.0	0.0	3.8	0.0
	中学校	80	16.3	56.3	21.3	2.5	3.8	0.0
	全日制高校	20	15.0	55.0	20.0	10.0	0.0	0.0
	特別支援学校	13	0.0	30.8	61.5	0.0	7.7	0.0
生徒指導部・委員会など	小学校	65	26.2	64.6	3.1	0.0	6.2	0.0
	中学校	45	48.9	42.2	8.9	0.0	0.0	0.0
	全日制高校	20	80.0	15.0	0.0	0.0	5.0	0.0
その他	小学校	21	57.1	19.0	4.8	0.0	19.0	0.0
	中学校	5	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	全日制高校	5	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0

※特別支援学校の「スクリーニング会議」「生徒指導部・委員会など」「その他」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

⑤ 個別対応の場合の情報共有・対応の検討方法など

個別対応の場合の情報共有、対応の検討方法について聞いたところ、以下のような回答があった。

小学校
・月に１回ほど校内で支援委員会をもち、情報を共有し支援の方向を検討している。担任、学年主任、教育相談担当、特別支援コーディネーター、生徒指導、教務主任、主幹教諭、教頭、校長など、ケースごとに参加者は異なる。 ・校長、教頭、養教、生徒指導、担任等心配な事を都度確認する。ケースに応じて SSW、エールぎふ、子ども相談センターとも情報提供及び交流する。 ・全職員で週一回の児童理解研を行なっている。さらに、個別に対応する件には、ケース会議を行なっている。小規模小学校なので、休み時間や放課後などに、常に情報共有している。 ・生徒指導、いじめ対策監、教育相談コーディネーターが、一人で兼務しているため、全校児童の情報をここに集約し、そこから管理職に相談しながら、個別に対応している。別室登校の児童については、ハートフル相談員、ほほえみ相談員と連携を取りながら、情報を集約している。 ・日頃の児童の様子から気になる児童については、担任等気付いた職員が報告する。校長の指導の下、生徒指導、養護教諭、教頭等が事実の確認や今後の方向について検討する。他の職員には緊急性が高いものについては随時情報。今後の対応について共有する場をもっている。また、２週間に一度ある打ち合わせでは「児童交流」の時間を設け、気になる児童について情報共有・今後の対応について確認している。 ・管理職を含め、関係職員でケース会議を行っている。 ・ケースが発生するたびに校長、教頭、教務、養護教諭、担任等でケース会議を開いて対応を検討する。
中学校
・校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、学年主任、養護教諭を中心に、ケースに応じて組織している。口頭、または資料を使った情報伝達・質疑・検討・対策をしている。週１回は定期、あとは不定期。 ・生徒が学校生活の中で、困っていることについて、管理職、学年主任、担任、生徒指導主事、養護教諭、SC で支援の方法を検討する。 ・学年で検討し、管理職、生徒指導主事、教科担任などで共有し、必要に応じて全職員で共有している。内容や生徒の様子によっては、相談員や SC と共有し、対応を考えている。 ・週１回の頻度で中学部の職員(教頭、部長、主任、担任、養護教諭)全員で生徒の情報共有を行っている。各クラスの担任から現状の報告があり、会議で相談し、対応策を検討している。 ・学年の職員でその都度話を聞くなどして対応し、管理職への報告を行っている。また、週に一度の生徒指導交流を通して、全職員での情報共有を行っている。 ・校長、教頭、学年主任、事務官で情報を共有し、保護者へ文書で依頼をしている。 ・その都度ケース会議を開き、対応の協議を行なっている．全職員には、打ち合わせ等の会議で周知している。

全日制高校
・学年会議や分掌会議で挙げられた情報を月に一度の職員会議で情報共有を図っている。緊急性のあるものについては、週に一度の連絡会議で報告される。心配される生徒については個別に担任を中心に、学年や生徒指導部などと連携して支援している。管理職とは密に報告相談をしながら進めている。 ・週１回の学年会(正担任が参加、副担任は議事録で確認)で情報を共有、対応し、週１回の主任会や月１回の職員会議で共有・再検討している。 ・毎週１回の学年会や教育相談部会にて情報共有。支援を必要するケースがあった場合は、担任、学年主任、教育相談係、管理職が対応の検討を行う。 ・毎日の出欠席を担任→学年主任→教務→校長まで共有 家庭訪問や SC に相談を担任に指示。場合によっては教務、生徒指導も入り、対応の検討をする。 ・学年会にて担任及び養護教諭から情報を吸い上げ、生徒指導部会、職員会議等様々な場面で情報を共有している。 ・週１の学年会を受けて週１の教育相談会(教育相談担当、養護教諭、S 相)で情報を共有。月１程度で資料をまとめて生徒指導主事、教頭、校長へ。 必要に応じて S 相、SC との面談を行う。 ・教員が情報を有した時点で、担任、学年主任、養護教諭、生徒指導部長、管理職が情報を共有するようにしている。 ・相談係（特別支援教育コーディネーター)、養護教諭、学年団（学年主任・担任）が情報の共有を密にして連携し、個別に対応している。
定時制・通信制高校
・毎週行われる学年会や主任会で情報を共有している。その中で、個別対応すべきケースについては、ケース会議で対応を検討している。構成員は、管理職・教務主任・生徒指導部長・学年主任・担任・教育相談・養護教諭（状況によって異なる)。年間 10 数回実施している。 ・毎日の夕会や月１の職員会議での情報共有を行なっている。対応が必要な場合には、副校長・教頭・生徒指導・教育相談・養護教諭・担任等で会議を開き、対応を検討している。必要であれば SC や SSW 等にも相談をし、対応を決めて動いている。 ・定例の部門会議で随時情報を共有している。サポート校の生徒も定例でその様な場を設けている。 ・①年２回の生徒情報交換会の開催による情報共有。 ②個別の事案について生徒指導、教育相談、専門家、養護教諭、担任などからの情報提供により、管理職判断によってケース会議を開き対応を協議する。 ③②については必要に応じてエールぎふ、子ども相談センター、警察などの外部機関にも参加していただいている。 ・毎日行われる職員連絡会で常に情報交換をし、対応について検討している。

⑥ 外部との情報共有・対応の検討体制

校内で共有している子どものケースについて学校以外の関係機関と連携する体制があるかどうか、また体制がある場合、連携する関係機関についてきいた結果は以下のとおりである。

体制の有無では、「要保護児童対策地域協議会の登録ケース」、「不登校のケース」において、小学校、中学校は「ある」割合が高く、全日制高校では「特にない」の割合が高くなっている。

図表 129 体制の有無

（%）

		調査数	ある	特にない	無回答
要保護児童対策地域協議会の登録ケース	小学校	219	66.7	33.3	0.0
	中学校	99	65.7	34.3	0.0
	全日制高校	53	35.8	64.2	0.0
	定時・通信制高校	12	58.3	41.7	0.0
	特別支援学校	19	68.4	31.6	0.0
不登校のケース	小学校	219	83.6	16.4	0.0
	中学校	99	89.9	10.1	0.0
	全日制高校	53	35.8	64.2	0.0
	定時・通信制高校	12	58.3	41.7	0.0
	特別支援学校	19	63.2	36.8	0.0
それ以外	小学校	219	58.4	41.6	0.0
	中学校	99	51.5	48.5	0.0
	全日制高校	53	37.7	62.3	0.0
	定時・通信制高校	12	50.0	50.0	0.0
	特別支援学校	19	68.4	31.6	0.0

連携する関係機関は、いずれのケースにおいても、小学校、中学校は「市区町村教育委員会」、全日制高校は「児童相談所」、定時・通信制高校は「市区町村の福祉部門（要対協の調整機関を除く）」の割合が最も高くなっている。

図表 130 関係機関（複数回答）

（%）

		調査数	市区町村教育委員会	市区町村の福祉部門（要対協の調整機関を除く）	市区町村の保健部門	市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	教育支援センター（適応指導教室）	フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設	児童相談所	民生委員	病院	警察や刑事司法関係機関	その他	無回答
要保護児童対策地域協議会の登録ケース	小学校	146	83.6	56.2	16.4	57.5	32.9	2.7	64.4	38.4	9.6	20.5	4.1	0.0
	中学校	65	81.5	60.0	10.8	55.4	30.8	6.2	70.8	26.2	10.8	18.5	1.5	0.0
	全日制高校	19	21.1	26.3	10.5	52.6	0.0	0.0	57.9	5.3	5.3	5.3	15.8	0.0
	定時･通信制高校	7	28.6	57.1	0.0	14.3	28.6	0.0	42.9	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0
	特別支援学校	13	15.4	61.5	15.4	61.5	15.4	0.0	69.2	15.4	23.1	0.	15.4	0.0
不登校のケース	小学校	183	88.0	30.6	7.7	20.2	68.9	8.7	24.6	28.4	14.2	3.8	2.7	0.0
	中学校	89	84.3	36.0	4.5	21.3	65.2	14.6	34.8	28.1	15.7	5.6	2.2	0.0
	全日制高校	19	21.1	10.5	0.0	0.0	31.6	10.5	31.6	0.0	26.3	5.3	26.3	0.0
	定時･通信制高校	7	28.6	42.9	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0
	特別支援学校	12	33.3	50.0	8.3	16.7	50.0	8.3	50.0	8.3	25.0	16.7	41.7	0.0
それ以外	小学校	128	82.8	46.1	15.6	26.6	44.5	6.3	48.4	28.9	16.4	16.4	3.9	0.0
	中学校	51	76.5	49.0	19.6	35.3	56.9	19.6	58.8	37.3	19.6	21.6	3.9	0.0
	全日制高校	20	30.0	20.0	5.0	5.0	10.0	0.0	75.0	0.0	50.0	25.0	20.0	0.0
	定時･通信制高校	6	16.7	66.7	0.0	16.7	0.0	16.7	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	特別支援学校	13	5.4	76.9	7.7	23.1	30.8	0.0	92.3	7.7	61.5	30.8	46.2	0.0

（3）ヤングケアラーについて

① 「ヤングケアラー」の概念の認識

「ヤングケアラー」の概念の認識について、小学校、中学校、特別支援学校は「言葉を知っており、学校として意識して対応している」、全日制高校と定時・通信制高校は「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」が最も高くなっている。

図表 131 「ヤングケアラー」の概念の認識

（%）

	調査数	言葉を知らない	言葉を聞いたことがあるが、具体的には知らない	言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない	言葉を知っており、学校として意識して対応している	無回答
小学校	219	0.5	0.0	35.2	64.4	0.0
中学校	99	0.0	0.0	30.3	69.7	0.0
全日制高校	53	0.0	1.9	69.8	28.3	0.0
定時・通信制高校	12	0.0	0.0	58.3	41.7	0.0
特別支援学校	19	0.0	0.0	47.4	52.6	0.0

② 「ヤングケアラー」の実態把握の状況

「ヤングケアラー」の概念について「言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した学校に、実態把握の状況について聞いたところ「把握している」割合は、中学校は約５割、定時・通信制高校は８割と高くなっている。全日制高校は「「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」割合が約５割と高くなっている。

図表 132 「ヤングケアラー」の実態把握の状況

（%）

	調査数	把握している	「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない	該当する子どもはいない（これまでもいなかった）	無回答
小学校	141	31.2	13.5	55.3	0.0
中学校	69	52.2	20.3	27.5	0.0
全日制高校	15	13.3	46.7	40.0	0.0
定時・通信制高校	5	80.0	20.0	0.0	0.0
特別支援学校	10	30.0	10.0	60.0	0.0

③ 「ヤングケアラー」の把握の方法

「ヤングケアラー」を「把握している」と回答した学校の把握方法について、いずれの学校も「特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している」が最も高くなっている。

図表 133 「ヤングケアラー」の実態把握の方法（複数回答）

（%）

	調査数	アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている	特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している	その他	無回答
小学校	44	9.1	86.4	13.6	0.0
中学校	36	2.8	94.4	8.3	0.0
定時・通信制高校	4	0.0	100.0	25.0	0.0

※「全日制高校」、「特別支援学校」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

④ 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無

「ヤングケアラー」の定義を示したうえで、該当すると思われる子どもの有無について聞いたところ、中学校、全日制高校の約４割が「いる」と回答している。

図表 134 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無

（%）

	調査数	いる	いない	わからない	無回答
小学校	219	26.0	55.7	18.3	0.0
中学校	99	45.5	33.3	21.2	0.0
全日制高校	53	43.4	20.8	35.8	0.0
定時・通信制高校	12	33.3	58.3	8.3	0.0
特別支援学校	19	21.1	57.9	21.1	0.0

⑤ 「ヤングケアラー」の状況について

ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもが「いる」と回答した学校に、ヤングケアラーと思われる子どもの状況について聞いた結果は以下のとおりである。

ｉ）ヤングケアラーと思われる子どもの状況

小学校、中学校は「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が最も高くなっている。また、全日制高校、定時・通信制高校は「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」、「家族の通訳をしている」割合が高くなっている。

図表 135 ヤングケアラーと思われる子どもの状況（複数回答）

（%）

	小学校	中学校	全日制高校	定時・通信制高校
	n＝57	n＝45	n＝23	n＝4
障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている	15.8	48.9	39.1	25.0
家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている	75.4	60.0	60.9	75.0
家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている	5.3	11.1	39.1	50.0
目を離せない家族の見守りや声掛けをしている	5.3	13.3	17.4	25.0
家族の通訳をしている	17.5	15.6	60.9	100.0
家計を支えるために、アルバイト等をしている	0.0	0.0	56.5	50.0
アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している	1.8	4.4	0.0	25.0
病気の家族の看病をしている	3.5	4.4	8.7	25.0
障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている	3.5	15.6	21.7	25.0
障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている	0.0	2.2	0.0	0.0
その他	8.8	4.4	4.3	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0

※「特別支援学校」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

ⅱ）外部の支援につないだケースの有無

小学校は「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」が最も高くなっている。一方、中学校、全日制高校では「外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）」が最も高く、全日制高校は他校と比べ大幅に高くなっている。

図表 136 外部の支援につないだケースの有無（複数回答）

（%）

	調査数	要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある	要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある	外部の支援につないでいない（学校内で対応している）	無回答
小学校	57	14.0	45.6	40.4	0.0
中学校	45	28.9	35.6	37.8	0.0
全日制高校	23	8.7	17.4	78.3	0.0
定時・通信制高校	4	50.0	50.0	0.0	0.0

※「特別支援学校」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

ⅲ）外部の支援につながなかったケースについて

外部の支援につながなかったケースについて、つながなかった理由と対応方法について聞いたところ、以下のような回答があった。

つながなかった理由
・ヤングケアラーとして該当するのか、大変グレーで、確証がない。（小）
・家族が無理に本人に押し付けているわけではないため。（小）
・ヤングケアラーである確証がない。本児だけに任せず家族らも世話をしているから。（小）
・外国籍児童で、幼い子の世話や通訳を行っているということを、本人から聞いたことがあるが、時々遅刻・欠席はあるものの、家の手伝いの一貫としてとらえているため。（小）
・普段の生活、学校生活に大きな支障がないため。（中）
・本人が安定しているから。母親とも連絡や連携を取っているから。（中）
・子ども自身がやりたいことができないほど権利が守られていないケースではない。（中）
・父子家庭であり、父親が仕事に行っている間に障がいのある兄弟の世話をしている。父親は協力的である。（中）
・本人が不登校状態にあり、十分会うことができていない。家庭での様子を尋ねたときに、幼児の面倒を見ることがあると話したことはあるが、程度がわからない。保護者は、家庭の状況を詳しく話したがらない。（中）
・学業や生活での困難度が外部支援が必要な程度とは思われないから。（高）
・該当生徒から困り感の訴えがないため（高）
・外部の支援を本人が望んでいないため（学校内でも特定の教員以外に知られることを望まず、家庭の状況について話していることを保護者に知られることも望んでいない）（高）

対応方法
・担任が声を聞くなどする。 本人の様子を細かく観察する。（小）（中）
・保護者との面談（電話含）、本人への聴き取りや見届け。（小）
・情報が集まり次第、エールぎふに連絡予定（小）
・児童の様子を注意して見たり、話をよく聞いたりして、家庭状況や本人の気持ちをつかむようにしている。（小）
・教育委員会で、情報共有しながら見届けていく。（中）
・連絡連携。本人との懇談。（中）
・状況を注視しながら把握していく（中）
・学校と父親は定期的に懇談を行っている。（中）
・定期的な担任、学年主任による家庭訪問及び電話連絡。（中）
・担任、教育相談担当者が時々話を聴いている。（高）
・担任やカウンセラーとの懇談（高）
・学校内で支援体制をつくるためにスクールソーシャルワーカーを派遣した。（高）

iv）ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること

ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していることについて聞いたところ、以下のような回答があった。

本人の状況を把握
・該当児童との会話や行動、服装などの変化を把握するように努めている。（小）
・児童の相談に乗る際に家庭状況も聞き取るようにしている。（小）
・対象児童の日々の様子の変化に気を付けている。また，担任が頻繁に声をかけるようにしている。（小）
・家庭の状況の把握に努めるが、本人や家族の気持ちに寄り添った声かけをする。学校がなんでも言える楽しい場であるようにする。（小）
・生活ノート（日記）を書かせて、児童の生活の様子を把握するように努めている。（小）
・心のアンケートを定期的に行い、児童の心の様相をつかみ、一人一人と懇談の場をもつようにしている。（小）
・生活アンケート、生徒観察、毎日の生活ノートなどから、情報をつかむ。（中）
・アンケートなどをもとに、二者懇談を行い、生徒一人一人と話をし、生徒理解に努めている。（中）
・授業中でも相談室の使用を認めている。悩み事などの相談を、定期的に行なっている。（中）
・教育相談や心のアンケート等を活用して、個別に話す機会を定期的に設定している。（中）
・全ての生徒の様子について、毎週交流を重ねている。気になる生徒が見つかった場合、関係をもてる職員を切り込み口に、様子を把握し、対応しようと取り組んでいる。（中）
・教育相談アンケートを実施するとともに、定期的に教育相談週間を設け、担任と生徒が話をする機会を意図的に設定している。スクールカウンセラーによる「ＳＯＳの出し方教室」を開いて、困ったときの相談の仕方を指導している。（中）
・生徒の悩みに気づけるよう、記入式、対面式等でアンケートや教育相談を定期的に行なっている。（中）
・教員に相談できる機会を設けること。三者懇談や教育相談週間や心のアンケート後の面談など。（高）

・保護者を交えての懇談や担任と本人との教育相談の場において、家庭環境について話を聞いている。（高）
・生徒の様子、家庭状況の把握、相談や懇談によりその状況を知る。（高）
・本人はヤングケアラーと気付いておらず当たり前のことだと認識している場合がある。自分さえ我慢すればよいといった考えや諦めている場合も考えられるため、信頼関係をもとに、話しやすい環境を整えることに注視している。情報共有を心がけ外部連携を積極的に実施している。（高）
・本人の学校生活の変化（学習意欲・アルバイト環境・体調不良・相談室保健室利用状況・ふとした言動等）（高）
・学校生活の中での注意深い見守りと面談での対話。（高）
・長期休業明けの教育相談週間での担任との二者面談において、家庭での過ごし方や様子を聞いている。（高）
・本人が負担に感じていないか、常に観察する。（高）

保護者との連絡

・保護者との信頼関係構築を大切にし、支援につなぐこと。（小）
・気になった内容は早急に直接保護者に確認する。（小）
・該当児童の家庭には、月に 1～2 回、電話や家庭訪問で家庭状況の把握に努めている。（小）
・家庭とよく連絡を取って、状況を把握しようと努めている。（小）
・家庭への連絡を行ったり、家庭訪問を行ったりするなど、保護者と話をしている。（中）
・担任が面談等で家庭環境を把握している。家族の一員として助け合いをしているレベルなのか、支援を要する状況なのかを学校全体で慎重に見極めている。（高）
・親の支援もできるように気を付けている。（高）

校内での連携体制

・打ち合わせや会議、研修の場を通して職員に啓発し、子どもの様子の変化やＳＯＳを見逃さないように努める。（小）
・すべての職員には報告を徹底している。特に毎週の打ち合わせで生徒指導交流を行い、全職員で情報を共有している。子どもの変化を見落とささないようにアンテナを高くするよう職員で声を掛け合っている。関係機関との接続も視野に入れて校内での検討会を行っている。（小）
・複数の職員で見守り、情報共有している。（小）
・校内職員間の連携、共通理解。教育相談員との情報交流（中）
・学級担任や学年主任との連携による情報収集と管理職との情報共有に努めている。（中）
・校医との情報共有を行う。（中）
・職員間の情報共有をしやすいように、日常的な会話を活発にしている。（中）
・管理職や生徒指導が授業参観をしたり、学年主任からの情報を共有したりして、小さな変化に気づける職場を大切にしている。（中）
・毎月の職員会議で気になる生徒の情報を共有する。普段の様子を観察し異変を感じた場合は職員間で連携して対応する。（高）

外部との連携体制
・児童や家庭からの情報が少なく、兄弟が通う園や学校等の関係機関から情報を得る。（小）
・学校のみでは対応しきれない問題が出てきたときに、町の福祉課等と速やかに連携をとることができるようにする。（小）
・日頃から社会福祉課との情報交換を常に行っている。（中）
・市教委や支援施設への連絡は即時取れるようにしている。（中）
・出身中学校からの情報。（高）
・中学校からの申し送りを参考として、生徒への声かけや欠席内容の確認。（高）
・他の兄弟の通学している機関との連携。（高）
・児童家庭課と連携し、情報共有を実施。（高）

ｖ）ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じること

ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることについて聞いたところ、以下のような回答があった。

家庭状況の把握の難しさ
・家庭内のことで問題が表面化しにくい。（小）
・家庭内のことであるし、虐待のように身体状況に表れることがなく、学校で認知することが難しい。（小）
・どこまで家庭に踏み込んでも良いものか、難しく感じる。（小）
・学校が直接介入することが難しいため、正確な状況把握や効果的な対応がしにくい。（小）
・コロナ禍のため、家庭訪問等も、必然的な理由がないと行いにくい。（中）
・家庭内のデリケートな内容のため、学校側から生徒や保護者に確認することが難しい。（中）
・家庭内の状況を詳しく子どもに聞く事が難しい。また、子どもの話がどこまで事実であるかを確かめることも難しい。（中）
・学校では普通に生活しているが、家庭ではヤングケアラーとなっているという生徒を把握することは難しい。（中）
・外国籍の家庭については、日本語での意思疎通・家族構成が複雑な家庭との連携。（中）
・実態を掴むことが、本人の訴えや周囲からの情報提供がないと把握しづらいこと。（中）
・生徒との関わりをきっかけに家庭に深く関わることは躊躇してしまう。外部機関に相談しても、外部機関が直接動くことはあまりなく、学校が抱え込むことになる。（中）
・外国籍の家庭など、言葉の壁もあり状況が正確に把握することが難しい。（高）
・家庭内の実態を把握することは、プライバシーに関することであるため、本人から申し出がない限り難しいと感じる。（高）
・自分から助けてと言ってくる場合はいいが、本人や家族が踏み込んでほしくないのに、こちらから声掛けをするのは難しい。（高）
・本人が外部からの支援を望まない場合や、本人から得た情報を保護者に伝えることで本人が家庭での居場所を失うかもしれない。（高）
・家庭内の問題に対し学校がどの程度介入したらよいか 生徒の中には家庭の状況に触れてほしくない者もいる。（高）
・本人の訴えがない場合の把握が難しい。家庭への介入が学校ができることに制限がある。（高）

保護者の理解が得にくい
・保護者との信頼関係を崩すことなく家庭に踏み込んでいくこと。（小） ・ヤングケアラーに対する保護者や子どもの知識や自覚が十分でなく、サインが見えづらい。（小） ・保護者の感情を害さずに子どもの気持ちを伝えること。（小） ・親との連絡が取り合えない。話せても親は真実を話さない。（小） ・子ども自身がヤングケアラーという意識がないことはあるが、保護者自身にその意識がないことで学校へ相談してくることがほとんどない。（小） ・児童からの相談やアンケートの記述がない限り、把握することが難しい。把握後も、児童と保護者の関係が悪くならないように支援をする必要があるため、支援を進めることが難しい。（小） ・保護者に養育力や生活力がないこと、協力体制が得られないこと。（中） ・教師の立場では権限がないこと。（中） ・学校だけでは対応が困難であり、外部の支援につなごうとしても、保護者の了解をなかなか得られない。（中） ・家庭訪問を嫌がる保護者が増えた。（高） ・家庭の外部の第三者の介入に対する拒否感。（高）
子ども本人の自覚がない
・お手伝いとの区別。（小） ・子供も小さいのでどこからがヤングケアラーなのか把握が難しい。（小） ・児童が保護者をかばい、真実や本心を打ち明けられないことがあるのではないかと危惧する。（小） ・子がきょうだいの世話をしたり、通訳をしたりしている状況があるが、してはいけないことではなく、負担ならない程度の指導が難しい。（小） ・本人が、幼児の世話のための欠席を嫌がっていない。（小） ・児童本人に、ヤングケアラーの自覚がなく、その生活が普通の事だと思っている。（小） ・手伝いや家庭での仕事をすることとの線引き。（中） ・隠したり、言いたがらない生徒の状況を正確に把握することは難しい。（中） ・子ども自身はそれを当然と感じていて、苦痛と思っていない場合が多い。（中） ・本人が困っていることに気付いていない。自分から発信できない、その状況が当たり前になってしまっている。（中） ・自ら相談してこない生徒を含めて実態を把握すること、また、生徒が抱えている困難をいかに解決すればよいのかその対応を具体化すること。（中） ・本人がヤングケアラーであることをわかっていない。（高） ・生徒にヤングケアラーの自覚がなく、悩み感がなく、相談がない。（高）
対応の時間が十分にとれない
・ヤングケアラーの把握や支援のノウハウが浸透していない。教員に時間的余裕がない。（高）

vi）ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目

ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目について、意見や変更・追加項目を聞いたところ、以下のような回答があった。

参考：チェック項目案

□学校を休みがちである	□保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
□遅刻や早退が多い	□学校に必要なものを用意してもらえない
□保健室で過ごしていることが多い	□部活を途中でやめてしまった
□精神的な不安定さがある	□修学旅行や宿泊行事等を欠席する
□身だしなみが整っていない	□校納金が遅れる、未払い
□学力が低下している	
□宿題や持ち物の忘れ物が多い	

全体に関する意見

・良いと思います。（小）
・毎日の食事はどうしているのか。家の人が作ってくれるのか、お弁当を買うのかといったことも聞けるとよいかもしれません。（小）
・「ある」か「なし」で問われると回答がしにくい。また、選択肢が極端。（小）
・特になし。（中）
・全く登校がない場合答えにくい。（中）
・ネグレクトの傾向のある保護者が家事をしないために仕方なく家事をするケースや、家事をしないとお小遣いをもらえないために家事をやらされるケースがヤングケアラーにあてはまるのかどうか。（中）
・該当生徒の学校生活の小さな変化に気づく選択肢があるとよい。（中）
・相談室利用についての項目もあるとよい。（中）
・ヤングケアラーでなくても該当する生徒が多数おり、原因も様々である。（高）
・保健室の項目は（生活習慣からの体調不良）、相談室の項目を起こしてください。相談室（教室に行きにくいなんとなく愁訴）。アルバイトの項目も経済的な状況からヤングケアラーかつ生活者で視点から必要とも思われます。（高）

変更項目案

・学校を休むことが多い。（中）

追加項目案

＜本人の状況＞
・授業中よく寝ている。（睡眠時間が削られる可能性が高いため）（小）（中）
・病院に連れて行ってもらえない。（小）
・家族のことを話したがらない（小）
・疲れている様子で、ぐったりしている事が多い。（小）
・欠席連絡を本人がしてくる。（中）（高）
・以前と比較して、表情も暗く授業中伏せ寝をしていることが多くなった。（中）
・昼食を取っていない。（高）
・特定教職員へ愛着行動の替わりのような依存を見せる。（高）
・友人からの情報。（高）
・元気がない 疲れている様子。（高）
・やせすぎている。（高）

＜保護者の状況＞
・体調不良で早退が必要になっても迎えに来ない（小）
・保護者と連絡がつきにくい。（小）（高）
・欠席連絡がもらえない。（中）
・保護者に連絡が取りづらい。約束をしてもドタキャンされる。（高）
・学校行事（保護者懇談会）に保護者が参加しない。（高）

⑥ ヤングケアラーがいるか分からない理由

ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもがいるか「わからない」と回答した理由について、いずれの学校も「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が最も高く、次いで「対象となる子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない」となっている。

図表 137 ヤングケアラーがいるか分からない理由（複数回答）

（%）

	小学校	中学校	全日制高校
	n＝40	n＝21	n＝19
学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している	5.0	4.8	15.8
不登校やいじめなどに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる	5.0	0.0	36.8
家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい	95.0	100.0	89.5
対象となる子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない	25.0	38.1	52.6
その他	2.5	4.8	5.3
無回答	0.0	0.0	0.0

※「定時・通信制高校」、「特別支援学校」はサンプル数が非常に少ないため掲載を省略。

⑦ ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと

ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことについて、小学校、中学校、全日制高校、定時・通信制高校は「教職員がヤングケアラーについて知ること」が最も高く、次いで「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」等で割合が高くなっている。特別支援学校では、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」が最も高く、次いで「教職員がヤングケアラーについて知ること」となっている。

図表 138 ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと（複数回答）

（%）

	小学校	中学校	全日制高校	定時・通信制高校	特別支援学校
	n＝219	n＝99	n＝53	n＝12	n＝19
子ども自身がヤングケアラーについて知ること	84.0	86.9	86.8	75.0	68.4
教職員がヤングケアラーについて知ること	92.7	88.9	88.7	91.7	84.2
学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること	62.1	61.6	41.5	58.3	52.6
SSW や SC などの専門職の配置が充実すること	71.7	64.6	50.9	58.3	52.6
子どもが教員に相談しやすい関係をつくること	90.9	84.8	75.5	83.3	89.5
ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること	28.8	27.3	5.7	25.0	26.3
学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること	58.4	57.6	39.6	16.7	42.1
学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること	65.8	60.6	54.7	50.0	57.9
ヤングケアラーを支援する NPO などの団体が増えること	35.2	24.2	24.5	25.0	63.2
福祉と教育の連携を進めること	21.5	22.2	11.3	16.7	26.3
その他	2.7	4.0	1.9	0.0	0.0
特にない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（４）個別の事例

ヤングケアラーと思われる子どもを「支援している事例がある」と回答した学校のうち、要保護児童対策地域協議会に通告したケースは25件、学校以外の外部の支援につないだケースは50件となり、調査結果は以下のとおりである。

① 性別

性別にみると、「女性」の割合が高くなっている。

図表 139 性別

（%）

	女性	男性	無回答
外部機関につないだケースｎ＝75	56.0	33.3	10.7

② 学校生活の状況

「学校を休みがちである」の割合が最も高く、次いで「遅刻や早退が多い」、「保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い」となっている。

図表 140 学校生活の状況（複数回答）

（%）

	外部機関につないだケース ｎ＝75
学校を休みがちである	45.3
遅刻や早退が多い	42.7
保健室で過ごしていることが多い	1.3
精神的な不安定さがある	30.7
身だしなみが整っていない	17.3
学力が低下している	25.3
宿題や持ち物の忘れ物が多い	24.0
保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	32.0
学校に必要なものを用意してもらえない	16.0
部活を途中でやめてしまった	4.0
修学旅行や宿泊行事等を欠席する	5.3
校納金が遅れる、未払い	24.0
その他	10.7
無回答	9.3

③ 家族構成

「二世代世帯」の割合が最も高く、次いで「ひとり親家庭」となっている。

図表 141 家族構成

（%）

	二世代世帯	三世代世帯	ひとり親家庭	その他	無回答
外部機関につないだケースｎ＝75	44.0	16.0	30.7	2.7	6.7

④ ケアの状況

ｉ）ケアの状況の把握

ケアの状況を把握している「はい」の割合がほとんどを占めている。

図表 142 ケアの状況の把握

（%）

	把握していない「はい」	把握していない「いいえ」	無回答
外部機関につないだケース n＝75	80.0	10.7	9.3

ケアの状況を把握していると回答した学校に、ケアを必要としている人、ケアを必要としている人の状況、ケアの内容について調査した結果は以下のとおりである。

ii）ケアを必要としている人

「きょうだい」の割合が最も高く、次いで「母親」となっている。

図表 143 ケアを必要としている人（複数回答）

（%）

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
外部機関につないだケース n＝60	29.3	6.7	1.3	4.0	56.0	2.7	0.0

iii）ケアを必要としている人の状況

「幼い」の割合が最も高く、次いで「精神疾患（疑い含む）」となっている。

図表 144 ケアを必要としている人の状況（複数回答）

（%）

	外部機関につないだケース n＝60
高齢（65 歳以上）	4.0
幼い	49.3
要介護（介護が必要な状態）	4.0
認知症	0.0
身体障がい	4.0
知的障がい	5.3
精神疾患（疑い含む）	13.3
依存症（疑い含む）	2.7
精神疾患、依存症以外の病気	12.0
その他	10.7
わからない	1.3
無回答	0.0

ⅳ）ケアの内容

「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が最も高く、次いで「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」となっている。

図表 145 ケアの内容（複数回答）

（%）

	外部機関につないだケース n ＝60
家事（食事の準備や掃除、洗濯）	48.0
きょうだいの世話や保育所等への送迎など	44.0
身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	4.0
外出の付き添い（買い物、散歩など）	9.3
通院の付き添い	5.3
感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	13.3
見守り	16.0
通訳（日本語や手話など）	4.0
金銭管理	2.7
薬の管理	2.7
その他	5.3
わからない	0.0
無回答	0.0

⑤ ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ※自由記述

「特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している」の割合が最も高くなっている。また、自由記述の内容をもとに、分類した結果は以下のとおりである。

図表 146 ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ

（%）

	外部機関につないだケース n ＝75
アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている	2.7
特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している	84.0
その他	13.2
無回答	12.0

図表 147 ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ（複数回答・自由記述）

（件）

	外部機関につないだケース				
	小学	中学	全日制高校	定時・通信制高校	特別支援学校
本人の話から	3	9	2	2	1
学校生活の状況から	6	5	1		1
学校の面談、アンケートから	3	3	1		
SSW、SC、養護教諭などから	1	2			
市区町村教育委員会、要保護児童対策地域協議会				1	
外部機関からの連絡	4	2		1	
保護者の言動、状況	9	2			
出身校からの引き継ぎ	1	5		2	
家庭訪問	1	2			
その他	3	1	2	2	

⑥ つないだ機関 ※自由記述

自由記述の内容をもとに、分類した結果（複数回答）は以下のとおりである。

図表 148 つないだ機関（自由記述）

（件）

	外部機関につないだケース				
	小学	中学	全日制高校	定時・通信制高校	特別支援学校
教育委員会	6	4	2		
児童相談所		3			
その他	9	7	1	1	3
自治体	9	7	2	2	1

⑦ 外部機関へのつなぎ方

外部機関へは、「学校から直接連絡」の割合が最も高くなっている。

図表 149 外部機関へのつなぎ方（複数回答）

（%）

	外部機関につないだケース n＝75
市区町村教育委員会経由	34.7
学校から直接連絡	45.3
その他	10.7
無回答	9.3

⑧ 学校が行った支援等（つなぎ先との連携も含めて）、支援した結果、子どもへの変化

学校が行った支援等や、その結果の子どもへの変化について、以下のような回答があった。

要対協通告ケース　■■■小学校		
	学校が行った支援等	支援した結果、子どもの変化
〈ケース会議〉	・家庭訪問、子相への通告、本人のカウンセリング。各機関と連携し情報提供。ケース会を開くこと。 ・ケース会議を通じて、児童家庭課より保護者への働きかけをしてもらった。	・子供が職員に家庭の様子や、親のことを話せるようになった。 ・遅刻、欠席が減少している。
〈本人への対応〉	・定期的な声かけ 保護者との連絡。 ・声かけ、観察。 ・子どもからの聞き取りと家庭訪問などでの生活支援 ・学校生活の様子を見守り、毎月関係機関に報告している。 ・当該児の見守り。担任や養護教諭を中心とした教育相談。	・家庭での様子について、話してくれるようになった。 ・特に変化なし。 ・特になし。 ・現在、学校生活を意欲的に送っており、問題はない。 ・安定した学校生活を送っている。
〈家族への連絡〉	・保護者との懇談。	・落ち着いている。
〈外部機関との連携〉	・社会福祉協議会との連携。要対協との連携 ・市役所・児童相談所・市教委連携して見守り・家庭訪問・相談体制作り。	・特に変化なし。 ・学校への登校が増えた。

要対協通告ケース　■■■中学校		
	学校が行った支援等	支援した結果、子どもの変化
〈本人への対応〉	・本人の心のケア（家庭訪問・電話連絡等）	・経過観察中。
	・必要な校納金があれば早めに伝え準備してもらえるようにする。ＳＳＷとの連携。	・滞納することがなくなった。
	・本人の話を丁寧に聞き、いつでも本人が安心して相談できる体制をつくった。	・父親の理解が得られ、本人の負担が減少した。学校へ登校できないことも少なくなった。
	・定期的な家庭訪問。	・担任といっしょに散歩できるようになってきた
	・学校での初期の聞き取り。	・子供相談センターの保護対象となり、里親に預けられることになった。里親との生活で、学習面でも生活面でも落ち着きが見られた。
	・適応指導教室相談員と本人とのカウンセリング。	・生活状況を把握できるようになった。
	・学習配慮、子相との連携	・現在経過観察中。
〈家族への連絡〉	・家庭訪問、保護者面談等。	・波はあるが、登校状況の改善が見られている。
	・家庭訪問と保護者への連絡を定期的に実施している。	・変化はない。
〈外部機関との連携〉	・子相、家児相と連携をとりながら、学校へ来るためのきっかけづくりを行ったり、登校した際に寄り添いながら話を聞いたりした。	・登校日数等大きな変化はないが、相談できるところが増えたことで本人が気持ちや困り感を伝えることができるようになった。
	・エール岐阜の職員と、キーマンの姉との面談の場の設定。姉に関係機関を紹介。	・変化なし

要対協通告ケース　■■■高校		
	学校が行った支援等	支援した結果、子どもの変化
〈本人への対応〉	・本人の心のケア（家庭訪問・電話連絡等）	・経過観察中。
	・必要な校納金があれば早めに伝え準備してもらえるようにする。ＳＳＷとの連携。	・滞納することがなくなった。
	・本人の話を丁寧に聞き、いつでも本人が安心して相談できる体制をつくった。	・父親の理解が得られ、本人の負担が減少した。学校へ登校できないことも少なくなった。
	・定期的な家庭訪問。	・担任といっしょに散歩できるようになってきた
	・学校での初期の聞き取り。	・子供相談センターの保護対象となり、里親に預けられることになった。里親との生活で、学習面でも生活面でも落ち着きが見られた。
	・適応指導教室相談員と本人とのカウンセリング。	・生活状況を把握できるようになった。
	・学習配慮、子相との連携	・現在経過観察中。
〈家族への連絡〉	・家庭訪問、保護者面談等。	・波はあるが、登校状況の改善が見られている。
	・家庭訪問と保護者への連絡を定期的に実施している。	・変化はない。
〈外部機関との連携〉	・子相、家児相と連携をとりながら、学校へ来るためのきっかけづくりを行ったり、登校した際に寄り添いながら話を聞いたりした。	・登校日数等大きな変化はないが、相談できるところが増えたことで本人が気持ちや困り感を伝えることができるようになった。
	・エール岐阜の職員と、キーマンの姉との面談の場の設定。姉に関係機関を紹介。	・変化なし

第４章

インタビュー調査

第４章　インタビュー調査

１．インタビュー調査の実施概要

日常的に家事や家族の世話などを行っているヤングケアラーに対する支援策を検討するため、ヤングケアラーと思われる子どもの実態や課題等を把握することを目的とし、元ヤングケアラー、自治体、福祉・介護・医療・教育等幅広い分野の関係者にインタビュー調査を実施した。

（１）調査対象・実施時期

調査対象：元ヤングケアラー　３名
自治体、関係団体（高齢、障がい、医療、多文化共生）、特別支援学校 17箇所
実施期間：2022年８月から2023年１月　30分から１時間程度

（２）調査方法

実施方法：対面またはオンライン

２．元ヤングケアラーインタビュー調査結果

以下の３名にインタビュー調査を実施した。

インタビュー対象者　１

Ａさん
30 代女性。父親、母親、兄、本人の家族構成。父親はほとんど家にいなかったが、家に帰ってくるようになると、今度は母親が会いたくないからと家にいなくなった。中学１年生で母親と実家をでてアパートで暮らし始める。兄は歳が離れていて、親戚の家から学校に通っていた。

ヤングケアラーであることの認識

- 自分がヤングケアラーなのかわかったのは大人になってから。
- ヤングケアラーというのは、誰かの世話、介護や下の子の面倒を見ているなど、そういうイメージ。
- 自分はそこにはたぶんあてはまらないが、精神的に不安定な父母に対応しながら生活をしなければならなかった。また、親が家にいないことで、自分の洗濯や自分の学校の用意をせざるを得なかった。

大変だったこと、つらかったこと

＜生活について＞

- 電気やガスが止まると、父親が怒ってガス屋電気屋に電話をする。情けない気持ちになるし、その姿はいまでも覚えている。

＜周囲の目＞

- 友達がみんないい子で、仲間外れにされることもなかった。友達に相談したわけではないので、家のことは誰も知らなかったと思う。

＜精神的なつらさ＞

- いい子でいることを強要される。
- 自分の居場所がなくなっていく。家の中がすごく窮屈で、学校に行っているほうが楽しくて、家に帰りたくないと思っていた。

＜さみしさ＞

- 小学校のときは、ほぼ夜は一人のような感じだった。独りぼっちで寂しかった。
- 小学校の４、５年生くらいの頃にいなくなりたい、消えたという思いが芽生えたが、友達が泣くと思ってとどまった。
- 中学生になり両親が離婚すると、家族のことも諦めがついたのか吹っ切れた。実家に一人で残されているよりは負担は軽かった。

＜両親に対する思い＞

- 親がいなくなればという気持ちもあったが、自分の人生が駄目になってしまうのも悔しいので、それはこらえるしかない、諦めるしかなかった。
- 諦めた後で、達観というか、無な感じ。もう仕方がないというか、大人になるまで我慢するしかないなという。

＜学校生活、進路への影響＞

▹学校は楽しかったし、友達もたくさんいて楽しかったけど、高校は誰もいないところに行きたいという気持ちがあった。

▹進路は親には言わずに、中学の担任の先生にその都度相談していた。

▹高校も楽しかった。友達もできたが、自分が一人暮らしをしているということも言わなかったし、普通に過ごしていた。

相談の状況、相談相手

＜相談しようと思わなかった、相談できなかった理由＞

▹育ちの問題もあるかもしれないが、自分で決めたことであれば「自分のせいだ」と受け入れられる。しかし、誰かに相談して決めて悪くなってしまったときに、人のせいにしたくない。自分で決めておけばよかったと思ってしまう。だから相談もできずにいた気がする。

＜学校の先生への相談＞

▹中学３年間担任だった先生にだけ相談した。先生なら信用できるなと思った。

今後、ヤングケアラーに必要な支援、取組みについて

＜相談窓口があったら相談するか＞

▹相談窓口があると小学生のときに知っていたとしても、相談しなかった。わかってもらえないとか、言ったところで変わらないというか、諦め癖があったかもしれない。諦めてからは難しいと思う。

▹今となれば色々思いつくが、その当時はどうすればいいかわからなかった。

▹本当に困っているヤングケアラーは相談しないのではないかと思う。

＜当事者としての気づき＞

▹ヤングケアラーの当事者の子たちは、たぶん自分がそうだとは思っていない。気付かせてあげることが大事。

▹どのような支援があるのか、具体的なことがわかればよかったかもしれない。

＜「ヤングケアラー」という言葉について＞

▹ヤングケアラーというのが正しく広まって、その人たちに届けばいいと思う。

▹あるお母さんが、うちの子がお皿洗いの手伝いをしてくれましたと SNS で言ったりすると、それをヤングケアラーだと言う人がいる。ただのお手伝いなのにお母さんも悩んでしまうし、ヤングケアラーのイメージが悪くなってしまう。

▹正しい意味で、本当に必要としている人に届いてほしい。

インタビュー対象者２

Ｂさん

20 代女性。父親、母親、兄、弟、本人の家族構成。母親がうつ病の診断、兄には発達障がいがある。弟とは 10 才以上離れている。父親は母親の看病のために会社を退職。本人が中学生の時に母親の実家に引っ越してきた。現在は自宅から離れた地域で就職している。

ヤングケアラーであることの認識

- 兄には発達障がいがあり、家の物を壊したり、母親とのけんかで暴力があったりすると仲裁に入っていた。それは自分の役割だと思っていた。
- 小学２年生の頃に母にうつの診断が出た。
- 中学１年生の頃に、母親の病状が悪化し、家で誰かがついていなければならない状況になったため、父親が会社を退職し、見守りや精神的なケア、家事育児をこなしていた。その頃、母親の実家がある愛知県に一家で引っ越しした。
- 高校１年生の時に弟が生まれたが、母が子育てを上手くできなかった。それまで父と私とで家事をおこなっていたが、そこに育児が加わった。
- 高校生の頃から父親も週３回程度寝込んでしまうことがあり、それが現在も続いている。

家族以外からの支援

＜親族＞

- 母方の祖母とおばに、経済的支援を多少してもらっている。

＜公的援助＞

- 非課税世帯であったことから、経済的支援で受けられるものは全て受けていたと思う。
- ヘルパーや訪問看護等のサービスについては、父親は知っていたはずであるが、他人が家の中に入ることへの抵抗感が大きく、利用していなかった。
- どれだけつらくても、家の中に入られることはハードルが高い。何より、毎日毎日その１日を乗り越えるのに必死。その生活を大きく変えることに、心を向ける余裕もなかった。

大変だったこと、つらかったこと

＜家庭生活と学校生活の両立について＞

- 中学生の時は陸上部に在籍していたが、続けることが難しくなったため、活動日の少ない書道部に変わった。好きなことを続けられないことが、すごく苦しかった。
- 学業は、中学校までは宿題や学校での授業の中で十分についていけたと思っている。高校は進学校に進学したこともあり、家庭での勉強時間を相当確保しないとついていけなくなったが、時間の確保ができなかったため、どんどん順位が下がっていった。
- 勉強ができないという劣等感と、自分らしさが表現できない、体が動かないことに非常に苦しい思いをした。

＜就職について＞

▹自宅から離れた地域に就職を決めたときは、いろいろな葛藤があった。自分は家庭から離れられないと、大学３年生ぐらいまではずっと思い込んでいた。

▹大学に入ってからずっと自分のことを見守ってくれていた先生が、「あなたはヤングケアラーとして、支援をなされるべき存在だ」と言ってくれた。初めてそのように言われ、自分を客観的に見ることができた。

▹先生との信頼関係ができたうえでの話であったことから、余計に沁みたというか、すとんと落ちた。先生が、「家を出るという選択をしてもいいのではないか」ということを言ってくれたことを受け入れられた。

相談の状況、相談相手

＜高校の友達＞

▹一番つらかった時期に色々話せる友達と出会えた。その友達も家族の介護を担っていた。友達の存在は本当に大きかった。

▹「つらいね、うちら頑張っているね」と言い合えるのはよかったが、それも言えないぐらいつらいときは、お互い口を閉じるしかなかった。

＜当事者コミュニティー＞

▹CoCoTELI（ココテリ）という精神障がいの親を持つ子どもの当事者コミュニティーと、YCARP（ワイカープ）という立命館大学の先生が関わっているコミュニティーに大学生の時から入っている。

▹当事者コミュニティーのよさは、定期的にオンラインで近況報告をしたり、他愛もない話をしたり、愚痴ったり、ということを安心してできる場であること。

▹ZOOM なので、どこからでも、皆とつながれる気楽さがある。チャット（Slack（スラック）というアプリ）も使っている。

▹色々なチャットの部屋があり、愚痴をこぼしていい部屋や、情報共有の部屋などがある。返信が欲しいわけでもないが、つぶやきを安心して打ち込める場になっているので、ありがたいと思っている。

＜当事者コミュニティーを知った経緯＞

▹CoCoTELI につながれたきっかけは、中日新聞に取り上げられていた記事を読んだこと。自宅では新聞をとっていなかったが、祖母の家で新聞を何気なく見ていていたら偶然見つけた。

▹他にも同じような境遇の人がいるということ、しかも、その人が「つながろうよ」と言っていることが衝撃的であった。すぐにメールをして「入りたいです」と言った。

▹YCARP は、CoCoTELI の代表の方とつながった際に紹介された。

＜心の支え＞

▹小中高生のときには、心の支えというのはほとんどなかった。そのときに出会えていればと思う。こういうものがあるだけでも、無気力になってしまうということは減ったのではないかと感じる。

今後、ヤングケアラーに必要な支援、取組みについて

＜当事者コミュニティーで出てきた意見＞

- ▹ヘルパーさんが家に入ってくることはすごくハードルが高いが、配食サービスや、例えば洗濯サービスがあれば、すごくいいという意見があった。
- ▹配食サービスは、一家がコロナになったときに経験したが、自宅に弁当が届くというのは、自分が作らなくていいのですごくよかった。
- ▹洗濯サービスは、中に入らず玄関先まで洗濯を置いておくと、乾燥までして戻してくれるイメージ。もしあったら、夢のようだという話がでた。

＜第三の場所＞

- ▹コミュニティー内でオンラインでつながることも嬉しいが、学生時代に家と学校しか行き場がない中で、地域に第三の場として居場所があると嬉しいと思う。いつでも立ち寄れて、話を聞いてくれる大人がいたり、同世代の子もそこにいたりという場があるといいと思う。
- ▹ただ、ヤングケアラーに対して開いている場となると行きづらい。支援を受けに行くことはハードルが高い。「このような催しをやっているからおいで」と門戸を広げることが、本当に困っている方にとっても行きやすい場になるのではないかと最近思っている。
- ▹歩いていける、自転車でいける、学校の帰りに寄れるような距離感がいい。
- ▹スーツ姿のカウンセラーがいるようなところではなく、地域の方が集まっていて、たわいもない話しをしに行く場所という感じのほうが行きやすいのではないか。
- ▹例えば料理教室などがあると生活に直結してありがたいのではないか。簡単にできるメニューを紹介するなど。また、家事のちょっとした工夫などを紹介するといったことでも良い。学校でも家庭でもない、自分らしさを出せる居場所があるというだけでいいと思う。

＜相談できる場所＞

- ▹保健室に行くのもハードルが高いので、学校に例えばスクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカーの方、あと保健の先生を増やして、「いつでもおいで」と言われても、自分は行けないと思う。
- ▹学校の中では、自分は普通でいたいというところがあった。家庭がすごく帰りたくないつらい場所だったのに対して、学校にはずっといたかった。友だちともうまくやれている中で、自分の（家庭での）立場は汚点と考えていた。学校にまでこの問題を持ち込み、友だちに知られるリスクまで背負って相談に行くことはハードルが高い。
- ▹一度だけスクールカウンセラーにつながったことがあったが、しっくりこなかった。

ヤングケアラーの支援で難しいと思う点について

＜「ヤングケアラー」というくくりについて＞

- ▹ヤングケアラーというくくりでオンラインサロンがあっても、なかなか参加しにくいと思う。例えば、精神疾患の親を持つケアラーと、祖父母の介護を担っているケアラーは、家に縛られているというところでは共感できるが、具体的な話になると、「ああ、そうなんだ」しか言えないかもしれない。状況ごとに分かれていた方が参加しやすいのではないか。

＜周知の仕方について＞

▹当事者コミュニティーの情報等は、学校で全員に配るのがいいのではないか。

▹ヤングケアラーとしてピックアップされた情報というよりは、全員向けに、という方がハードルが低い。

▹ホットラインとして、カードのようなもののヤングケアラーバージョンを作成したとしても、「ヤングケアラー」という言葉を使うことはもしかしたらいいことではないかもしれないと感じる。

＜当事者のヤングケアラーの認知について＞

▹自分がヤングケアラーだとはなかなか言えないのではないか。ヤングケアラーという言葉が流行っている弊害だと思うが、親は自分の子どもがヤングケアラーになっている、自分がしてしまっているということを認めたくない人たちも多いと思う。

▹ヤングケアラーという言葉が出はじめた時に私が少し話を出したら、母親が「あなたは違う」と言い、すごい抵抗感を出してきた。

▹学校からお便りを持って帰って、「自分はこれだね」と親には見せづらい。言葉一つ一つも考えなければいけない。

＜介入支援について＞

▹子ども食堂をされている方から聞いた話だが、子ども食堂にいつも来ていた子どもが来なくなったから、自宅に食事を届けに行ったら、扉を開いてくれなかった。しかし、「置いておくから誰とでもいいから食べてね」というメモを添えて玄関に吊しておいたら、受け取っていたという。直接つながることは大切だが、無理強いすると、さらに壁をつくってしまうことになるのだと感じた。

▹自分は家族のことをすごく大事に思っているし、その気持ちはずっとあった。皆で頑張っている。両親も、家事ができなくても何かしらのつらさと戦っているということはすごく理解していた。

▹その中で介入されると、そのような環境を子どもにつくっている親が悪いというかたちになると思う。それは、子どもにとってすごく嫌だと思う。

▹「一緒に頑張ろう」と伴走してくれる支援のほうが、本当にありがたいと思う。

インタビュー対象者３

Ｃさん

30 代男性。母親、本人、母方祖母の３人家族。中学生の頃に祖母の住む家に母と引っ越してきた。母親は朝早く、夜遅くまで働くこともあり、７０代の祖母の介護を担っていた。全日制の高校に進学したが、介護のため通信制に転学。通信制大学を卒業後も資格を取得するなどして、介護と勉強の両立を図っていた。

ヤングケアラーであることの認識

- 中学生の頃に祖母が１人で住むマンションに母と２人で引っ越し。祖母は徘徊等の認知症らしき症状があったことから、誰かが見ていないといけない状況になっていた。一緒に住むだけだと思っていたため、こんな状況であることを知っていたら、同居することに反対したかもしれない。いつの間にか巻き込まれていたような感じであった。
- 二重鍵をしても開けてしまうため、外に出ていこうとするのを引き止めたりしていた。夜中も突然出て行くかもしれないことから、気が休まる暇もなかった。
- 特殊な鎖などで玄関などを閉めておけばよかったのかもしれないが、虐待になりかねないことから、対応が難しかった。

同居家族以外の支援

＜公的援助＞

- 祖母は介護認定は受けていたが、見栄を張りたいのか、自立している風に見せたいのか理由までは分からないが、できないことも「できる」と言ってしまい、適正な介護認定を受けることができなかった。
- 現実の状態よりも実際の介護認定が下がってしまった結果、使用できるサービスの日数が少なくなってしまい、そのしわ寄せが自分にきてしまった。
- デイサービスを利用していたが、週に数回しか行けなかったことから、デイサービスを利用しない時間はすべて自分がお世話することになった。デイサービスも朝９時頃に迎えがきて１７時前には戻ってくることから、残り１６時間ほどをお世話していた。
- ヘルパーを自宅にいれることについては、母親が難色を示していた。特にヘルパーによる盗難のニュースなどを見て、金品を盗まれるのではないかというセキュリティの問題を気にしていた。
- 特別養護老人ホーム等への入所も検討したが、空きがないと言われたり１年待ち２年待ちと言われたりしてしまい、難しかった。

＜近所とのつきあい＞

- 祖母ももともとの地元ではないことから、近所づきあいはあまりなかった。徘徊して怪我をしてマンションのエントランスで倒れていた際には、住民の方が救急車を呼んでくれたことはあったが、それ以上の関わりは特になかった。
- 自分も地元ではないことから、地域とのつながりがなかった。また、引っ越してきてすぐに色々なことが起きたこともあり、近所と関わっても迷惑をかけてしまうのではないかという思いが強く、積極的に関わることはなかった。

大変だったこと、つらかったこと

＜学校生活について＞

▹引っ越すまでは部活動をしていたが、祖母と同居をはじめてからはできなくなった。

▹学業は、中高一貫校に通っていたが、欠席日数が多くなり、介護にも支障がでることから、高校１年生の時に通信制高校に転学した。

＜友達関係について＞

▹友達と思うように付き合えない原因は、介護よりもむしろ交通費がなかったことに起因している。

▹引っ越しをしてしまったことから、友達がいるエリアに行くまでに交通費がかかってしまう。遊びに行くとお金がどんどん出ていくことから、節約も考えると遊びに行きにくかった。

▹小中高を通じて今も付き合いのある友人はあまりいない。

＜祖母のお世話＞

▹メンタルケアがつらかった。祖母は「もう死んじゃいたい」とか「どっか飛び降りしたい」とか、突然変なことを言い出すことがあった。

▹対面でそのようなことを言われるので、自分自身も精神的に追い詰められることもあった。あまりそういうことを言わないでほしかったが、病気なので仕方がないと思っていた。

今後、ヤングケアラーに必要な支援、取組みについて

＜学習面の支援＞

▹日本学生支援機構の奨学金は、通信制大学の場合、かなり少額である。

▹他の大学生では毎月一定額が支払われるところ、通信制大学生では他の大学生が毎月受け取る程度の金額が年に１回支払われるのみである。

▹通信制の学生はバイトができると仮定されているようで、介護でバイトができない学生への配慮がない。

▹また、通信制でも学校に行く必要が全くないわけではなく、交通費がかかる。

▹例えば、介護している人が介護保険証などを提示して、全日制の学生と同じかもしくはもう少し多く貸与や給付してもらえる制度があれば、学習を続けやすいのではないかと思う。

▹ヤングケアラー、若者ケアラーへの奨学金の充実は必要。ケアをしているからこそ学費のサポートが追いついていない部分が多分ある。金額の問題もあるが、すこし加算してあげることは必要ではないかと思う。

▹通信制の場合は通信環境も大切。携帯回線や家に光ファイバー回線があり、結構速度が速くないと、きちんと映像がうつらなかったりする。また、サブの回線もないと勉強ができなくなることがある。ある程度の通信費がかかってしまうことから、そういった支援があるといい。

＜介護認定時の聞き取り調査＞

▹介護認定の時に、できるかできないかを本人から聞くだけではなく、実際お世話をしている人の話もよく聞くことが必要ではないか。よく聞かないと分からないことがあると思う。ちょっと聞くだけではなく、「実際のところはどうなのですか」という聞き方をしないと、介護度が低くなってしまう家庭が結構あるのではないかと思う。

＜セキュリティ面への支援＞

▹ヘルパー等外部の人間が自宅に入ることについて、家族が希望した場合に、改築などのセキュリティ策を講じるための補助制度などがあればと思う。

▹家族にとっても安心・安全な介護を受けられる環境づくりについて考えていかなければならないのではと思う。

＜リフレッシュする時間が必要＞

▹完全な休息を定期的に取れれば良かったと思う。家で休んでいるだけでは、日頃の介護のことを考えてしまい、完全な休息にはならない。本当の意味でのリフレッシュをするのであれば、場所を変えないと、難しいと思う。

▹介護をしているご家族のサポートと気分転換として、ホテル宿泊などの補助をするというような発想があってもいいと思う。

ヤングケアラーの支援で難しいと思う点について

＜介入について＞

▹先生や行政機関からの介入について、自分が中高生の時にあれば多少良かったような気もするが、一方で当時の自分が相談等できたかは別の問題。やはり不安感がある。

３．自治体・関係機関・学校インタビュー調査結果

（１）岐阜県居宅介護支援事業協議会

介護従事者のサポートを専門とする組織であり、岐阜県全体の介護保険が利用者にとって質の高いサービスとなるように、研修事業・情報提供等を通じ現場の実践を高める目的で設立された。

ヤングケアラーの把握・支援の状況

- ▹ヤングケアラーという言葉については認知されていて、ケアマネジャーとして接する機会があるのは感じる。ただそれ以上の詳細な把握や解決への道程など、地域の実態については見えてこない。
- ▹70 代 80 代の高齢者のケアをするヤングケアラーは少ないと思われる。理由として同居家族が多い地区では親世代が介護の負担をすることが多いため。
- ▹事例があるとすれば、20 歳代に多いか。その他の場合は後述の事例のような末期がん患者や、家族関係の複雑な世帯が多いのではないか。

ヤングケアラーとどのような関わりがあるか（対応事例）

＜父、息子２人、祖母家族の事例＞

- ▹父は末期がん。息子は成人と中学生だが、中学生の息子がキーパーソンとして病院の事務的な手続きなどに、ケアマネジャーの指示に従い関わっていた。
- ▹想像ではあるが、成人の息子は働いており、代わりに中学生の息子が家事等全般に関わっていたと考えられる。

＜精神疾患のある母親と中学生の娘家族の事例＞

- ▹病院受診の際は、娘に学校を休ませて同伴させていた。
- ▹家事を娘が行っていた。相談支援専門員の関与でヘルパーが入り、負担が軽くなった。

＜精神障がいの母親と高校生の娘家族の事例＞

- ▹母親の感情の起伏が激しく娘が対応していた。
- ▹娘はいつも気を張って緊張している状態だったためか、日頃から人の顔色を窺うような性格になってしまった。
- ▹介護等はなかったものの娘には大きな精神的な影響があった。

＜県外出身者で身寄りのいないうつ病の両親と中学生の娘家族の事例＞

- ▹家事や親の買い物に付き添うため、娘はなかなか学校に行けなかった。
- ▹親の自傷行為の手当ても行っていた。

他機関との連携について

- ▹ケアマネジャーの力量次第のところがあり、ひとりで抱え込んでしまったり、適切なつなぎ先がわからないと困難事例になってしまう。
- ▹要保護児童対策地域協議会にケアマネジャーが呼ばれたという話は今のところ把握していない。

ヤングケアラー支援にあたって困っていること、また、必要と思われること

- ▹国が想定している地域包括ケアにおいて、地域横断的なネットワークの基点となるのが地域包括支援センターになるが、これにも地域で役割機能・認識の格差がある。関係者間の信頼関係の構築が必要ではないか。
- ▹ヤングケアラーを始めとして（例として要介護の祖父母にうつ病の両親、ヤングケアラーの子どもの世帯）一世帯の複合的な問題についてはなかなか把握できない。
- ▹仕組みとして連携シートなどのツールがあり、スクリーニング・アウトリーチ機能を持ったケアマネジャーであれば適切な場所に繋げることができるのではないか。
- ▹介護環境、家族の状況を通常業務でアセスメント（情報収集・課題分析）として行っている。

ヤングケアラー支援の難しい点、課題と思われる点について

- ▹引きこもりなどでもそうだが、行政支援において個人情報の守秘義務の壁があり、介入しづらく、加えて、担当者が替わると関係性が途切れてしまう点。

（２）岐阜県地域包括・在宅介護支援センター協議会

地域の特性を活かし、行政や医療・福祉等関係機関、自治会、民生委員・児童委員等との連携により、介護保険サービスはもとより、住民主体の取り組みや人々の暮らしにかかわる多種多様な業態も含めた社会資源の力を結集させ、高齢者等が住み慣れた場所で安心して尊厳あるその人らしい生活を続けられる地域づくりに取り組んでいる。

ヤングケアラーの把握・支援の状況

- ▹岐阜市内に包括支援センターは 19 ヶ所あるが、ヤングケアラーの相談について確認したところ、年に１、２件ぐらいある。
- ▹岐阜市以外では、岐阜県地域包括・在宅介護支援センター協議会の理事等に確認をとったが、現状理事の方でも確認しているケースはないとのこと。

ヤングケアラーとどのような関わりがあるか（対応事例）

＜小学生の子と父、要介護認定の祖母の家族の事例＞

- ▹父が夜間の仕事をしていたため、昼間は家にいない状態。子は学校に行けておらず、祖母のオムツを替えたりご飯を作っていたりしていた。
- ▹父は祖母の介護を積極的に行っておらず、当方としては祖母への虐待（ネグレクト）案件として関わりながら子どもとの信頼関係を築き、何とかデイサービスを使うようになったことでヤングケアラー状態を脱することができた。

ヤングケアラー支援のための取組について

▹今年の４月に岐阜市役所の方から全包括に対して、ヤングケアラーアセスメントシートが配られた。高齢者に関わった際に児童がいた場合、ある程度アセスメントができるような環境であれば、児童に対してヤングケアラーの説明とシートに沿った聞き取りを実施し、場合によっては岐阜市子ども・若者総合支援センター「エールぎふ」へ繋げるというような流れ、システムができた。

▹岐阜市地域包括支援センター南部の全職員にヤングケアラーについての具体的な話はできていない。ヤングケアラーアセスメントシートについては、職員全員に対し確認が必要な場合は連携を取っていくように話をしている。

▹関市では、来年度から児童に関する相談も、地域包括支援センターが窓口になるというようなことを聞いている。これから広く包括支援センターも子どもに対するアセスメントが求められていると感じている。

他機関との連携について

▹岐阜市の包括の場合は、ヤングケアラーのケースがあったと分かったら、基本、市の高齢福祉課に報告することになっている。

▹岐阜市では福祉相談窓口連携会議を組織しており、毎月、高齢相談窓口、障がい相談窓口、子ども相談窓口、健康保険窓口等々の職員が集まっている。ヤングケアラーの話も出てきている。

▹児童虐待のケースは何ケースも見てきていることから、エールぎふとの連携については、よく経験している。

▹連携ということについては、岐阜市の場合は案外やりやすいと思っている。

ヤングケアラー支援にあたって困っていること、また、必要と思われること

▹国が出しているヤングケアラーの数字を見ると、本来であればもう少し発見しても良いような気はする。ところが、それができてないということは、まだすべてが見えてないと思う。支援に当たって見えづらさはあるのではという印象を持っている。

▹ヤングケアラーの状態、場合によっては、学校の方がより発見しやすい感じはある。例えば包括でも学校との連携ができれば、学校から包括に連絡をもらい、個人情報の許す範囲で相談してもらえれば、私たちがご自宅に伺って、高齢者に対する社会保障をしっかりと伝えてヤングケアラーの状態をなくしていくとか、そういったことはできると思う。

ヤングケアラー支援の難しい点、課題と思われる点について

▹ヤングケアラーと虐待の線引きについて分からないところがある。どう介入するべきか分からないので、その辺が難しい点であり、虐待とヤングケアラーを線引きしてアセスメントしていく難しさが課題。

▹連携の輪の中に学校も入ってきてくれれば、こちらも声をかけやすい。学校もこちらに声をかけやすいような感じになれば良いと思う。岐阜市の包括は１人の高齢者だけではなく、その世帯・ご家族を見るという考え方で動いている。その世帯の中で子どもに対

する問題が見えたら、何とかしてそれを専門的な機関につなげるか、ケース会議の中で解決に向かえないかというように考えるようになっている。

▹新たな制度を作って難しい縦割りにするぐらいなら、今のこの制度の中で、例えば教育委員会を通じて学校が高齢や障がいの会議にも参加できるようなことができると良い。

▹地域づくり・まちづくりでの学校連携は実になってきている。子どもに対して認知症の理解をしてもらうために教室に行って、認知症の話をしたりしている。

▹一方で、１人の児童、１つのケースに対してどう連携をして、どう解決に向かうのかについての（学校との）情報共有まではできていない。

（３）（公社）認知症の人と家族の会　岐阜県支部

認知症になっても仲間がいる、介護でつらい思いをしているのは自分だけではないとの思いを力に、仲間や支援者とつながり、孤立することなく、認知症とともに生きること。これは、どんなに認知症に対する社会的理解や支援が進んでも、変わらぬ大切なこととして、「家族の会」が1980年の結成以来持ち続けてきた目標となっている。

会員は認知症の人を抱えている家族、介護の専門職の方、医師等。

ヤングケアラーの把握・支援の状況

▹把握しているケースは今のところない。

▹立命館大学の先生が調査を開始されており、全国的に把握をしていこうと動きはじめている。

ヤングケアラーとどのような関わりがあるか（対応事例）

▹取り組みはしているが、具体的な事例が少数。子どもなので発信しづらい、声が上がりにくいというところで、現在進行形の事例としては家族の会としても把握ができていない。

＜会員の知人である元ヤングケアラーの話＞

▹現在 30 代。中学生から 20 代半ばまで祖母のお世話をしていた。ひとり親世帯で母親は仕事中心の生活だったため、頼りにすることが難しかった。

▹介護保険制度が始まったばかりで、今よりも融通がきかなかった。デイサービスの場合、学校に行った後に迎えが来て、学校から帰ってくる前に帰ってくる状況だった。

▹介護サービスの認定調査の時に、自分の意見も聞いてほしかった。

▹祖母が夜起きるので、睡眠時間が少なかった。昼に寝ていた。

▹学校を通信制に変わったことで奨学金がもらえなかったので、不安だった。フォローが欲しかった。

▹相談する人がいなかったので全部自分で調べた。相談できるということが知らなかった。学校の先生も認知症への理解があると良い。

ヤングケアラー支援のための取組について

▹家族の会として「認知症こどもサイト※」を作って啓発しており、今年度は中学生向けの認知症 WEB 教材の制作をおこなった。各所にも声を上げているという取り組みをしている。

※認知症こどもサイト　https://www.alzheimer.or.jp/kodomo/

他機関との連携について

▹介護保険関係者が、子ども食堂をやっているので、そういったところでつながりができていると思う。

▹介護保険制度や認知症について詳しくご存知でない方がたくさんいる。ケアの大変さなど、その時点で引っかかってこないと、多機関での連携は難しいのではないか。

▹認知症の人と家族を支援する組織は当会以外にもあろうかと思う。そういったところとつながっていければ大丈夫ではないかと思う。相談さえしていただければ、色々な知恵が出てくるのではないか。

ヤングケアラー支援にあたって困っていること、また、必要と思われること

▹施設入居についても、今すぐ入居したいというときに満床になっていてタイミングのズレはあり、要望には応えられないことが起こりうる。担い手が少ない家庭（ひとり親世帯等）であると、ヤングケアラーが発生するかもしれないし、制度の隙間というのは絶対あると思う。

▹介護が終わって社会人になった方が相当数いるはずなので、その方たちに勉強する機会、資格を取得する機会というのがあれば良いと思う。

▹介護事業者やヘルパー、ケアマネは優しい方が多い印象、介護家族の中に子どもがいれば、何とかしなければと思っていろいろ探られている。

▹一方で、認定されないほど認知症が軽い方もみえると思う。そういったところで家族の会等の組織で相談に乗って、サービスや制度を案内し、解決していかないといけない部分はあると思う。

ヤングケアラー支援の難しい点、課題と思われる点について

▹元ヤングケアラーの方から、学校や地域の方に認知症やそのケアの理解をしてほしい。自分の時は相談できる人がいなかったとの意見があった。

▹子どもだと発信しづらい。支援側も表面化しづらいので支援しづらい。

▹なぜ相談されなかったのですかと言われても、相談しようと思わなかったとのこと。相談ができると思っておらず、家族のことは家族でケアするのが当たり前と考えていたとのことだった。そういった意識も、サービスにつながらない部分ではないかと思う。

▹介護サービスに時間的制約があるところも課題であると思っている。

（４）岐阜市基幹相談センターサテライトふなぶせ　（社会福祉法人 舟伏）

日常生活を送る上での悩みや不安を解消し、安定した地域生活へのサポートを総合的に行っている。生活上のささいなことから、福祉サービス・医療サービスに関する専門的なことまで、障がい者の方、そのご家族・関係者にとっての一番身近な相談窓口として、社会福祉士、精神保健福祉士などの専門職員が相談に応じている。

ヤングケアラーの把握・支援の状況

- ▹ヤングケアラーであろうというご家庭に、今のところは出会ったことがない。実際立ち会ったところはないので、支援をしたという経験も今のところサテライト機関としてはない。
- ▹関係機関からつながっての相談が圧倒的に多く、困っている方ご本人からの直接的な関わりがほとんどない。
- ▹基幹としてのヤングケアラーとの関わりはないが、相談支援事業をやっている相談員に聞くと、小さいお子さんがいるご家庭でヤングケアラーであろうかというご家庭は今までいたようだ。

ヤングケアラー支援のための取組について

- ▹令和５年３月には岐阜市子ども・若者総合支援センター「エールぎふ」の担当者を講師に招き、相談支援専門員を対象としたヤングケアラーに関する勉強会を開催する予定。
- ▹問題点、課題を共有して、ヤングケアラーがいる家庭に遭遇したときにどう対応したら良いか、発見、把握したときにそのままにするのではなく、相談員として関係機関につなげるよう、啓発していきたい。

他機関との連携について

- ▹アドバイザーのような形で、ケース検討会議や地域ケア会議に呼んでいただくことがある。
- ▹障がい福祉サービスの最初の窓口のような位置付けなので、当センターでずっと支援していくわけではなく、適切な支援先につなげ、相談支援専門員等にバトンタッチをして、適宜フォローしていく関わり方になる。
- ▹役場、包括支援センター、生活困窮の窓口、特別支援学校と連携している。
- ▹医療機関からも相談がある。

ヤングケアラー支援にあたって困っていること、また、必要と思われること

- ▹サテライトとして障がい児に直接関わることは本当に少ない。相談員は親と話すことが中心。障がい児本人を見ることあっても、きょうだいまで目が向いているかというと、なかなか全ての相談員がそうではないと思っている。

ヤングケアラー支援の難しい点、課題と思われる点について

▹学校との連携はなじみがなく、教育機関との連携が弱いと感じる。
▹いままで関わってきたケースで、ヤングケアラーが実はいたという可能性は大いにあると思う。
▹しかしながら、そもそも小さいお子さんがいる世帯があまりなかった。いたとしても子どもさんとお会いする機会がないため、発見が難しい。

（５）岐阜県ソーシャルワーカー協会

岐阜県内で主に医療ソーシャルワークに携わっているものを会員資格とした職能団体。
地域包括ケアシステムの一翼を担う専門職の職能集団として、多領域に渡る知識を共有するため、さらに社会的発言力を持つため対人支援という一点を共通項として結集する大きな傘として機能する団体として活動している。

ヤングケアラーの把握・支援の状況

▹中小病院の相談業務を 10 年ほど経験してきたが、公的な調査から発表されているデータと比べると、実際にヤングケアラーに遭遇することは少ないと感じている。
▹ヘルパーを派遣する高齢者宅で、介護する人がおらず、子ども（孫）がやっているようなケースには遭遇していない。介護保険のサービスに結びついているような家庭では、子どもが介護をする状況は起こりにくいのではないか。
▹2022 年度の診療報酬改定で、入退院加算１及び２について、算定対象である「退院困難な要因を有する患者」として、ヤングケアラー及びその家族が追加された。
▹看護師や MSW 等が入院患者について「家族に対する介助や介護等を日常的に行っている児童等であるか」「児童等の家族から、介助や介護等を日常的に受けているか」のスクリーニングチェックを行っている。該当した場合は MSW 等が患者・家族の支援等を関係機関と連携して行っている。

ヤングケアラーとどのような関わりがあるか（対応事例）

＜祖父、母、子ども３世代の家族の事例＞
▹母は精神疾患、子どもに知的障がいがある。
▹祖父は介護が必要であるが、母が介護をほとんど放棄していたことから、子ども（孫）が面倒をみていた。
▹関係機関との連携をして祖父、子ども（孫）の支援にあたった。金銭面での課題が多かったことから、社会福祉協議会が助言・指導に入り、熱心に動いて下さった。
▹子ども（孫）の障がいの相談員、高齢福祉課の方々にもお世話になった。

＜ひとり親家庭の事例＞
▹母と子どもとの２人暮らし。
▹母が手術入院することとなり、提出された書類の院中の連絡先が子ども（未成年）となっていた。

▹ヤングケアラーが新聞やマスコミでも報道され始めた時期であったため、「ヤングケアラーではないのか」と外来のスタッフが気にして連絡がきた。
▹子ども相談センターに「ヤングケアラーではないか」と相談し、対応先について聞いたが、書類上だけの話で何とも対応できないと回答があった。
▹後日、母に「連絡先が未成年ですと子どもさんがびっくりしてしまうので、大人にしてほしい」とスタッフが話をして連絡先を変更してもらった。

＜祖父母、父、子ども３人の家族の事例＞
▹父は子ども達に常に高圧的な態度をとっていた。
▹祖父母はかなりの頻度で病院受診や入院をしている時期があったが、必ず子どもたちが同行し、車椅子を押していた。外来では、父が子どもに怒鳴っている姿が見受けられた。
▹職員の目の前で父が子どもを叩いたことが決定的となり、子ども相談センターに通告したが、保護対象にまではならなかった。
▹その後祖父は亡くなったが、介入しづらい家であることは変わらず、祖母は今も通っているが、怒鳴り声や叩くことはしょっちゅうである。
▹父は子どもに車椅子を押させて、物が落ちたら周りがみていても「拾え」と命令する。
▹子どもは無表情で生気がない。常時何かにおびえている。一番上の子どもは 18 歳を超えていたが、支配下から逃れられない感じ。
▹子ども相談センターの職員が、一時保護について子どもに働きかけたが、子どもが拒否したよう。
▹力によるコントロールが非常に強い家のため、ヤングケアラーというより身体的な虐待のほうが表面化しており、公的機関も入れない。介護サービスは受けていないようだが、もしサービスが入ったとしても、今度はヘルパーさんが攻撃の標的になってしまうと考えられる。
▹父は「祖母の世話をするのは孫として当たり前で、家族のお手伝いの延長だ」と思っているよう。
▹支援機関もなかなか関わりづらく、家族完結型に頼らざるを得なくなった。医療機関としてはこれ以上のやれることがないという思い。

＜外国出身の父母、中学生の子ども（父連れ子）、父母の間に４人の妹弟がいる家族の事例＞
▹一番下の子が受診しているが、母親は日本語が話せないことから、中学生の子が通訳のために付き添っていることが多かった。
▹父から「母が年少の４人の子をみるのが大変なので、家事育児のシッター等を利用できないか」という相談があったが、単に「育児がきつい」という理由だけでは制度を利用できなかった。
▹その後引っ越しした先で母が中学生の子を殴り、虐待通告を受けたと聞いた。そこで分かったことだが、父は「母が育児をするのが大変だから」と言っていたが、実際は中学生の子が小さい子の面倒を見ていた。
▹この家族に限らないが、通訳として子が来ることは、前から度々目にしており、ヤングケアラーの定義を見て、初めて対応しなければならないのだと認識した。
▹通訳をしてくださることは、病院として助かる側面はある。しかし、中学生の子どもが病気のこと、福祉制度の専門用語を訳すのは難しく、子どもに負担がかかるのではと感じる。また、学校を頻繁に休んでまで病院に来ていると、教育に影響を及ぼす。一方でどこまでの範囲がヤングケアラーかという線引きも非常に難しい。

▹このケースでは、シッターの話の際に父・母がＳＯＳを出していたのではないか。しかし、当時も今も育児代行の公的なサービスがない。市役所に相談しても何もできない。児童相談所に言っても具体的なサービスには何もつながらない。

＜母子家庭で、母１人、子１人の家族の事例＞

▹母子ともに自宅への退院を希望

▹疾病により、ADL が低下し家事等を母がこなすのは難しい状況。

▹病院としては、介護保険サービスを利用して、生活の負担を母子ともに軽減する生活をイメージしていたが、母は「家事、買い物も子どもがやるし、調理も子どもがやるし、洗濯も子どもがやる。子どももそれぐらいはやるって言っている」と言って、家事自体については、家族のなかで解決できる認識。母は自身に対するサービスは受容するものの、家事等に係る支援は必要ないと考えていた。

▹自助自立することが当たり前で、家族ができることに社会サービス利用してはいけないという認識だった。また、ヤングケアラーという認識もない様子だった。

▹社会的サービスを利用することについて、認知度をあげる必要があると感じた。

▹介護保険の認定調査では「子どもしか介護力がない」ことを評価する項目がないのではないか。主たる介護者が誰かという部分についても考慮してもいいと思う。

ヤングケアラー支援のための取組について

▹病院内でヤングケアラーの研修会を実施している。子どもに関わる医師や職員は、児童虐待と同様ヤングケアラーの子どもにも出会いやすいことから、知っておかなければならないという意識で取り組んでいる。

▹通訳に来る子どもがヤングケアラーに当たる可能性があるという視点は、目からうろこであった。ヤングケアラーの定義や気づくべきポイントを、実際に子どもと接する医師や看護師に知ってもらわないと、アンテナに引っかからない。

▹知識や自分の持っている概念をアップデートしていかなければいけないという意識は、医師も持っていると思う。

他機関との連携について

▹学校の関係者と話をするようなケースや、児童養護施設等とも連携したこともある。

ヤングケアラー支援にあたって困っていること、また、必要と思われること

▹表面化しづらい問題なので、どのような視点で子どもに関わると発見しやすいのか、アンテナをどのようにはっていくのがいいのか、ヤングケアラーの共通点や背景について分かるとよい。

▹また、どのような姿勢で支援をしたらよいか、対象となりうる方をみかけたらどう望むといいのかということを知りたい。

▹ケースによっては「ヤングケアラー本人への支援」と「家族への支援」の両方が必要になってくる。病院やメディカルソーシャルワーカー（MSW）の立場からだけでは難しく、その辺もどうしていけばいいのか。

▹医療機関として、関係機関につなぐためにまずはアンテナを高くし、早期発見しないといけないと考えている。研修や診療報酬制度により徐々にヤングケアラーへの認識が医師、看護師、スタッフにも広がっていると思う。

▹開業医のほうが患者と距離が近く、患者のこと・家族のことを色々知っていると思われがちだが、（より身近なのは間違いないが、）実はそうとも言い切れない。

▹もともと多くの先生や看護師は、あくまでも医療者であり、ヤングケアラーや児童虐待にはあまり興味がないかご存じない、意識されないという方も多いと感じている。

▹そういう意味では、大きな病院で、様々なケースに関わっている病院のほうが、対応しやすいと思う。

▹今後は病診連携がますます大事になってくる。20 年前は、病院も開業医も病気を治せばいい時代だったが、今は生活を診ていかなければならない時代。そういう意味では、ヤングケアラーや虐待だけではなく、回復をはじめ生活支援等、色々なことを医療機関が担っていくようになる。

▹一方で、開業医がこれだけ増え相談員もいない、若い医師に替わって目先の医療を見ている状況となると、よき昭和の時代のように深い介入もできなくなっているのではないか。

▹大きい病院での気付きが重要になってくると思う。

ヤングケアラー支援の難しい点、課題と思われる点について

▹ヤングケアラーは慢性化していると、軽度に見えてしまう傾向があると思う。また、緊急度の高さは外部からは見えづらい。

▹支援することは大事なところではあるが、ヤングケアラーのためにシッターを公的サービスで賄うことは非常に難しいと思う。今度は支援制度に依存的になってしまわないか、不安な部分もある。

▹中学生や小学生の子に頼らないといけない状況がそもそもおかしいと思う。仮にそのようなケースに遭遇した場合、学校での様子やこの状況が本当にいいことなのかも含めて、学校の関係者も交えて相談したい。

▹MSW として、何とかしなければいけないという思いで動いてはいるが、そもそも医師や看護師からの情報が入らないと、動きようがない。現場の医師・看護師の方々が、そういう視点を持つことが大事だと思う。

▹本人が納得してやっているかどうかということも含めて、それが支援すべきヤングケアラーなのか、そうではないヤングケアラーなのかということを判断していくことも大切。

▹ヤングケアラーにしないためには、家族を支援することが必要だが、現実的にはニーズに合ったサービスがない、重層的な支援が実施されないなど、課題がある。

（６）岐阜県難病団体連絡協議会

難病患者の医療と生活の向上を図るため発足させた連絡協議会で、現在18団体、会員数約3,900人に達する県内唯一の難病患者・家族の協議会となっている。

ヤングケアラーの把握・支援の状況

- 難病についての相談のため、直接的な「ヤングケアラー」の相談はない。
- 30 代から 50 代の方からの相談で子どもがいる場合、相談内容によっては、その子どもはヤングケアラーではないかと想像する場合がある。
- 子どもが難病の場合は、親が子どもの病気について相談することになるが、もしかしたら兄弟がヤングケアラーではないかと想像することがある。

ヤングケアラーとどのような関わりがあるか（対応事例）

＜ヤングケアラーではと思った（大人が相談者（難病者））事例＞

- 朝起きられないため弁当が作れず、子ども（中・高生）が作っている。
- ファミリーサポートも経済的に難しく使えないため、子どもに手伝ってもらっている。
- 両親のどちらか難病の場合、土日はヘルパーも訪問看護も来られず、デイサービスにも行けないとなると、子どもが世話を手伝うことになり、子どもの活動が制限されることになる。

＜ヤングケアラーではと思った（シングルマザーで２人の子どもを育てている）事例＞

- 母親は夜勤がある仕事をしていることから、上の子どもが下の子どもの世話をするために部活動をやめてしまった。中３～高１にかけて家事を行っていた。なおこのことは、上の子どもから聞いた話として学校の教員から相談員が聞き取ったことであり、母親からはこのような内容の相談を受けたことはない。

ヤングケアラー支援のための取組について

- 難病の相談窓口になるので、ヤングケアラー支援に特化した取組は行なっていない。

支援につなげるために必要なことは何だと思うか

- どういう人をヤングケアラーとしてとらえるのか。
- どのような体制でどこを相談窓口にするのかを整理していただけるとつなげやすい。
- どこにつなぐと何をしてもらえるのかを教えてもらいたい。
- 市町村の担当者と顔のみえる連携が必要ではないか。
- そもそもヤングケアラーの定義が皆に浸透できていないのではないか。

ヤングケアラーについて思うこと

- 子ども自身、「家事をしなければ生活がまわらないので仕方がない」と思っているのではないか。

▹たんの吸引を子どもが行っている家庭がある。現状ではたんの吸引は家族か、研修を受けた者か、訪問看護師しか行うことができない（ヘルパーは行えない）。家族にとってかなりの負担になっていると思う。

（7）岐阜県相談支援事業者連絡協議会

これまで培ってきた障がい種別の専門性を活かしつつ、種別を超えた連携を図り、利用者に質の高いサービスを提供するために県内の相談体制の確立に向けた取り組みが必要とされている。

これからの事業所運営や戦略、相談支援の方向性など情報・意見交換や 研修の場として平成19年（2007年）に「岐阜県相談支援事業者連絡協議会」を創設。

ヤングケアラーの把握・支援の状況

▹対象が障がい児者で、福祉サービスに関する相談が多いため、普段の活動の中でヤングケアラーを認識していることは少ない。

▹相談支援する中で、当事者の家族に関してもアセスメントしていることから、家族構成については普段から把握している。

▹しかし、当事者の方しか見ていなかったところもあり、担当者への意識付けをして対応できるのではないかと思っている。

ヤングケアラーとどのような関わりがあるか（対応事例）

＜障がい児の保護者が外国籍の事例＞

▹相談や手続きに行く際に、通訳としてきょうだいに学校を休ませて同行してもらったりしていた。

▹上の子が家事をするのは自分の国では当たり前という認識があり、小学生の子に家のことをやってもらっていた事例が数件あった。

＜精神障がいをお持ちの母親と子どもの家族の事例＞

▹母親が精神障がいを持っており、子どもが母親の世話であったり家事のお手伝いであったりを、普段からやっている。

ヤングケアラー支援のための取組について

▹現時点ではなかなか進んでない状況である。

他機関との連携について

▹障がい分野における基幹相談支援センター（介護でいう地域包括支援センター）が各市町にあり、ここと共同で対応するケースもある。

▹市役所の障がい福祉課や福祉課と連携をとっている。

▹福祉課には行くが児童の担当課とはあまりつながりがない。小さい市町村であれば、距離が近く、隣に関係課の窓口がつながっていたりと連携がとりやすいが、大きな市町になると、全く担当課が違う。そこの連携がうまくできるようになるといいと思う。
▹家庭に介護保険利用の方や障がいの方がいれば包括と協力するなど、個別ケースに合わせて必要に応じて一緒に動いている。それが増えていけば、地域包括ケアシステムのような形でスムーズに動くようになる。

ヤングケアラー支援にあたって困っていること、また、必要と思われること

▹つなぎ先が明確にあるといいが、個人情報の壁も感じている。当事者（障がい者）以外の家族の情報は話すことができないと思っている。
▹家族や当事者にヤングケアラーに該当している自覚がない方が多いと感じる。特に外国籍の方だと、子どもの負担になっているという自覚もあまりなく、子ども自身もそれが当たり前だと思ってお世話をしている実態を見ると、どこまで介入していいか難しい。学校にそれを伝えていいのかが悩みである。
▹支援者自身が気づくことが一番大事ではないか。全く今まで見えていなかったわけではないが、そこまで意識を持っていなかった。今後ヤングケアラーを地域の課題として認識していくことは必要。その先にどの機関につなげば良いかが明確になれば、動けるのではないかと思う。
▹直接関わっているのは障がいの方ではあるが、家庭訪問する機会も多く、家族の課題に触れることもある。サービスの調整や福祉サービスだけではなく、当事者ご本人含めて家族全体でという見方をしながら、できるだけ誰かに過度な負担が集中しないような支援をしていきたい。

ヤングケアラー支援の難しい点、課題と思われる点について

▹外国籍の方で多いのがご本人たちの自覚がないこと。そこについてはどうやって関わっていけばいいのか少し難しい。考え方、価値観の違いもある。子ども本人や、外国にルーツを持つ親に、ヤングケアラーの課題をどう説明すれば良いのか。
▹また、きょうだいが障がいをもっているという方も多い。生活に根ざした話であることから、例えば家の様子などは保護者から伝えるのが難しいときに、支援者側が子どもからヒアリングするなどの工夫や意識改革も必要。
▹ヤングケアラーについて、改めて意識していくこと、どこで気づけるかというのがポイントであると思う。

（８）岐阜県精神保健福祉会連合会

岐阜県５圏域10家族会をまとめる、岐阜県下の精神疾患を抱えた家族の家族会の連合会で、精神疾患の方を抱えたご家族に対する支援をおこなっている。

ヤングケアラーの把握・支援の状況

▹岐阜県精神保健福祉会連合会傘下の岐阜市近郊の家族会の中ではヤングケアラーにあたる事例はなかったが、他の家族会にヒアリングしたところ、過去にヤングケアラーだったのではないかという事例があった。

ヤングケアラーとどのような関わりがあるか（対応事例）

＜父親、母親、姉、本人の４人家族で、母親が双極性障害を持っている家族の事例＞

▹家事は父親と姉が中心に担っており、本人は少し手伝う程度。

▹母親が躁状態では近隣に迷惑をかけることが多く、父親と一緒に近所の人に謝罪に回っていた。一方、鬱状態の時は寝ているだけで動ける状態ではなかった。

▹母親の障がいがあることによる学校でのいじめは特になかったが、授業参加に親が来ない、新しい服が買ってもらえていないなど、他の家族とは違うと感じることがあった。

＜昔ヤングケアラーだったのではないかと考えられる事例＞

▹70 代の母親が、50 代の娘（うつ病を持っている）の事を心配している事例

▹娘がうつ病を発症したのは 30 代の時。

▹娘には現在 20 代の子どもが２人おり、１人の子どもが発達障害の可能性あり。

▹もしかしたら、幼少期にもう１人の子どもに家事等の負荷がかかっていた可能性がある。（ヤングケアラーだったのかもしれない）

ヤングケアラー支援のための取組について

▹行政機関やサービスなど、どこにもつながれない時に、岐阜県精神保健福祉会連合会につながる。（保健所に相談をしても、その病気のことについては相談に乗ってくれるが、生活全般の支援については相談できない。）

▹病気の事を理解すること、周りからの理解があること、自分の事を知ることが大切。孤立している状態が一番よくないし、身の回りに家族しかいない環境はあまりよくないことから、福祉や医療を通じて「輪」を広げていくことが大事。

他機関との連携について

▹相談を受けていく中で、障害年金や障害者手帳の申請方法を伝えて、担当の窓口につなげることはあるが、事例等の情報提供をすることはない。

▹家族会については、当事者家族間で家庭内の話をすることは多いが、他事例についての話はあまり出ない。

ヤングケアラー支援にあたって困っていること、また、必要と思われること

▹精神障害は差別につながることが多く、自分たちの状況をオープンにできる人は非常に少ない。

▹社会全体として精神障害者当事者に対する「接し方」についての勉強が必要。

（９）NPO 法人可児市国際交流協会

地域社会に対して、地域に生活する人々が共に協力しあい、共に交流し、学びあい、協働活動等を行うことに関する事業を行い、国籍や民族文化・社会環境の異なる人々が、等しく平和に共生できる多文化共生社会を築く事に寄与することを目的とする。

ヤングケアラーの把握・支援の状況

▹ヤングケアラーの定義が出たときに、外国人の子どもが親の通訳をしていることの問題が認識されてよかったと私たちは思った。

▹三者面談や学校の面談で子どもが通訳をすることの問題として、子どもは自分の都合が悪いことは言わないだろう。

▹親が病院に行くときに、学校を休ませて通訳に連れていくこと自体も問題だが、親の重い病状や精神的な症状を知ってしまうことや、産婦人科等であれば、親の性的な部分を聞かれることがあるので、そのようなところも問題と思う。

▹ボランティアで通訳に行ってくれる人はなかなかいない。結局お金を払ってということになってしまうと、経済状況によっては子どもを連れていくということになるのではと思う。

▹例えば、親はあまり日本語ができなくて、子どもはどんどん日本語を覚えていくので、親は「自分の子はすごい」と思う。病院の通訳にも行ってくれる。市役所の通訳にも行ってくれる。でも、学校の面談で成績を見せられると、あまりよくない。日本語はできるけれど、勉強は分からないという子は結構多い。勝手に学校を休めと言われて、勉強できていないではないかと言われる矛盾。子どもにしたら、親からの過剰な期待を感じてしまう。そのような声は聞く。

▹あるケースとして、子どもが高校受験のタイミングで親が妊娠して、「赤ちゃんの面倒を見る人がいないから高校に行けません。赤ちゃんの面倒を見ます。」と受験を諦めた子がいる。例えばフィリピンの子たちだと、それがお国にいたら当たり前。ただ日本に来て、勉強して合格したら高校に行けるというときに、弟か妹が生まれるのだからそのようなわけにはいかないとなるのも、本人にしたらそれはどうなのかと思う。

ヤングケアラーとどのような関わりがあるか（対応事例）

＜平日週４日、10 時から始まる高校進学支援の教室に通う子どもの事例＞

▹毎日遅刻してくる子がいた。その子は来日して間もないので、なかなか意思疎通が難しかったが、理由を聞くと「家事が終わらないと叱られるので、家を出られない」という。家族の誰かのご飯が遅かったりすると片付かないので、早く来られないと言っていた。

＜母が再婚し、前夫との子どもを母国から呼び寄せ、日本人の新しい父親との間にできた子どもと一緒に暮らす家族の事例＞

- 日本人の父親との間にできた子とは年の差があり、その子と差別されている。前夫との子どもは働き手として期待されて呼び寄せられていた。
- お姉ちゃんと弟と２人で支援教室に来ていたが、お姉ちゃんは早々と来なくなった。下の子の面倒を見なければいけない、おうちで家事をやらなければいけないという理由で。
- アルバイトをしないとお小遣いがないからアルバイトするが、母親がアルバイト先の派遣会社にお金を取りに行く。
- 高校進学も両親を呼んで確認して、家庭の経済状況なども考慮して、定時制でもいけますよという話をしたが、日本人の父親にはプライドがあり、全日制に行かせるという話になった。
- 合格発表の日に一緒に発表を見に行ったら合格していたのに、親から辞退届が出ているということがあった。本当にものすごくショックだった。合格して、本当はうれしいはずなのに、かわいそうで見ていられなかった。働き手として呼び寄せられたこの子は本当のヤングケアラーだと思った。

ヤングケアラー支援のための取組について

- 相談窓口（教育相談も受けている）があるので、相談がきっかけでつながる。

他機関との連携について

- それぞれ教室で関わる先生たちが１つの教室で 10 人前後いるが、基本的に他の機関と連携するのは事務局のスタッフになる。教育委員会、学校、それから子ども課、子ども支援課、たぶんその先が児童相談所になる。貧困につながっていたら福祉課や社会福祉協議会になる。
- 学校で不登校傾向のお子さんや、虐待が疑われる家庭のお子さんについては、ケース会議をされるときに、スタッフが参加する場合がある。
- 可児市はばら教室という初期指導教室（来日してきてすぐ行く教室）があるが、今はそこと連携して制服のリサイクルや、学用品のリサイクルをしている。入室があると連絡をもらうが、何も買えないから、いろいろなものがここにあれば揃えてほしいという話は多い。

ヤングケアラー支援にあたって困っていること、また、必要と思われること

- いま、検討していることとして、奨学金を出したり、勉強するにあたってプラスアルファなものに補助を出したらいいのではないかと考えている。例えば日本語能力試験の受験料や、英検の試験の受験料。結構、受験料も高いので、補助したら資格取得につながるし、勉強のモチベーションが上がるのではないか。
- 母語教室。外国の子だと母語を持っているというのは、その子のプラス資質になると思う。そこを伸ばしてあげることで、その子の将来の選択肢が広がるのではないかと思っている。

▹子ども食堂。市の施設なので、市の施設使用方針で飲食が駄目なので今はできない。もしできるのであれば、例えばブラジルの子たちを中心にして、ブラジルのお料理をつくってみんなで食べようと、みんなで作る。手伝った子は食べられるようなことができるといいなと思っている。

▹若者の居場所づくり。前は本当にたくさん中高生が来ていた。コロナの影響でだんだん子どもたちの足が遠のいていっている。本当に自分が出せる場所はあったほうがいいのではないかと思っている。

▹県内で、同様の活動をしている団体と、ネットワーク（「ぎふ外国につながる子どもの教育を考えるネットワーク」）をつくっていて、今年は合宿をやろうと思っている。先ほどの居場所につながるが、演劇ワークショップといって、演劇をつくっていくときに、アイスブレークや、自分の夢や自分のことを話したり、表現したりというのがある。長い時間一緒に関わっていくうちに、子どもたちの本音がぽろっと出たりする。何かみんなで表現することをやると、自分も一人ではない、みんなとやることが充実感になる。あそこで面白そうなことをやっているとうわさになって来てくれないかなと。場所があるからいつでもおいでというだけだと、なかなか来てくれないと思っている。

ヤングケアラー支援の難しい点、課題と思われる点について

▹母語教室の月謝が払えないからと教室を辞めると言う子について、指導者が、今辞めたらもったいないという子がいたら、月謝の免除を検討してもいいのではないかというのは言っている。

▹しかし、母語教室は月謝で成り立つ教室なので、減免するならば寄付に頼るしかない。とはいえ、経済状況によって自己負担ゼロにするということがベストなのかは考えていかなくてはいけない。お互いに無責任になりがちなので、私は自己負担ゼロがいいとは思わない。

▹通訳さんがたくさんいて無料でいろいろなことをやってくれるというのは、必ずしもその人たちの自立につながらないと思う。わからないことを聞くというのは必要なことだと思うが、すぐなんでも通訳に頼るというのはどうだろう。自分たちで情報収集したり、自分たちでやれることをやることが普通に暮らすということにつながると思う。

▹センターができた当初、知り合いのコンビニからパンなどを提供してもらっていた。「パンあるよ。」と言っても「ううんいい」と言って、みんながいなくなってから「弟の分やお兄ちゃんの分がほしい」と言って持って帰る子がいたが、その子は本当に困っている子だと思った。そういう子は素直に相談できていないのではないかと思っている。

（10）岐阜県国際交流センター

地域に根ざした国際交流拠点として、岐阜県の豊かな自然環境、歴史、文化、その他の資源をいかした国際交流活動を通じて、多文化共生社会の実現を図るとともに、諸外国との相互理解と友好親善に寄与することを目的としている。
平成24年4月1日から公益財団法人に移行し、多文化共生、国際交流及び国際協力を推進している。

ヤングケアラーの把握・支援の状況

▹間接的に把握している。

▹市役所等行政の手続きで申請するときには、手続きをする本人が窓口に来てくださいと言われることがある。この時通訳さんを連れてきてくださいと言われることが非常に多い。コミュニティー内でボランティア通訳をしている人もいるが、完全な無償ボランティアではなくて、有償ボランティアでやっている。決して安くはない。だから窓口に行くときに子どもを連れていく。

▹親が「子どもは日本の学校へ行っていて日本語が分かるから連れていきます」と言って、学校を休ませて相談に行く。たまに行政側で、「学校があるから子どもさんを連れてくることはやめてくださいね」と言う担当者もいる。

▹年齢としては中学生、高校生ぐらい。早くて小学校の５年生、６年生ぐらいから。この年齢になってくると、通訳ができるようになっていくのではないか。

外国人の子どもたちが置かれている環境について

＜中学生の事例＞

▹日本の小学校を卒業後に中学校に進学したが、すでに勉強についていくのが難しかった。

▹２歳下と、３歳か４歳ぐらいの弟がおり、朝登校するときに友人が声をかけてくれても「今日弟の面倒を見なければいけない」といって休んでしまう。

▹本人は学校へ行きたくても、両親から面倒をみてくれと言われていた様子もあり、憶測であるが、「家族のためになるなら」と自分の意思で学校へ行かなかった可能性もあるかもしれない。

▹外国人の子どもたちは学校のクラス内でマイノリティーであることが多い。それも相まって、疎外感というか、自分は人と違うという感覚が芽生えることもある。学校では活躍できないけれど、家庭でなら自分が役に立っていると自己肯定感が実感できると感じてしまうのではないか。

▹今、ヤングケアラーのケースにあてはめて考えると、小さい子の面倒を見ないといけなくて学校に行けない。その結果、勉強についていけなくなっていったのではないかと思う。勉強についていけなくて、ドロップアウトしてしまう話はよく聞く。

＜学校を休むということ＞

▹親が月に一度水曜日に休みがある家庭で、その日は子どもに学校を休ませていた事例がある。

▹もちろん、「子どもは、学校へ行って勉強をしなさい」という家庭もあるが、家庭によって学校を休ませることに対しての考え方の差があると感じる。だから、必要であれば子どもは学校を休ませてもいい。通訳で来てもらうのだから学校を休んでもいいということが、当たり前になり特別なものではなくなる。

▹結局のところ、両親の価値観や日本語の習得度によって、ヤングケアラーになるのか、ならないのかというところは、やはり大きいと思う。

＜外国人と「ヤングケアラー」について＞

▹今回、外国人にヤングケアラーとしてスポットが当たることは、個人的には良いことと思っている。

▹一方でヤングケアラーというフレーズに対して、ネガティブなイメージが付きまとっているのではないかと感じる。

▹外国人の家族は家族の結び付きがとても強い。例えば、スキンシップが多かったり、おじ、おばやいとこの誕生日も年齢問わず親戚で集まってお祝いしたりする。

▹だからこそ、「家族が困っているのだったら、自分が手伝うというのは当たり前」という感覚は、自発的に出てきているものかもしれない。いつか自分はヤングケアラーだと気付くタイミングが来たとしても、ヤングケアラーであることをマイナスに捉えないでほしい。

▹家族のことが好きで、家族のために頑張っている、活躍している（と感じている）お子さんもいると思うのでその思いを否定はできない。

▹ヤングケアラー支援というのは、とてもデリケートなことだと思う。当事者たちが、自分が支援される対象だと思わない可能性がある。だから、子どもによっては、家族の面倒を見たりしているけれど、自分の時間も取れているし、私はこれでいいと思っているという人たちも当然いると思う。

＜ヤングケアラーの親について＞

▹両親たちは結果として自分の子たちがヤングケアラーになってしまっていることを、現状として認識していないと思う。

▹何らかの形で生活が成立している場合、それを問題と捉えないのではないか。そういった理由から、ケアラー相談には結びつきにくいイメージをもっている。

▹今まで相談・通訳対応をしてきて、介護の相談をはじめとした福祉系の相談自体が少ない。社会福祉協議会などにつないで通訳しているが、多くはお金を借りたい、今の環境を改善したいといったことで相談されている。（ご高齢になると、年金の問題等もあり、日本での生活が立ちゆかなくなり帰国するパターンが多いことも要因と思われる。）

ヤングケアラー支援のための取組について

▹把握はできるけれど、直接的なケアラーの方への支援というのはできていない状況。

▹当センターが電話で通訳をさせていただく場合、行政の担当者と相談者が窓口にいて、相談員が電話で通訳する。こうすることで通訳として子どもを窓口に連れていかなくてもよくはなるので、結果的に家庭の力になっていると思う。

▹ヤングケアラーの両親へのサポートをすることによって、ヤングケアラーの方々のサポートにもつながるのではないかと考えている。

▹例えば、通訳のため、病院について行かなくてはいけないから子どもに学校を休ませるというケースはあり、さらに、日本語が得意な方でも、込み入った話になると、通訳が欲しいという場合がある。その主な例が病院や、弁護士相談の場。

▹国際交流センターの事業として、病院などでの通訳を行う医療通訳ボランティアの斡旋を行ったり、法テラスと協定を結び、連携しながら弁護士相談も実施している。

▹利用しやすい通訳サービスが充実することは、ヤングケアラーが減っていく要因になると思う。だれでもアクセスできれば子どもがやる必要がないので。あとは、行政がやるのか、民間でやるのかというところではないか。

他機関との連携について

▹公的機関で言うと、市役所や社会福祉協議会、年金関係、労働関係、在留資格、入管関係でのお手伝いをさせていただいているが、公的機関ではないところとの連携はまだまだというところ。

ヤングケアラー支援にあたって困っていること、また、必要と思われること

▹日常生活をサポートしてくれる通訳が所属している組織が岐阜県内にはほぼないのではないか。愛知県や名古屋市には外国人支援をしている NPO があったりする。ケースバイケースだが、現状では伴走型の支援は岐阜県内ではできないと思われる。

▹支援・サービスとして案内できる機関が、少ないという現状もある。

▹外国人も日常的にアクセスする窓口で、多言語対応が充実すれば、通訳というところのヤングケアラーの問題というのは、だいぶ減ってくるのではないのか。

▹日本人が困っていることは、外国人も同じように困っている可能性が高いという、一見当たり前なことに、なかなか気付きづらいのではないかと思う。

▹外国人という側面から支援する側の方々も、（日本人にも起こりうる）様々な問題に対しては無意識に外国人を排除してしまっている可能性はあると思う。日本の社会的課題を抱える方の中に外国人の方もいますねという感じで、考えていくといいのではないかと思う。

▹外国籍の子どもたちのバックグラウンドを知っているスクールカウンセラーがいたらいいのではないのか。一番身近なところに相談できる環境があるとよい。

▹例えば、自分と同じような境遇の外国人スクールカウンセラーがいると、だいぶケアは違うのかと思っている。

ヤングケアラー支援の難しい点、課題と思われる点について

▹外国語での相談に対応していることから、例えば、ケアラーの方から電話をいただけたら、外国語でカウンセリングを受けることができる環境にはある。ただ、10 代の子が行政機関や国際交流センターへ気軽に相談できるのかと考えると、特別な取り組みをしているわけではないので、アクセスしにくいと思う。

▹当センターとしては組織の特性上、公的機関との間での通訳しかできない。しかし、日常の問題は公的機関だけで解決できるわけではない。最近だとガスや電気を止められてしまったケースがあるが、民間企業との話になってしまうので立場上お手伝いするのが難しい。どうすれば支援できるのだろうと思う。

（11）岐阜市「エールぎふ」

０歳から20歳前までの子ども・若者に関するあらゆる悩み・不安の相談に対応。
子ども家庭総合支援拠点を設置。

ヤングケアラーの把握・支援の状況

▹要保護児童対策地域協議会における要保護児童、あるいは要支援児童の一形態ということで、今までもいろいろな関係機関から情報をいただいて必要な支援をしてきている。

▹ヤングケアラーへの支援体制を強化するため、今年度ヤングケアラーコーディネーターを１名配置して、主に周知・啓発活動に取り組んでいる。

▹具体的には、ヤングケアラーの実態を知っていただくとともに、引き続き、当センターに情報提供をいただけるよう、学校、医療機関、包括支援センター等の関係機関、市役所内の福祉、教育関連等の部署を訪問し、周知・啓発を行っている。10 月上旬時点の訪問か所数は、概ね 350 か所。

ヤングケアラーとどのような関わりがあるか（対応事例）

＜病気の母親に関わる事例＞

▹子どもが担任の先生に、「夜もお母さんを風呂に入れたり、いろいろしなければならないので大変」という話をしていたという連絡が、校長より入った。

▹夜になるとお風呂、食事、最近はないみたいだが歯磨き、トイレ介助も行っているというような状態で、環境調整をする必要があるため、ケース会議を開催した。

▹ヘルパーや訪問看護師も以前から兄や本児のことは気にかけていた。実際にケース会議で情報共有を行うと、医療関係者はケース会議を既に実施していたが、どちらかというと母親が支援を拒否しており、家庭の人間以外には入って欲しくないという思いがあった。本児が大変な状況だということを関係者が改めて確認でき、フルスペックのケアを入れるべく、要介護度を上げる手続きへと進んだ。学校でも先生が声かけをしたり、見守りに力を入れることで、本児の安心感が少し出てきたように聞いている。また、学校から子どもの進路に対する気持ちを聞き、共有した。

▹その家庭へどうやって入って行くか、介護の方々も苦労をなさっているが、少しずつ支援を入れつつあるという状況である。

＜父子家庭と高齢の祖父母の事例（ヤングケアラーにならないようにというケース）＞

▹父親の仕事が非常に不定期で、１週間ずっと家を空けたりするので、子どもの面倒を見ているのは高齢の祖父母。

▹しかし、祖父母共に身体が不自由になり、孫が祖母のトイレ（ポータブルトイレ）の介助をしなければならなくなった。

▹孫は何とか祖母の面倒をみていたが、祖母は自分でやらなければと言って動いていた結果転倒し、今度は首を痛めてしまい入院することに。

▹地域包括、ケアマネ、福祉用具の事業者等、様々な関係機関が集まってケア会議を実施。

▹祖母は「私が帰らないと、うちが回っていかないので、帰りたい」と言っているが、家に帰ることで孫がヤングケアラーになってしまう可能性が高いことから、スクールソーシャルワーカー、ヘルパー、包括支援センター職員で祖母に施設入所を勧めた。

ヤングケアラー支援のための取組について

▹啓発チラシや、ヤングケアラーの早期発見のためのアセスメントシート等を関係機関に送付。

▹ヤングケアラーコーディネーターが直接関係機関に持参し、その場でヤングケアラーについて少し話をさせていただく活動を行い、必要な関係機関はほぼ回り終えている。

▹外部の大学教授等に依頼し、医療機関や、子どもへの支援を行っている NPO 団体、庁内の関係課に対し研修会を開催している。

他機関との連携について

▹以前から岐阜市においては、要支援児童を把握した場合は、「児童福祉法第 21 条の 10 の５※に基づき情報提供してほしい」という依頼文を関係機関にお願いしてきた。

▹今年度、ヤングケアラーも含んだ要支援児童を把握された場合は、規定に基づいて、当センターへの情報提供を依頼する趣旨の通知を、医療機関、学校、庁内の関係課等、約 400 箇所に発出した。

▹支援をしている子どもの通っている学校の教員も家庭状況を把握しており、授業参観日の連絡や学校生活の様子を情報共有してくれている。

※児童福祉法第 21 条の 10 の５　病院、診療所、児童福祉施設、学校その他児童又は妊産婦の医療、福祉又は教育に関する機関及び医師、歯科医師、保健師、助産師、看護師、児童福祉施設の職員、学校の教職員その他児童又は妊産婦の医療、福祉又は教育に関連する職務に従事する者は、要支援児童等と思われる者を把握したときは、当該者の情報をその現在地の市町村に提供するよう努めなければならない。

②　刑法の秘密漏示罪の規定その他の守秘義務に関する法律の規定は、前項の規定による情報の提供をすることを妨げるものと解釈してはならない。

ヤングケアラー支援にあたって困っていること、また、必要と思われること

▹ケース会議の話がいくつか出ているが、ケース会議を開こうとすると、様々な関係機関があることから、日程調整が大変。あとは、どこが中心になるかという調整が困難。

▹病院の中で実施すれば、多職種連携というのは医師が中心になりやすいが、地域で実施する場合には、誰が主導権を取るかというのが分かりにくい。

▹ヤングケアラーに対する認知度も低いことから、なかなかヤングケアラーに配慮した意思決定が家族にしていただけない状況。家族に対する意思決定支援と、子どもとしての権利を主張できるよう子ども本人への意思決定支援をしていくことも必要ではないか。

ヤングケアラー支援の難しい点、課題と思われる点について

▹外国人家族への支援。ケアラーが世話している小さい兄弟を保育所に入れるのが、外国人保護者には難しい。そこを支援して、早期に入所できれば、ケアラーの負担が減る。

▹当センターが、児童福祉法第 25 条の 2 第 4 項に規定する要保護児童対策地域協議会の調整機関であることや、ヤングケアラーコーディネーターの職務に鑑みると、今後も当センターのヤングケアラーコーディネーターが中心となって、支援が途切れていないかという点も含め、継続的にケースの支援状況の把握等に努めていく必要があると考えている。

（12）関市役所 福祉政策課

ヤングケアラーの把握・支援の状況

▹令和４年度から重層的支援体制整備事業を実施している。

▹要保護児童対策地域協議会は、子ども家庭課の管轄。

▹ヤングケアラーに関する直接的な相談は今のところない。

▹ヤングケアラーを早期に発見できるのは、学校ではないかと思う。

ヤングケアラーとどのような関わりがあるか（対応事例）

＜身体障がいのある親を子どもたちが支えている家庭の事例＞

▹地域の包括支援センターから情報が入ってきた。直接そのお子さんがヤングケアラーという相談ではなく、親を支えるために色々な支援機関が関わった中でお子さんも介護に携わっていたという実態が分かった。

＜要保護児童対策地域協議会の案件＞

▹学校から心配な家庭があると話があった。事情を聴きとっていく中で、家事等をやっているという話が子どもからでてくることがある。ヤングケアラーとして相談が始まったわけではない。

＜市の健診に子どもを通訳として同行させている家族の事例＞

▹保健センターでの健診業務担当時に子どもが通訳するようなケースが数件あった。母親が日本語を上手に喋れないので、学校を休んで来ているのだろうと思われる。

ヤングケアラー支援のための取組について

- ヤングケアラー自体を特別な事象と捉えてしまうと、ヤングケアラー支援をどういう体制で支援していこうかという話になってしまう。これまでもやってきた複合的な課題を抱える世帯の一つとして捉えた支援体制を考えている。
- 学校からヤングケアラーと思われる子どもの福祉的課題についての要望が入ってくることが多くなるのではないか。
- 地域包括支援センター経由で家庭の福祉的課題に向き合う中で、ヤングケアラーという事象が見つかる場合もあると思う。その場合は、地域包括支援センターが情報をキャッチしたのであれば、地域包括支援センターのスタッフから、子ども家庭課に情報提供するといったイメージをしている。
- 複合化した課題であれば、重層的支援体制整備事業という機能の中で支援していったらどうかと検討している。例えば、子どもの両親の問題が、ヤングケアラーの状態を作っているということであれば、両親に対してどの支援機関がどうアプローチをしていったら良いのだろうかというところを、重層的支援体制整備事業の仕組みで言う多機関協働というメニューを使って、問題を解きほぐし、それぞれの支援機関にもう一度つなぎ戻すことで、支援していけるのではないかと考えている。
- 岐阜県ヤングケアラー実態調査に合わせ全児童生徒・教職員へ啓発チラシの配付を考えている。
- 関市内小中学校教頭会で、ヤングケアラーの研修会を実施することになった。

他機関との連携について

- 市内各小中学校が「心の相談アンケート」を実施していて、子どもが困っていることなどを学校で聞き取りしてくれている。
- 学校は虐待が疑われるようなことがあれば、すぐに子ども家庭課や子ども相談センターへ連絡（通告・相談）が入る。
- ヤングケアラーについては、学校から学校教育課に報告してもらい、学校教育課から子ども家庭課と福祉政策課に連絡という想定をしている。
- 警察とも情報共有している。

ヤングケアラー支援にあたって困っていること、また、必要と思われること

- 虐待が疑われないケースや、福祉サービスを入れてケア負担を軽減し、継続支援していくようなケース等、子ども家庭課が関わらないケースであっても要保護児童対策地域協議会で管理するのかを子ども相談センターに問い合わせている。

ヤングケアラー支援の難しい点、課題と思われる点について

- 例えば 8050 問題であれば、80 歳の高齢者の問題、50 歳の無職無収入の問題、生活困窮の問題というように分けて、どの支援機関がどのように関わっていくのかを決める必要があるが、そのためには分野を超えた知識もある程度求められる。
- 今後は、そういった人材の確保が課題である。

（13）山県市役所 子育て支援課　山県市教育委員会　学校教育課

ヤングケアラーの把握・支援の状況

▹ヤングケアラー支援の相談窓口設置に向け、議会答弁のとおり、各課で協力・連携して支援施策に取り組んでいる。

▹今年度から３年間の強化期間ということで、学校教育課から学校へ「岐阜県ヤングケアラー実態調査」を依頼し、ヤングケアラーに関するアンケート調査を実施した。あわせて、国からのチラシ等を使用した研修を学校にお願いしている。

▹ヤングケアラーではないかと思われる児童生徒の認識についての調査も実施し、見守っているという状況。（デリケートな問題であることから、まずは子どもたちを見守る・支援するということを学校にお願いしている）

▹例えばアンケートでなかなか家で勉強する時間がないと言っている児童生徒に対しては、学校で勉強する時間を取ったり、睡眠時間が短いということであれば個別対応として保健室や別室の利用を促したりしている。

▹地域福祉計画に、ヤングケアラーについてどのように含めていくか、打ち合わせをしなければいけないと思っている。

▹福祉課では生活困窮担当、障がい福祉係でかかわりがあると思っているが、ヤングケアラーに特化した取り組みは今のところない状況。

ヤングケアラーとどのような関わりがあるか（対応事例）

＜母子家庭で、母親に障がいがある世帯の子どもの事例＞

▹母親に障がいがあることから子どもの負担（家事、下の子の世話等）が大きい。

【ケース検討の中で出た意見】

▹障がいのサービスとして、障がいがある母親が子どもの面倒を見られない部分がある場合、ヘルパーによる育児支援をできる制度があることから、利用できないか。

▹相談員は基本的には障がい者・児の担当になるが、その中で実際他のお子さんがどういう風に考え、どういうところが困っているのか・無理をしているのかについて把握できるといい。

▹子どもさん自体がまっすぐ育っていくように、関係機関との連携が必要。

▹「ヤングケアラー」がいいイメージではない中で、親やきょうだいの手伝いができるという部分で子どもにとってもプラスの部分もあることから、生活に支障が出ることや学校での教育に支障が出るという状況にならないよう、世帯としてフォローしていくということが大事ではないか。

ヤングケアラー支援のための取組について

▹来年度以降、子ども支援センターを新設し、子どもが学校以外に相談できる窓口を作っていく計画がある。

他機関との連携について

- 障害分野のヤングケアラーの問題については、定期的に協議会を開催しており、昨年度12 月に部会にて困難事例という形でグループワーク等を実施した。
- 生活困窮の相談の中で、そういった実例があれば専門家に繋げていくという体制はできている。今のところは該当する相談は受けていない。

ヤングケアラー支援にあたって困っていること、また、必要と思われること

- 事例として挙がっていないケースの方が明らかに多く、すべてを把握するというのは将来的にもなかなか難しいと思う。
- 障害の方では、家に行かず事業所で面談を行うことが多いため、世帯内フォローができない、目がいかない部分になってしまっている。あくまでも表面上のサービスや本人の生活状況で判断してしまうところがあるのではないか。
- 介護の方では、介護者は年配の世代が中心。そういった方とはおそらくケアマネジャーは連携をとっているが、子どもまでとなるとどうか。
- 難病の話もあったが、把握することはなかなか難しい。
- 市役所の壁ではないが、その年代の子どもが市役所に相談する、役場に相談するという認識が全くない中で、相談機関の把握・認識というのは難しいと思う。しかし、ネットであれば自由に使える子どもが多く、導入しやすいのではないかと思っている。

ヤングケアラー支援の難しい点、課題と思われる点について

- 支援に入り込むところの部分で、お子さんが介入してほしくないと思うのは親が介入してほしくないと思っているからではないか。そうなると当然子どもも言いにくくなる。また、対応していくのに今の体制では難しいと思うし、簡単なことではないと思う。
- 虐待なのかヤングケアラーとして扱っていいのか非常に迷う家庭もあるが、子どもたちにしてみたら好きでその家庭にいるわけではなくて、様々な家庭がある中でヤングケアラーという側面があるということ。関係機関との勉強会を行い周りも正しい認識を知ることがヤングケアラーを支えていくことに必要な気がする。

（14）岐阜県立　Ａ特別支援学校

ヤングケアラーの把握・支援の状況

▹在籍児童・生徒でヤングケアラーと思われる児童生徒はいない。

▹ケアがないと学校に通えない子が多いため、家庭環境が整っていないとすぐに通えない。

▹そのため、児童生徒本人が家族のケアをしていたり、家庭に問題があったりする場合は、早期に気付くことができる。

▹ヤングケアラー問題への職員の認知については、資料を回覧して周知を図っており、徐々に浸透させている。

ヤングケアラー支援のための取組について

▹職員をはじめ学校として学んでいる。

▹児童生徒の様子（寂しそうな様子をしている等）で心配なことがあれば、担任から家庭へ連絡をとり確認している。

他機関との連携について

▹子ども相談センターとの連携はあまりない。

▹岐阜市子ども・若者総合支援センター「エールぎふ」のヤングケアラー専門職の訪問を受けた。

▹卒業後の支援体制として、各地域の障害者支援制度や就労センターを活用している。

ヤングケアラー支援にあたって困っていること、また、必要と思われること

▹過去にヤングケアラーに該当する事案がないため、職員の危機感は薄い。

▹学校として職員への啓発を行わなければならない。また、「そういったことは起きない」という考えから入るのではなく、早期発見が重要である。

▹児童生徒の様子から早期発見できるように、職員からの働きかけやそういう調査の機会も必要である。

ヤングケアラー支援の難しい点、課題と思われる点について

▹ヤングケアラーの該当者はいないと認識しているが、実態把握が本当に困難である。隠している家庭があることも懸念される。

▹相談できる場所については、学んでいかなければならない。研修の機会を設けるなど職員間で共有していきたい。

（15）岐阜県立　Ｂ特別支援学校

ヤングケアラーの把握・支援の状況

▹ヤングケアラーに該当する学校在籍の児童・生徒は報告されていない。

ヤングケアラーとどのような関わりがあるか（対応事例）

▹過去の児童生徒の中には、重篤なケースではなかったが、家族の状況などを鑑みて、学校から関係機関に相談をしたことがある。

他機関との連携について

▹ヤングケアラー支援に限らず、養育的に困難を抱えたケースについて、学校としては速やかに子ども相談センターなどに相談し支援方法を考えている。

▹子ども相談センター、各市町村の福祉関係課と連携している。

ヤングケアラー支援にあたって必要と思われること

▹学校現場でもヤングケアラーに関する認識を持ち、課題を考え、関係機関と連携をすることが大切である。

▹ヤングケアラーの可能性に対して、アンテナを高くして対応していかなければならない。

ヤングケアラー支援の難しい点、課題と思われる点について

▹子どもがケアに当たるということは、保護者にもヤングケアラーに関する認識がないと思われる。また、家庭が貧困や関係機関に助けを求める力がないケースも考えられるため、ケースによっては児童生徒の保護も必要である。

▹本人自身が、ヤングケアラーであると分かっていない場合も、多いのではないか。

▹ヤングケアラーの問題が単独で起こることはあまりないと考えている。背景に貧困やＤＶ、ネグレクト等など様々な問題があるのではないか。

▹支援が必要な兄弟姉妹がいる場合、自分の時間を削って宿題を見てあげる、登下校を一緒にしてあげるなど、面倒をみることについては、ヤングケアラーなのかお手伝いなのかの境目があいまいで分かっていない、子どもも多いのではないか。

▹孤独、孤立してしまうことが大きな問題でもある。

(16) 岐阜県立　C特別支援学校

ヤングケアラーの把握・支援の状況

▹学校の中でヤングケアラーに該当する生徒は、現在いないと認識している。

▹ひとり親家庭で、家の手伝いをせざるを得ないようなケースはあるが、手伝いという程度で全般的にやっており、学校に来られないなど、それが影響して自分の生活がままならないといった生徒はいない。

▹外国籍の生徒が数人在籍している。懇談の際に専門用語など難しい言葉が通じにくいところについては通訳を入れているので、生徒が通訳をすることや、学校が困るといったことはない。

▹通訳として病院や市役所に一緒について行くという理由で休むということについては、家庭の都合で休む場合がそれに該当するかもしれないが、年に何回もあるわけではない。（手帳の手続きや在留証明の手続で休んでいると思われる）

ヤングケアラー支援のための取組について

▹ヤングケアラーかどうかに関わらず、様々な問題について、非常に手厚く取り組んでいる。担任も保護者とよく連絡をしており、家庭の様子はある程度聞き及んでいる。

▹学校内に支援部という分掌があり、家庭の支援、虐待のケースも含めて、まず支援部が子ども相談センターや岐阜市子ども・若者総合支援センター「エールぎふ」等と連携している。

▹しかし、気付いていない点がまだあるかもしれない。

他機関との連携について

▹企業や県就業・生活支援センター、市の福祉課、岐阜市のエールぎふ、子ども相談センターとの連携がある。

▹県就業・生活支援センターについては、卒業前から連携して卒業後の生活ができるように支援いただいている。

▹行政機関としては、重度判定を行ったりしており、障害者職業センター、ハローワークと繋がっている。

(17) 岐阜県立　D特別支援学校

ヤングケアラーの把握・支援の状況

▹先生方は、家庭生活における児童生徒の状況把握について、意識をもって対応しているものの、家庭訪問が難しい場合もあり、実際の家庭生活を見聞きできる機会をどのように作っていくか難しく感じている。

ヤングケアラーとどのような関わりがあるか（対応事例）

- 家庭の状況把握が必要な児童生徒についてケース会議を行い、情報共有をしている。必要に応じて外部機関とも連絡を取り合っている。
- 長期欠席や欠席がちな児童生徒は数名程度おり、連絡を取って状況を把握するようにしている。ただ、ヤングケアラーの性質上、本人が言い出せないという状況は想定されることから、ヤングケアラーである可能性も含め、注意深くみていく必要があると感じている。

ヤングケアラー支援のための取組について

- ヤングケアラーに限らず、児童生徒及び家族からの相談に特別支援学校としてきめ細かく対応している。

他機関との連携について

- 地域の市町の関係機関と連携しながら対応している。
- 学校は子どもの支援が中心になるが、行政・福祉機関は家庭の支援ということになり、目線が違うこともあるので、情報共有しながら、それぞれの役割を果たしていくべきだと考える。
- 学校間の情報共有も保護者の同意が得られれば共有できるが、例えば兄弟が在籍する学校が異なる場合、市町村立と県立では設置者が違うので、情報共有、連携の推進には行政の役割が重要である。

ヤングケアラー支援にあたって困っていること、また、必要と思われること

- 障がいの程度の重い児童生徒に、ヤングケアラーの定義等を理解してもらう事が難しい。また、保護者に理解を深めてもらうことが必要だが、保護者の中でも難しい場合もあると思われる。
- ひとり親家庭が増えており、家庭内の役割分担として自発的に家庭内での役割意識を持っている子どもはいると思う。一方で、どこからがヤングケアラーに該当するのか線引きが難しい。

ヤングケアラー支援の難しい点、課題と思われる点について

- 対象児童に対して、学校からの支援だけでは難しいと思われるため、関係機関の連携・調整が必要である。

第５章

調査結果の考察

第５章　調査結果の考察

１．小・中・高校生の生活実態に関するアンケート調査より

（１）お世話をしている家族が「いる」子どもの割合とお世話による影響

〇家族の中でお世話をしている人が「いる」割合は、小学５年生：15.8％（2022 全国調査：6.5％）、中学２年生：5.4％（2021 全国調査：5.7％）、全日制高校２年生：3.8％（2021 全国調査：4.1％）であった。

〇お世話を必要とする人は、きょうだい、母、父が多く、お世話の内容としては、家事、外出の付き添い、感情面のサポート、見守りが多かった。

図表 150 「世話をしている家族の有無」についての全国調査との比較

（％）

	小学５年生	中学２年生	全日制高校	定時制・ 通信制高校
世話をしている家族がいる	15.8 6.5	5.4 5.7	3.8 4.1	8.6 8.5（定時）11.0（通信）

上段：本県調査　下段：全国調査（小学生 2022 年、中学生 高校生 定時制・通信制高校 2021 年）

〇お世話の頻度や時間、お世話をすることの辛さについて、「週３日以上」「１日３時間以上（平日）」「やりたい事ができない」「精神的に辛い」と回答した子どもがおり、早期の支援が必要な子どもが一定程度いることが把握された。

〇一方、本県の調査結果では、世話の頻度や時間、世話による制約、世話の辛さといった、家族の世話を行うことによる負担度については、下表のとおりいずれの学年も全国調査の結果を下回っている。

図表 151 「家族の世話の状況」についての全国調査との比較

（％）

家族の世話の状況		小学５年生	中学２年生	全日制高校	定時制・ 通信制高校
頻度	週３日以上	52.9 68.9	45.6 63.0	31.2 64.5	46.4 48.4（定時）91.8（通信）
時間	平日１日 ３時間以上	21.7 29.9	15.8 33.5	9.9 35.1	14.3 35.5（定時）59.2（通信）
制約	やりたい事が できない	19.1 27.4	19.6 31.3	18.5 31.9	21.1（定時）33.4（通信） 25.8（定時）73.5（通信）
精神的負担	辛さを 感じている	13.1 18.4	11.2 15.0	7.0 19.9	25.0 29.0（定時）40.8（通信）

上段：本県調査　下段：全国調査（小学生 2022 年、中学生 高校生 定時制・通信制高校 2021 年）

〇このように、本県の調査結果では、比較的負担度の高い層の割合は全国調査より少なく、全国調査で把握しきれなかったと考えられる比較的負担の軽度な層が一定割合含まれていると考えられる。

○ヤングケアラーの負担度は様々な要因によってエスカレートする傾向があると考えられるため、比較的負担の軽度な層についても未然防止の観点での支援が必要と考えられる。

○また、現在の状況が当たり前となっており、「やりたいこと」や「辛さ」等を考えたり感じることがなくなってしまっている子どもが存在している可能性があることを考慮する必要がある。

（２）ヤングケアラーの自覚と認知度

○自分がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した子どもは、中学２年生：1.7%（2021 全国調査：1.8%）、全日制高校２年生：1.6%（2021 全国調査：2.3%）であり、全国調査と大きな差は見られなかった。

図表 152 「ヤングケアラーにあてはまると思うか」についての全国調査との比較

（%）

	中学２年生	全日制高校	定時制・通信制高校
あてはまる	1.7 1.8	1.6 2.3	4.0 4.6(定時) 7.2(通信)
あてはまらない	80.7 85.0	79.5 80.5	66.7 68.0(定時) 75.5(通信)
わからない	15.0 12.5	16.1 16.3	25.1 26.8(定時) 16.9(通信)

上段:本県調査　下段:全国調査（2021 年）

○また、「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがあり、内容も知っていると回答した子どもは、中学２年生：25.2%（2021 全国調査：6.3%）、全日制高校２年生：32.2%（2021 全国調査：5.7%）であり、一昨年度の全国調査と比較すると、「ヤングケアラー」の認知度は確実に高くなってきている。

図表 153 「ヤングケアラーの認知度」についての全国調査との比較

（%）

	中学２年生	全日制高校	定時制・通信制高校
聞いたことがあり、内容も知っている	25.2 6.3	32.2 5.7	26.9 6.0(定時) 8.1(通信)
聞いたことはあるが、よく知らない	19.8 8.8	19.6 6.9	17.1 7.7(定時) 7.8(通信)
聞いたことはない	53.1 84.2	45.4 86.8	50.8 85.5(定時) 83.9(通信)

上段:本県調査　下段:全国調査（2021 年）

○更に、子ども自身が「ヤングケアラー」に対する正しい理解を進めるためには、小学生も含め子どもの年齢に応じてわかりやすく周知を行うとともに、周りの大人の理解を深めていくことが重要である。

（３）お世話の悩みについての相談状況

〇お世話の悩みを相談したことがあるのは、小学５年生は 16.0%、中学２年生は 12.6%、高校２年生は 9.9%にとどまり、大半の子どもが相談したことがない、または無回答であり、年齢があがるほど相談できていない。

〇相談相手としては、多い順に「家族」、「友人」、「学校の先生」をあげている。
「学校の先生」は子どもが接する最も身近な「大人」であり、家族以外で最も相談する大人となっている。一方で他の「大人」の割合は軒並み低く、これは安心して相談できる「大人」が子どもの周囲に少ないことを思わせる。子どもが相談しやすい環境を更に整備することが望まれる。

〇今回の調査において、困りごとや悩みのある子どもが相談したい方法としては、総数では「面談」が最も多いが（小学５年生：69.9%、中学２年生：51.6%、全日制高校２年生：45.5%）、高校生では「SNS 相談」が最も割合が多く（全日制高校２年生：59.1%）、中学生も面談に次いで多い（中学２年生：35.5%）。

〇SNS は相談しやすいため有効な手段といえるが、子ども達が安全に安心してネット上で相談できるようにするためには、家庭の経済的事情に関係のない安全なネット環境や、信頼できる機関が適切に対応できる体制を整備する必要がある。

（４）ヤングケアラー支援において必要な視点

〇子どもが学校や周りの大人に助けてほしいこととして、「自由に使える時間がほしい」「自分の今の状況について話を聞いてほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」「進路や将来のことについて相談にのってほしい」が多くなっている。

〇ただし、５割超が「特にない」であった。子どもが置かれている状況は一様ではないため、一般化はできないが、相談しない理由として「相談するほどの悩みではない」に次いで多いのが「相談しても状況が変わるとは思わない」であることから、大人に頼ることを諦めている子どもたちが含まれている可能性がある。こうした子どもたちと信頼関係を築くための仕組みづくりが必要である。

〇また、周囲から見てヤングケアラーにあたると思われる子どもが負担になっているように見えても、本人が負担と感じているかどうかは個人差がある。よって一律に支援の必要性や、必要な支援を判断することはできない。個々人に合った細やかな支援を、周囲の大人が子どもの気持ちに寄り添いながら慎重に探り、一緒に考えることができる環境づくりが求められる。

２．学校へのアンケート調査・インタビュー調査より

（１）心配な子どもの状況は共有されている

○「学校を休みがちである」「遅刻や早退が多い」「精神的な不安定さがある」などの心配な子どもの状況は、ほとんどの学校で共有されている。

○また、市町村の要保護児童対策地域協議会の登録ケースについて、小中学校、特別支援学校の７割弱、全日制高校の４割が「外部と連携する体制がある」と回答しており、必要に応じて多くの学校において外部との情報共有・対応の検討がなされている。

（２）学校ではヤングケアラーであることを把握することが困難な現状にある

○中学生と全日制高校生では 50 人に１人程度が自分のことを「ヤングケアラー」と思っている子どもがいるという調査結果であり、ほとんどの学校にヤングケアラーがいる可能性がある。

○一方、学校調査で「ヤングケアラーと思われる子どもがいる」との回答は、以下の図表のとおり、小学校と特別支援学校は２割強、中学校と全日制高校で４割強であり、現状、学校では把握が困難な事例が多いと考えられる。

図表 154 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもについて

（%）

	小学校	中学校	全日制高校	特別支援学校
いる	26.0	45.5	43.4	21.1

○アンケート調査でも、ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることとして「家庭内のことなので学校が介入し把握することは難しい」「保護者の理解が得にくい」「子ども本人の自覚がない」との回答が多く見られる。

（３）教職員及び子ども自身のヤングケアラーに関する理解の促進

○子どもが担うケアは、年齢が高くなるにつれ役割と負担が大きくなり、問題が顕在化しやすくなると考えられるが、自分のことを「ヤングケアラー」であるか「わからない」と回答した割合が中学生・高校生ともに 15%程度存在することから、顕在化していなくても困りごとを抱えている子どもがいることを認識することが必要である。

○ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこととして「教職員がヤングケアラーについて知ること」「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」の割合が高くなっており、継続的に子どもへの周知、教職員への研修を行うなどに取り組む必要がある。

３．元ヤングケアラー・関係機関へのインタビュー調査より

（１）ヤングケアラーへの支援における基本的な考え方

①ヤングケアラー本人及び家族の意向の尊重

〇児童虐待に相当する状況にあるなど緊急対応を要するケース以外は、基本的にヤングケアラー本人の意向を尊重する。

〇ヤングケアラー本人の意向と家族の意向が対立するケース以外は、家族の意向も尊重する。

②家族全体のアセスメントが必要

〇ヤングケアラーへの支援は子どもだけではなく、世帯全体への支援が必要となるため、家族全体をアセスメントしたうえでの支援方針の検討が必要である。

〇個人情報を共有する必要があるため、ヤングケアラー本人が要支援児童に該当すると考えられる場合を除き、原則的にヤングケアラー本人や家族の同意が必要となる。

③福祉サービス等を使いやすくする工夫が必要

〇支援後の親子関係等にも影響するため、福祉サービス等をいれるとしても慎重に行う必要があり、どのようにプラスになるのかをしっかり説明することが重要である。元ヤングケアラーからも、「他人が家に入ることへの抵抗感が大きかった」などの意見があった。

〇元ヤングケアラーから、普段は玄関先で支援者に会わず家に入られることのない配食サービスや洗濯サービスなどがあると良いとの意見があった。

④「ケアからの解放」だけが、ヤングケアラーへの支援ではない

〇ヤングケアラーは、ケアから解放されたとしても、ケアを担っていた期間で経験できなかったことや精神的な影響、また、ずっと担っていたケアという役割から解放されることでの喪失感などが新たに生まれる可能性がある。
元ヤングケアラーからも「ケアを必要とする家族に死にたいと言われるのが本当につらかった」などの意見があった。

〇また、家庭の状況やケアの内容によっては、サービス利用だけでは解決できないことも多いと考えられる。しかし、子ども自身が「自分も大切な存在」であり、まわりの人たちに「支えられている」「支えてもらえる」という気持ちを育めるようなかかわりを持つことも重要な支援の１つである。
元ヤングケアラーからも信頼できる友人や大人に相談することが支えになったとの話が聞かれた。

（２）子どもに対する支援として必要なこと

→行きやすい第三の居場所の充実

〇子どもにとっては、いつでも行ける、助けを求められる決まった場所があることが大切である。また、家庭や学校等の日常とは少し距離のあるいわゆる第三の居場所があることが安心感にもつながると考えられ、そのような場所を増やしていくことが重要である。

〇子どもにとって「食」と「学習」は、子どもの健康や将来の進路に大きく影響するものであるため、居場所を兼ねた子ども食堂や学習支援の充実が望ましい。

〇なお、元ヤングケアラーからは、「ヤングケアラー向けに開催している場所」などと周知されていると通いづらいので、「子どもに広く開かれている場所」として、学校などで皆に周知されていると通いやすいとの意見があった。

〇一方で、人が集まる場所には行けない、行きたくない子どももいることから、ネット上で匿名で気軽に話せる場もあるとよい。

〇子どもたちが人や社会との接点を持てる多様な「場」をつくることで、子どもが選択できる環境としていくこと、またそこで繋がった人たちとのかかわりの中で、「相談する・支えてもらう」ことが特別なことではないという認識を持てるようになることが期待される。

（３）ヤングケアラー支援において学校に期待される役割

→学校は、子どもにとって普通でいたい場所であること

〇子どもが家庭以外で多くの時間を過ごす学校は、子どもにとって安全で安心できる場所であり、また助けを求めることができる場である必要がある。
一方で元ヤングケアラーからは「普通でいたい場所」であるとの意見がある。

〇だからこそ、教職員が研修などでヤングケアラーに関する理解を深めるとともに、学校全体で組織的に個々のケースにきめ細かく対応する必要がある。

〇また、医療や福祉、保健等の関係機関と学校との連携がより一層重要になると考えられるため、教員と専門職をつなぐスクールソーシャルワーカーなどコーディネーターの役割が一層重要となる。

（４）支援にあたる関係機関に求められる役割とそのために必要な取組み

→関係機関におけるヤングケアラーの把握と支援につなぐ力の向上

〇様々な職種がヤングケアラーについての視点を持つことで、支援を必要とする子どもを早期に把握し、支援につなぐことができ、子どもの負担を軽減できる可能性がある。

〇介護や障がい、医療のいずれにおいても、利用者・患者の家族構成や日々の生活の状況についてはアセスメント項目として確認を行うため、ケアマネやMSW(医療ソーシャルワーカー)、相談員等が「ヤングケアラー」支援に対する理解を深めることにより、支援を必要とする子どもの存在に気づき、必要な支援に繋げる可能性が高まることが期待できる。

〇一方で、ヤングケアラーの存在が分かった時に、具体的に誰に相談すればよいか、市町村の担当課が分からないといった意見もあり、関係機関と連携すべき担当部署や窓口の明確化が必要である。

→関係機関間で「お互いを知る」ことが途切れない・円滑な支援体制の構築

〇ヤングケアラーは複雑な課題を抱えているケースが多く、利用できる法制度も複雑であるため、各機関の専門職が関わりながら重層的な支援ができることが望ましい。関係機関におけるヤングケアラーへの支援についての理解を深めるためにも具体的な事例を共有して積み重ねていく仕組みが必要である。

４．まとめ

（１）子どもの孤立化防止

〇子ども自身にヤングケアラーに関する認識がある方が相談しやすい傾向にあり、ヤングケアラーの認知度向上を目的とした継続的な周知が必要である。

〇一方で、元ヤングケアラーへのインタビューにおいて「学校の中では普通でいたい」「自分は家族のことを大切に思っているし、家族も皆頑張っている。その中で介入されると、親が悪いという形になり、それは子どもにとってすごく嫌だと思う」という意見があり、性急な特定や介入はヤングケアラー本人や家族の孤立化に繋がる懸念が大きいため、緊急時以外は避ける必要がある。

〇ネットを活用した相談窓口など、まずはヤングケアラー本人の話を傾聴する仕組みづくりが必要ではないか。

（２）子どもに寄り添った適時・適切な支援

〇ヤングケアラーの定義だけでなく、ヤングケアラー本人や家族への姿勢、関係機関との連携の在り方など様々な点について継続的な研修等により理解を深める必要がある。

〇ほとんどの学校で、心配な子どもの状況は共有されており、ヤングケアラー支援にも活かせる体制は整っていると考えられる。今後、ケース検討の際に、ヤングケアラーの可能性を排除せずに、潜在化している重篤なケースを見逃さないようにすることが重要である。

〇宿題が出来ない、眠れない等の子どもからのＳＯＳに対し、学校内で個別に対応している事例も聞かれた。必ずしもヤングケアラーの特定、家庭内への介入にこだわる必要はなく、こういった子どもからのサインに寄り添い、具体的に抱える困難さの軽減や解決に向けて一緒になって考えていく姿勢を大切にすることが、子どもから相談しやすい環境づくりとなり、ヤングケアラーの重篤化予防にもつながると思われる。

〇ホームヘルパーの派遣等の公的サービス、無料学習塾や子ども食堂等の第三の居場所と言われる民間サービスなど、既存のサービスについて、周知を図るとともに、より利用しやすいサービスとなるよう関係機関が課題を共有し、好事例を展開していく必要がある。

資料編

資料編

1．ヤングケアラーに関する市町村の相談窓口とホームページ

市町村	所属	電話番号	対応時間
		メールアドレス	
岐阜市	岐阜市子ども・若者 総合支援センター	0120-43-7830(直通)	8:45～17:30（平日）
		gifu-kodomo-wakamono@world.ocn.ne.jp	
大垣市	子育て支援課 児童福祉グループ	0584-47-7092(直通)	8:30～17:15（平日）
		kodomo@city.ogaki.lg.jp	
高山市	子育て支援課 子ども家庭相談係	0577-35-3179(直通)	8:30～17:15（平日）
		kosodateshien@city.takayama.lg.jp	
多治見市	子ども支援課 子育ち支援グループ	0572-23-5609(直通)	8:30～17:15（平日）
		kodomosien@city.tajimi.lg.jp	
関市	子ども家庭課 家庭児童相談室	0575-23-0189(直通)	9:00～17:00（平日）
		kodomokatei@city.seki.lg.jp	
中津川市	子ども家庭課　家庭支援係	0573-66-1111(内線 696)	8:30～17:15（平日）
		kosodate@city.nakatsugawa.lg.jp	
美濃市	福祉子ども課　子ども家庭係	0575-33-1122(内線 153)	9:00～17:15（平日）
		kodomokatei@city.mino.lg.jp	
瑞浪市	子育て支援課　児童家庭係	0572-68-2115(直通)	9:00～17:00（平日）
		kosodate@city.mizunami.lg.jp	
羽島市	子育て･健幸課 子ども家庭センター	058-392-1111(内線 2524)	8:30～17:15（平日）
		kosodatekenko@city.hashima.lg.jp	
恵那市	子育て支援課 子育て世代包括支援センター	0573-22-9137(直通)	8:30～17:15（平日）
		kosodateshien@city.ena.lg.jp	
美濃加茂市	子育て支援課　こども家庭係	0574-25-1110(直通)	8:30～17:15（平日）
		kosodatesienka@city.minokamo.lg.jp	
土岐市	子育て支援課　家庭児童係	0572-54-1111(内線 181)	8:30～17:15（平日）
		kosodate@city.toki.lg.jp	
各務原市	子ども家庭支援課 家庭相談係	058-383-7203(直通)	8:30～17:15（平日）
		kodomokatei@city.kakamigahara.gifu.jp	
可児市	こども課　こども家庭係	0574-62-1111(内線 5528)	8:30～17:15（平日）
		kodomo@city.kani.lg.jp	
山県市	子育て支援課	0581-22-6839（内線 617）	8:30～17:15（平日）
		kosodate@city.gifu-yamagata.lg.jp	
瑞穂市	子ども支援課　子ども支援係	058-322-3022(直通)	8:30～17:15（平日）
		kosien@city.mizuho.lg.jp	
飛騨市	子育て応援課　子育て政策係	0577-73-2458(直通)	8:30～17:15（平日）
		kosodate@city.hida.lg.jp	
本巣市	福祉敬愛課　児童福祉係	058-323-7752(直通)	8:30～17:15（平日）
		fukushi@city.motosu.lg.jp	
郡上市	児童家庭課	0575-67-1817(直通)	8:30～17:15（平日）
		jidou-katei@city.gujo.lg.jp	
下呂市	こども家庭課	0576-52-2882(直通)	8:30～17:15（平日）
		kosodateshien@city.gero.lg.jp	

市町村	所属	電話番号	対応時間
		メールアドレス	
海津市	社会福祉課　児童母子福祉係	0584-53-1139(直通)	9:00～16:00（平日）
		—	
岐南町	健康推進課 子育て世代包括支援センター	058-214-3533(直通)	8:30～17:15（平日）
		kosodate@town.ginan.lg.jp	
笠松町	健康介護課 子育て世代包括支援担当	058-388-7171(直通)	8:30～17:15（平日）
		kenkokaigo@town.kasamatsu.lg.jp	
養老町	子ども課　児童福祉係	0584-32-5078(直通)	8:30～17:15（平日）
		18kodomo@town.yoro.gifu.jp	
垂井町	子育て推進課　子育て政策係	0584-22-7506(直通)	8:30～18:15（平日）
		kosodate@town.tarui.lg.jp	
関ケ原町	住民課　児童福祉係	0584-43-1111(内線163)	8:30～17:15（平日）
		jyuumin@town.sekigahara.gifu.jp	
神戸町	子ども家庭課　家庭支援係	0584-27-0176(直通)	8:30～17:15（平日）
		kodomo@town.godo.lg.jp	
輪之内町	福祉課　福祉係	0584-69-3128(直通)	8:30～17:15（平日）
		fukusi@town.wanouchi.lg.jp	
安八町	福祉課	0584-64-7104(直通)	8:30～17:15（平日）
		—	
揖斐川町	子育て支援課　子育て支援係	0585-22-2791(直通)	8:30～17:15（平日）
		koshien@town.ibigawa.lg.jp	
大野町	福祉課　社会福祉係	0585-35-5369(直通)	8:30～17:15（平日）
		fukushi@town-ono.jp	
池田町	健康福祉課 子育て支援政策係	0585-45-3111(内線151)	8:30～17:15（平日）
		fukushi@town.gifu-ikeda.lg.jp	
北方町	福祉子ども課　子ども福祉係	058-323-1119(直通)	8:30～17:15（平日）
		fukushi@town.gifu-kitagata.lg.jp	
坂祝町	こども課　こども係	0574-66-2406(直通)	8:30～17:15（平日）
		kodomo@town.sakahogi.gifu.jp	
富加町	こども課　こども係	0574-54-2121(直通)	8:30～17:15（平日）
		koshien-g@town.tomika.gifu.jp	
川辺町	教育委員会教育支援課	0574-53-2650(直通)	8:30～17:15（平日）
		kyouiku@kawabe-gifu.jp	
七宗町	教育課　子育て支援係	0574-48-1114(直通)	8:30～17:15（平日）
		kyouiku@town.hichiso.lg.jp	
八百津町	教育課　子ども支援係	0574-43-2111(内線2514)	8:30～17:15（平日）
		koshien@town.yaotsu.lg.jp	
白川町	教育課　子育て支援係	0574-72-2317(内線334)	8:30～17:15（平日）
		kyouiku@town.shirakawa.lg.jp	
東白川村	教育委員会　　子育て支援係	0574-78-3111(内線420)	8:30～17:15（365日対応）
		507kyoiku@vill.higashishirakawa.lg.jp	
御嵩町	福祉課　児童福祉係	0574-67-2111(内線2127)	8:30～17:15（平日）
		jidou@town.mitake.lg.jp	
白川村	村民課　村民健康福祉係	05769-6-1311(内線150)	8:30～17:15（平日）
		sonmin-sonminfukushi@vill.shirakawa.lg.jp	

市町村	ホームページ
高山市	https://www.city.takayama.lg.jp/kurashi/1000019/1000112/1016126.html
関市	https://www.city.seki.lg.jp/0000018612.html
多治見市	https://www.city.tajimi.lg.jp/kosodate/kosodate/shien/yangukeara.html
飛騨市	https://www.city.hida.gifu.jp/soshiki/10/

2．アンケート調査票

（1）小学生アンケート

小学生の生活実態に関するアンケート調査

アンケート調査への回答は自由です。答えたくない人はお答えいただかなくてもかまいません。
アンケート調査に回答してもよいですか。

1．アンケート調査に答える　　2．アンケート調査に答えたくない

Ⅰ．基本情報

問1　あなたの性別を教えてください。（あてはまる番号１つに○）

1．男　　2．女　　3．その他　　4．答えたくない

問2　現在住んでいる市町村を教えてください。

※選択肢から回答

問3　あなたが一緒に住んでいるのはだれですか。（あてはまる番号すべてに○）

1．お母さん
2．お父さん
3．おばあさん
4．おじいさん
5．兄・姉　⇒（　　）人
6．弟・妹　⇒（　　）人
7．その他（　　）
8．答えたくない

問4　あなたの健康状態について教えてください。（あてはまる番号１つに○）

1．よい
2．まあよい
3．ふつう
4．あまりよくない
5．よくない
6．答えたくない

Ⅱ．ふだんの生活について

問5　あなたは学校を欠席したり、遅刻や早退をしたりすることがありますか。

①　欠席について（あてはまる番号１つに○）

1．ほとんど欠席しない　2．たまに欠席する　3．よく欠席する　4．答えたくない

②　遅刻や早退について（あてはまる番号１つに○）

1．ほとんどしない　2．たまにする　3．よくする　4．答えたくない

問6　放課後、習い事などをしていますか。（あてはまる番号１つに○）

1．はい　　2．いいえ　　3．答えたくない

問7　ふだんの学校生活などにおいて、以下の中であてはまるものはありますか。
（あてはまる番号すべてに○）

1．授業中に寝てしまうことが多い
2．宿題ができていないことが多い
3．持ち物の忘れ物が多い
4．習い事を休むことが多い
5．提出物を出すのが遅れることが多い
6．修学旅行などの宿泊行事を欠席する
7．保健室で過ごすことが多い
8．学校では一人で過ごすことが多い
9．友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない
10．特にない
11．答えたくない

問8　あなたが悩んでいることはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

1．友達のこと
2．学校の成績のこと
3．習い事のこと
4．家族のこと
5．生活や勉強に必要なお金のこと
6．自分のために使える時間が少ないこと
7．その他（　　）
8．特にない
9．答えたくない

問9　問8で「1．～7．」のどれかに○をつけた人にお聞きします。
○をつけた悩みについて、話を聞いてくれる人はいますか。（あてはまる番号１つに○）

1．いる
2．いない
3．話はしたくない
4．答えたくない
5．問8で「8．特にない」を選択した

Ⅲ．家庭や家族のことについて

問10　家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。（ここで「お世話」とは、ふつう大人が行うような家事や家族のお世話のことを指します。）（あてはまる番号１つに○）

1．いる ⇒問11へ　　2．いない ⇒自由記述欄へ　　3．答えたくない ⇒自由記述欄へ

問11　問10で「1．いる」と答えた人にお聞きします。
あなたは誰に、どのようなお世話をしていますか。

①あなたがお世話をしている人（あてはまる番号すべてに○）

1．お母さん
2．お父さん
3．おばあさん
4．おじいさん
5．きょうだい
6．その他（　　）
7．答えたくない

②お世話を必要としている人の状況について教えてください。

②-a　お母さん、あるいはお父さんをお世話している人にお聞きします。
それはどのような理由ですか。（あてはまる番号すべてに○）

1．高齢（65歳以上）	8．6、7以外の病気　9．日本語が苦手
2．介護（食事や身の回りのお世話）が必要	10．その他（　　）
3．認知症　4．身体障がい　5．知的障がい	11．わからない
6．こころの病気（うつ病など）※疑い含む	12．答えたくない
7．依存症（お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている）※疑い含む	
13．あてはまらない（お母さん・お父さんのお世話は行っていない）	

②-b　おばあさん、あるいはおじいさんをお世話している人にお聞きします。
それはどのような理由ですか。（あてはまる番号すべてに○）

1．高齢（65歳以上）	8．6、7以外の病気　9．日本語が苦手
2．介護（食事や身の回りのお世話）が必要	10．その他（　　）
3．認知症　4．身体障がい　5．知的障がい	11．わからない
6．こころの病気（うつ病など）※疑い含む	12．答えたくない
7．依存症（お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている）※疑い含む	
13．あてはまらない（おばあさん・おじいさんのお世話は行っていない）	

②-c　きょうだいをお世話している人にお聞きします。
それはどのような理由ですか。（あてはまる番号すべてに○）

1．幼い	5．病気　6．日本語が苦手
2．介護（食事や身の回りのお世話）が必要	7．その他（　　）
3．身体障がい　4．知的障がい	8．わからない　9．答えたくない
10．あてはまらない（きょうだいのお世話は行っていない）	

②-d　「その他」の人をお世話している人にお聞きします。それはどのような理由ですか。
（あてはまる番号すべてに○）

1．高齢（65歳以上）	8．依存症（お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている）※疑い含む
2．幼い	
3．介護（食事や身の回りのお世話）が必要	9．7、8以外の病気
4．認知症	10．日本語が苦手
5．身体障がい	11．その他（　　）

③あなたはどのようなお世話をしていますか。お世話をしている人が何人かいる場合には、あてはまる番号すべてに○をしてください。

1．家事（食事の準備や掃除、洗濯）	7．見守り
2．きょうだいのお世話や送り迎え	8．通訳（日本語や手話など）
3．入浴やトイレのお世話	9．お金の管理
4．買い物や散歩に一緒に行く	10．薬の管理
5．病院に一緒に行く	11．その他（　　）
6．話を聞く	12．答えたくない

④あなたはお世話を誰と一緒にしていますか。何人かお世話をしている人がいる場合には、あてはまる番号すべてに○をしてください。

1．お母さん	6．しんせきの人
2．お父さん	7．自分のみ
3．おばあさん	8．福祉サービス（ヘルパーなど）を利用
4．おじいさん	9．その他（　　）
5．きょうだい	10．答えたくない

⑤あなたは何才からお世話をしていますか。（はっきりとわからない場合は、だいたいの年でかまいません）

（　　）才から

⑥あなたはどのくらいお世話をしていますか。（あてはまる番号一つに○）

1．ほぼ毎日	3．週に1～2日	5．その他（　　）
2．週に3～5日	4．1か月に数日	6．答えたくない

⑦あなたは平日何時間くらいお世話をしていますか。（日によって違う場合は、この1か月でいちばん長かった日の時間を教えてください。

1日（　　）時間くらい

問12　お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。
（あてはまる番号すべてに○）

1．学校を休んでしまう	6．習い事ができない
2．遅刻や早退をしてしまう	7．自分の時間が取れない
3．宿題など勉強する時間がない	8．その他（　　）
4．眠る時間がたりない	9．特にない
5．友達と遊ぶことができない	10．答えたくない

問13　お世話をすることに大変さを感じていますか。（あてはまる番号すべてに○）

1．体力の面で大変	4．特に大変さは感じていない
2．気持ちの面で大変	5．答えたくない
3．時間の余裕がない	

問14　あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。（あてはまる番号１つに○）

1．ある ⇒問15へ	2．ない ⇒問16へ	3．答えたくない ⇒問18へ

問15　問14で「1．ある」と回答した人にお聞きします。
それは誰ですか。（あてはまる番号すべてに○）

1．家族（お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい）	
2．しんせき（おじ、おばなど）	7．病院・医療・福祉サービスの人
3．友だち	8．近所の人　9．SNS上での知り合い
4．学校の先生（保健室の先生以外）	10．その他（　　）
5．保健室の先生	11．答えたくない
6．スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	

問16　問14で「2．ない」と回答した人にお聞きします。
相談していない理由を教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

1．相談するほどの悩みではないから	5．相談しても何も変わらないから
2．誰に相談するのがよいかわからないから	6．その他（　　）
3．相談できる人がいないから	7．答えたくない
4．家族のことを話したくないから	

問17　問14で「2．ない」と回答した人にお聞きします。あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。（あてはまる番号１つに○）

1．いる	2．いない	3．答えたくない

問18　学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

1．自分のことについて話を聞いてほしい	
2．家族のお世話について相談にのってほしい	
3．家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	
4．自分が行っているお世話のすべてを誰かに代わってほしい	
5．自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい ⇒具体的にどんなお世話、どんな時ですか（　　）	
6．自由に使える時間がほしい	9．その他（　　）

7．勉強を教えてほしい	10．特にない
8．お金の面で支援してほしい	11．わからない
	12．答えたくない

問19　問18で「1．自分のことについて話を聞いてほしい」「2．家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した人にお聞きします。どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいですか（あてはまる番号すべてに○）

1．直接会って	5．その他（　　）
2．電話	6．答えたくない
3．SNS（LINEなど）	7．あてはまらない（問18で3．～12．を選んだ）
4．電子メール	

問20　問18で「1．自分のことについて話を聞いてほしい」「2．家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した人にお聞きします。家族以外で、どのような人に話を聞いたり相談にのったりしてほしいですか。（あてはまる番号すべてに○）

1．学校の先生（保健室の先生以外）	6．SNS上で安心して相談できる人
2．保健室の先生	7．同じような経験をした先輩
3．スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	8．その他（　　）
4．病院の人や福祉サービスの人	9．答えたくない
5．近所の人	10．あてはまらない（問18で3．～12．を選んだ）

以下の資料を最後まで読んで、思ったことや考えたことを記入してください。

▼子どもが子どもでいられる街に。～ヤングケアラーを支える社会を目指して～

（※厚生労働省ホームページより抜粋）https://next-iii.co.jp/gifu/young-carer1.html

【自由記述欄】家族のお世話をしている子どものために必要だと思うことや、学校や周りの大人にしてもらいたいことを自由に書いてください。

家族のお世話をすることは、とても価値のある大切なことです。ただ、お世話の負担が大きいと気持ちや体力の面で大変な思いをすることがあるかもしれません。

「調査ご協力のお願い」の裏面に相談窓口をご紹介しています。学校の先生や家族にも相談しにくいことがあればいつでもお電話してください。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

（2）中高生アンケート

中高生の生活実態に関するアンケート調査

このアンケート調査への回答は自由です。答えたくない人はお答えいただかなくてもかまいません。
アンケート調査に回答してもよいですか。

1．アンケート調査に答える	2．アンケート調査に答えたくない

Ⅰ．基本情報

問１　あなたの学年を教えてください。（あてはまる番号１つに○）

1．中学２年生（義務教育学校８年生）	4．通信制高校２年生
2．高校２年生	5．その他（　　）
3．定時制高校２年生相当	6．答えたくない

問１-１　※通信制高校生の方にお聞きします。
あなたの年齢を教えてください。（あてはまる番号１つに○）

1．１８歳以下	3．答えたくない
2．１９歳以上	

問１-２　※通信制高校生の方にお聞きします。
あなたが入学した年を教えてください。（あてはまる番号１つに○）

1．２０２２年４月１日以降	5．２０１８年４月１日以降
2．２０２１年４月１日以降	6．２０１８年３月３１日以前
3．２０２０年４月１日以降	7．答えたくない
4．２０１９年４月１日以降	

問１-３　※通信制高校生の方にお聞きします。
現在在籍している学校に入学した理由を教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

1．学習スタイルが自分に合っている（登校頻度など）	6．全日制高校に通っていたが辞めた
	7．高校進学の機会が過去になかった
2．自分に合った授業内容が提供されている	8．その他（　　）
3．集団生活に入らなくてもよい	9．答えたくない
4．仕事やアルバイト、自分のやりたいこと等と両立しやすい	
5．家族の世話や介護と両立しやすい	

問１-４　※問１－３で「６．全日制高校に通っていたが辞めた」と回答した方にお聞きします。
その理由はなんですか。（あてはまる番号すべてに○）

1．通学スタイルが自分に合わなかった（登校頻度など）	6．トラブル等が理由で退学になった
2．授業スタイルが自分に合わなかった	7．その他（　　）
3．集団生活が自分に合わなかった	8．答えたくない
4．経済的な理由で通えなくなった	9．該当しない（問１－３で「6.」を選択していない）
5．家族の世話や介護をする必要があった	

問２　あなたの性別を教えてください。（あてはまる番号１つに○）

1．男性	2．女性	3．その他	4．答えたくない

問３　現在住んでいる市町村を教えて下さい。

1．※選択肢から回答

問４　現在一緒に住んでいる家族について教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

1．母親	5．兄・姉　⇒（　　）人
2．父親	6．弟・妹　⇒（　　）人
3．祖母	7．その他（　　）
4．祖父	8．答えたくない

問５　あなたの健康状態について教えてください。（あてはまる番号１つに○）

1．よい	4．あまりよくない
2．まあよい	5．よくない
3．ふつう	6．答えたくない

Ⅱ．ふだんの生活についてお伺いします。

問６　※中学校（義務教育学校）、全日制高校、定時制高校に通っている方にお聞きします。
学校への通学状況について教えてください。（あてはまる番号１つに○）

①　出席状況		
1．ほとんど欠席しない	3．よく欠席する	5．通信制高校に通っている
2．たまに欠席する	4．答えたくない	
②　遅刻や早退の状況		
1．ほとんどしない	3．よくする	5．通信制高校に通っている
2．たまにする	4．答えたくない	

問７　部活動（学校外での活動を含む）に参加していますか。（あてはまる番号１つに○）

1．参加している	2．参加していない	3．答えたくない

問８　※中学校（義務教育学校）、全日制高校、定時制高校に通っている方にお聞きします。
ふだんの学校生活等において、以下の中であてはまるものはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

1．授業中に居眠りをすることが多い	7．保健室で過ごすことが多い
2．宿題や課題ができていないことが多い	8．学校では１人で過ごすことが多い
3．持ち物の忘れ物が多い	9．友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない
4．部活動や習い事を休むことが多い	10．特にない
5．提出物（書類等）の提出が遅れることが多い	11．答えたくない
6．修学旅行などの宿泊行事を欠席する	12．通信制高校に通っている

問９　現在、悩んだり困っていることはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

１．友人との関係のこと	８．自分と家族との関係のこと
２．学業成績のこと	９．家庭内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）
３．進路のこと	10．病気や障がいのある家族がいる
４．部活動のこと	11．自分のために使える時間が少ない
５．学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと	12．その他（　　）
６．塾（オンライン含む）や習い事ができない	13．特にない
７．家庭の経済的状況のこと	14．答えたくない

問 10　問９で「１．～12．」のいずれかに答えた方にお聞きします。悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか。（あてはまる番号１つに○）

１．相談相手や話を聞いてくれる人がいる
２．相談相手や話を聞いてくれる人がいない
３．相談や話はしたくない
４．答えたくない
５．問９で「13．特にない」を選択した

Ⅲ．家庭や家族のことについてお伺いします。

※19 歳以上の方は問 11～21 は 18 歳までのことを思い出して当時のことについてお答えください。

問 11　家族の中にあなたがお世話をしている方はいますか。（あてはまる番号１つに○）（ここで「お世話」とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることです。）

１．いる
２．いない　⇒問 22 へ
３．答えたくない　⇒問 22 へ

問 11-2　※19 歳以上の方で、問 11 で「１．いる」と回答した（家族の中にあなたがお世話をしている人がいた）方にお聞きします。
現在もお世話を継続していますか。（あてはまる番号１つに○）

１．現在はお世話をしていない
２．現在まで継続してお世話をしている
３．答えたくない
４．18 歳以下である

問 12　問 11 で「１．いる」と答えた方にお聞きします。お世話の状況についてお教えください。

① お世話を必要としている方（あてはまる番号すべてに○）

１．母親	３．祖母	５．きょうだい	７．答えたくない
２．父親	４．祖父	６．その他（　　）	

② お世話を必要としている方の状況やあなたが行っているお世話について教えてください。
複数人いらっしゃる場合、それぞれの方についてお答えください。

問 12①で○をつけた番号（　　）

※複数人のお世話をしている場合は、それぞれの方についてお答えください

※Webアンケートは６人まで回答可能

a）お世話を必要としている方の状況を教えてください。
（あてはまる番号すべてに○）

１．高齢（65 歳以上）	６．知的障がい	11．その他（　　）
２．幼い	７．精神疾患（疑い含む）	12．答えたくない
３．要介護（介護が必要な状態）	８．依存症（ｱﾙｺｰﾙ依存症、ｷﾞｬﾝﾌﾞﾙ依存症など）（疑い含む）	
４．認知症	９．「７．精神疾患」「８．依存症」以外の病気	
５．身体障がい	10．日本語を第一言語としない（日本語が苦手）	

b）あなたが行っているお世話の内容を教えてください。
（あてはまる番号すべてに○）

１．家事（食事の準備や掃除、洗濯）	７．見守り
２．きょうだいの世話や保育所等への送迎など	８．通訳（日本語や手話など）
３．身体的な介護（入浴やトイレのお世話）	９．金銭管理
４．外出の付き添い（買い物、散歩など）	10．服薬管理
５．通院の付き添い	11．その他（　　）
６．感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	12．答えたくない

★以降は、お世話をしている人数にかかわらず一括でお答えください。

③ お世話は誰と行っていますか（あてはまる番号すべてに○）

１．母親	４．祖父	７．自分のみ	10．答えたくない
２．父親	５．きょうだい	８．福祉サービス（ﾍﾙﾊﾟｰなど）を利用	
３．祖母	６．親戚の人	９．その他（　　）	

④ お世話はいつから行っていますか。お世話を初めた年齢をお答えください。
（はっきりとわからない場合は、だいたいの年齢でかまいません）

（　　）歳から

⑤ お世話をしている頻度を教えてください。（あてはまる番号１つに○）

１．ほぼ毎日	３．週に１～２回	５．その他（　　）
２．週に３～５回	４．１か月に数日	６．答えたくない

⑥ 平日にお世話はどれくらい行っていますか。時間数をお答えください。
（日によって異なる場合には、この１か月の中で最も長かった日の時間をお答えください）

１日（　　）時間程度

問 13-1　※中学校（義務教育学校）、全日制高校、定時制高校に通っている方にお聞きします。
お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。
（あてはまる番号すべてに○）

1．学校に行きたくても行けない
2．どうしても学校を遅刻・早退してしまう
3．宿題をする時間や勉強する時間が取れない
4．睡眠が十分に取れない
5．友人と遊ぶことができない
6．部活や習い事ができない、または辞めざるを得なかった
7．進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した
8．自分の時間が取れない
9．その他（　　）
10．特にない
11．答えたくない
12．通信制高校に通っている

問 13-2　※通信制高校に通っている方にお聞きします。お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

1．学校に行きたい日に行けない
2．学校に行く日に遅刻や早退をしてしまう
3．授業を受ける時間や課題をする時間、勉強する時間が取れない
4．睡眠が十分に取れない
5．友人と遊ぶことができない
6．当初通っていた学校を辞めた
7．部活や習い事ができない、または辞めざるを得なかった
8．進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した
9．アルバイトや仕事をすることができない
10．その他（　　）
11．特にできていないことはない
12．答えたくない
13．中学校（義務教育学校）、全日制高校、定時制高校に通っている

問 14　お世話をすることにきつさを感じていますか。（あてはまる番号すべてに○）

1．身体的にきつい
2．精神的にきつい
3．時間的余裕がない
4．特にきつさは感じていない
5．答えたくない

問 15　お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか
（あてはまる番号１つに○）

1．ある　⇒問 16 へ
2．ない　⇒問 17 へ
3．答えたくない　⇒問 19 へ

問 16　問 15 で「1．ある」と回答した方にお聞きします。
それは誰ですか。（あてはまる番号すべてに○）

1．家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）
2．親戚（おじ、おばなど）
3．友人
4．学校の先生（保健室の先生以外）
5．保健室の先生
6．スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
7．医師や看護師、その他病院の人
8．ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人
9．役所や保健センターの人
10．近所の人
11．ＳＮＳ上での知り合い
12．その他（　　）
13．答えたくない

問 17　問 15 で「2．ない」と回答した方にお聞きします。
相談していない理由を教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

1．誰かに相談するほどの悩みではない
2．家族外の人に相談するような悩みではない
3．誰に相談するのがよいかわからない
4．相談できる人が身近にいない
5．家族のことのため話しにくい
6．家族のことを知られたくない
7．家族に対して偏見を持たれたくない
8．相談しても状況が変わるとは思わない
9．その他（　　）
10．答えたくない

問 18　問 15 で「2．ない」と回答した方にお聞きします。お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。（あてはまる番号１つに○）

1．いる
2．いない
3．答えたくない

問 19　学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。
（あてはまる番号すべてに○）

1．自分のいまの状況について話を聞いてほしい
2．家族のお世話について相談にのってほしい
3．家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい
4．自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい
5．自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい
⇒具体的にどんなお世話ですか、もしくはどんな時ですか
（　　）
6．自由に使える時間がほしい
7．進路や就職など将来の相談にのってほしい
8．学校の勉強や受験勉強などの学習のサポート
9．家庭への経済的な支援
10．わからない
11．その他（　　）
12．特にない
13．答えたくない

問 20　問 19 で「1．自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「2．家族のお世話について相談にのってほしい」と答えた方にお聞きします。どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいですか。（あてはまる番号すべてに○）

1．直接会って
2．電話
3．ＳＮＳ
4．電子メール
5．その他（　　）
6．答えたくない
7．あてはまらない（問 19 で「3．～13.」を選択した）

問 21　問 19 で「1．自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「2．家族のお世話について相談にのってほしい」と答えた方にお聞きします。どのような人に話を聞いたり相談にのったりしてほしいですか。（あてはまる番号すべてに○）

1．学校の先生（保健室の先生以外）	7．同じような経験をした先輩
2．保健室の先生	8．その他（　　）
3．スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	
4．病院の人や福祉サービスの人	9．答えたくない
5．近所の人	10．あてはまらない（問 19 で「3．～13.」を選択した）
6．ＳＮＳ上で安心して相談できる人	

Ⅳ．ヤングケアラーについて

★ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことをいいます。

（ヤングケアラーのイメージ例）

©一般社団法人日本ケアラー連盟

問 22　あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。（あてはまる番号１つに○）
（19 歳以上の方は 18 歳までのあなた自身が「ヤングケアラー」に当てはまったと思うかどうかをお答えください。）

1．あてはまる	2．あてはまらない	3．わからない	4．答えたくない

問 23　「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。
（あてはまる番号１つに○）

1．聞いたことがあり、内容も知っている	3．聞いたことはない
2．聞いたことはあるが、よく知らない	4．答えたくない

問 24　問 23 で「1．聞いたことがあり、内容も知っている」「2．聞いたことはあるが、よく知らない」と答えた方にお聞きします。
「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。（あてはまる番号すべてに○）

1．テレビや新聞、ラジオ	6．学校
2．雑誌や本	7．友人・知人から聞いた
3．ＳＮＳやインターネット	8．その他（　　）
4．広報やチラシ、掲示物	9．答えたくない
5．イベントや交流会など	

以下の資料を読んで、自由記述欄を記入してください。

▼子どもが子どもでいられる街に。～ヤングケアラーを支える社会を目指して～

（※厚生労働省ホームページより抜粋）https://next-iii.co.jp/gifu/young-carer2.html

【自由（じゆう） 記述欄】ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことや、要望等なんでも自由に書いてください。

家族のお世話をすることは、とても価値のある大切なことです。ただ、お世話の負担が大きいと気持ちや体力の面で大変な思いをすることがあるかもしれません。

「調査ご協力のお願い」の裏面に相談窓口をご紹介しています。学校の先生や家族にも相談しにくいことがあればいつでもお電話してください。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

（3）学校アンケート

学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

Ⅰ．基本情報

問１　ご回答された方の役職をお教えください。（あてはまる番号１つに○）

１．校長	５．スクールソーシャルワーカー(SSW)
２．副校長・教頭	６．スクールカウンセラー（SC）
３．主幹・主任教諭（具体的に：　　）	７．その他（　　）
４．養護教諭	

問２　貴校の学校区分をお教えください。（あてはまる番号１つに○）

１．小学校	３．義務教育学校（前期課程：１～６年）
２．中学校	４．義務教育学校（後期課程：７～９年）
５．高等学校	６．特別支援学校

① 問２で「５．高等学校」と答えた方にお伺いします。
高等学校の過程をお教えください。（あてはまる番号１つに○）

１．全日制	２．定時制	３．通信制

② 問２で「５．高等学校」と答えた方にお伺いします。
高等学校の単位制の有無をお教えください。（あてはまる番号１つに○）

１．単位制あり	２．単位制なし

問３　貴校の所在地をお教えください。

１．※選択肢から回答

問４　小学校については小学５年生、中学校については中学２年生、義務教育学校については５年生及び８年生、高等学校については高校２年生の人数についてお教えください。（令和４年５月１日時点）

小学（義務教育学校）	５年生	（　　）人
中学２（義務教育学校）	８年生	（　　）人
高校２年生（全日制）		（　　）人
高校２年生（定時制）		（　　）人
高校２年生（通信制）		（　　）人

Ⅱ．支援が必要だと思われる子どもへの対応について

問５　SSW、SC の派遣・配置状況をお伺いします。

（１）　SSW の派遣・配置状況（あてはまる番号１つに○）

１．週に２～３回以上派遣・配置されている	４．要請に応じて派遣される
２．週に１回程度派遣・配置されている	５．その他（　　）
３．月に数回以下で派遣・配置されている	６．派遣・配置されていない

（２）　SC の派遣・配置状況（あてはまる番号１つに○）

１．週に２～３回以上派遣・配置されている	４．要請に応じて派遣される
２．週に１回程度派遣・配置されている	５．その他（　　）
３．月に数回以下で派遣・配置されている	６．派遣・配置されていない

問６　下記の子どもについて校内で共有しているケースはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

１．学校を休みがちである	８．保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
２．遅刻や早退が多い	９．学校に必要なものを用意してもらえない
３．保健室で過ごしていることが多い	10．部活を途中でやめてしまった
４．精神的な不安定さがある	11．修学旅行や宿泊行事等を欠席する
５．身だしなみが整っていない	12．校納金が遅れる、未払い
６．学力が低下している	13．その他（　　）
７．宿題や持ち物の忘れ物が多い	14．共有しているケースはない

問７　問６のケースについて、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。最も多いケースでお答えください。（あてはまる番号１つに○）

１．不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している　→問８へ
２．不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している　→問８へ
３．個別で対応している（決まった検討体制はない）　→問９へ

問８　問７で「１．不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「２．不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と答えた方にお伺いします。
校内ではどのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。

（１）情報共有・対応の検討の方法等（あてはまる番号すべてに○）

１．スクリーニング会議（※）	３．生徒指導部・委員会など
２．ケース会議	４．児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有
５．教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など、児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名	
６．その他（　　）	

※スクリーニング会議：すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援の必要な子どもや家庭を適切な支援につなぐための迅速な識別を行う会議

（2） 問8-(1)で「1．スクリーニング会議」「2．ケース会議」「3．生徒指導部・委員会など」、「6．その他」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。また、会議の頻度はどれくらいですか。※下記選択肢の表を参考に該当する設問にのみお答えください。

	参加者 （あてはまる番号すべてに○）	頻度 （あてはまる番号１つに○）
1．スクリーニング会議		
2．ケース会議		
3．生徒指導部・委員会など		
4．その他		

〈参加者：選択肢〉

1．校長
2．副校長・教頭
3．学年主任
4．担任教諭
5．生徒指導教諭
6．養護教諭
7．SSW
8．SC
9．外部の関係機関
（　　）
10．その他（　　）
11．該当しない

〈頻度：選択肢〉

1．２週間に１回以上
2．月に１回程度
3．半年に１回程度
4．年に１回程度
5．該当しない

問9　問7で「3．個別に対応している」と回答した方にお伺いします。
問6ケースについて、貴校ではどのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等について、具体的にお教えください。

問10　問6のケースについて、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。それぞれのケースについて、お答えください。
また、連携体制がある場合は、連携する関係機関を下記の選択肢からお選びください。

	体制（１つに○）	関係機関（あてはまる番号すべてに○）
①要保護児童対策地域協議会の登録ケース	1．ある 2．特にない	
②不登校のケース	1．ある 2．特にない	
③それ以外のケース	1．ある 2．特にない	

〈関係機関：選択肢〉

1．市区町村教育委員会
2．市区町村の福祉部門（「4.」を除く）
3．市区町村の保健部門
4．市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門
5．教育支援センター（適応指導教室）
6．フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
7．児童相談所
8．民生委員
9．病院
10．警察や刑事司法関係機関
11．その他（　　）

Ⅲ．ヤングケアラーについて

問11　貴校では「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。（あてはまる番号１つに○）

1．言葉を知らない　→問14へ
2．言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない　→問14へ
3．言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない　→問14へ
4．言葉を知っており、学校として意識して対応している　→問12へ

問12　問11で「4．言葉を知っており、学校として意識して対応している」と答えた方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。
（あてはまる番号１つに○）

1．把握している　→問13へ
2．「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない　→問14へ
3．該当する子どもはいない（これまでもいなかった）　→問14へ

問13　問12で「1．把握している」と回答した方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握していますか。（あてはまる番号すべてに○）

1．アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている
2．特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している
3．その他（　　）

《ヤングケアラーを把握していない方も含め、全員にお伺いします。》

★ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことを言います。ヤングケアラーの定義を踏まえて、以降の設問にお答えください。

（ヤングケアラーのイメージ例）

©一般社団法人日本ケアラー連盟

問 14 ヤングケアラーの定義を見て、現在、貴校にヤングケアラーと思われる（可能性も含めて）子どもはいますか。（あてはまる番号１つに〇）

１．いる　→問 15 へ　　２．いない　→問 17 へ　　３．わからない　→問 16 へ

問 15　問 14 で「１．いる」と回答した方にお伺いします。

（１）ヤングケアラーと思われる子どもの状況は下記のうちどれですか。
（あてはまる番号すべてに〇）

１．障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている
２．家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている
３．家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている
４．目を離せない家族の見守りや声掛けをしている
５．家族の通訳をしている　　６．家計を支えるために、アルバイト等をしている
７．アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している
８．病気の家族の看病をしている
９．障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている
10．障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている
11．その他（　　）

（２）ヤングケアラーと思われる子どもについて、具体的に学校以外の外部（教育委員会、役所、要保護児童対策地域協議会など）の支援につないだケースはありますか。
（あてはまる番号すべてに〇）

１．要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある
２．要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある
３．外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）

（３）問 15（２）で「１．要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」、「２．要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」と回答した方にお伺いします。
それぞれの該当する直近のケースについて、お教えください。

①要保護児童対策地域協議会に通告したケース

性別（１つに〇）	１．女性　２．男性　３．その他　４．通告したケースはない		
学年（１つに〇）	１．小学（　）年生　２．中学（　）年生　３．高校（　）年生		
学校生活の状況（すべてに〇）	１．学校を休みがちである ２．遅刻や早退が多い ３．保健室で過ごしていることが多い ４．精神的な不安定さがある ５．身だしなみが整っていない ６．学力が低下している ７．宿題や持ち物の忘れ物が多い	８．保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い ９．学校に必要なものを用意してもらえない 10．部活を途中でやめてしまった 11．修学旅行や宿泊行事等を欠席する 12．校納金が遅れる、未払い 13．その他（　　）	
家族構成（すべてに〇）	１．母親 ２．父親	３．祖母 ４．祖父	５．きょうだい ６．その他（　　）
家庭でのケアの状況（すべてに〇）	①ケアの状況を把握しているか →	１．はい	２．いいえ
	②　①で「はい」の場合、ケアの具体的な内容		
	a)ケアを必要としている人	b)ケアを必要としている人の状況	
	１．母親 ２．父親 ３．祖母 ４．祖父 ５．きょうだい ６．その他（　　）	１．高齢（65 歳以上） ２．幼い ３．要介護（介護が必要な状態） ４．認知症 ５．身体障がい	６．知的障がい ７．精神疾患（疑い含む） ８．依存症（疑い含む） ９．７，８以外の病気 10．その他（　　） 11．わからない

	c）ケアの内容	
	1．家事（食事の準備や掃除、洗濯） 2．きょうだいの世話や保育所等への送迎など 3．身体的な介護（入浴やトイレの介助） 4．外出の付き添い（買い物、散歩など） 5．通院の付き添い 6．感情面のサポート （愚痴を聞く、話し相手になるなど）	7．見守り 8．通訳（日本語や手話など） 9．金銭管理 10．薬の管理 11．その他（　　） 12．わからない
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ		
要保護児童対策地域協議会へのつなぎ方	1．市町村教育委員会経由 3．その他（　　）	2．学校から直接連絡
学校で行った支援（要対協との連携も含めて）		
支援した結果、子どもへの変化		

※問15（3）①②では義務教育学校は以下のとおり小中学校の学年に置き換えてご回答ください。
義務教育学校1～6年 → それぞれ小学1～6年
義務教育学校7年 → 中学1年
義務教育学校8年 → 中学2年
義務教育学校9年 → 中学3年

②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

性別（1つに○）	1．女性	2．男性	3．その他　4．通告したケースはない
学年（1つに○）	1．小学（　）年生	2．中学（　）年生	3．高校（　）年生
学校生活の状況（すべてに○）	1．学校を休みがちである 2．遅刻や早退が多い 3．保健室で過ごしていることが多い 4．精神的な不安定さがある 5．身だしなみが整っていない 6．学力が低下している 7．宿題や持ち物の忘れ物が多い	8．保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い 9．学校に必要なものを用意してもらえない 10．部活を途中でやめてしまった 11．修学旅行や宿泊行事等を欠席する 12．校納金が遅れる、未払い 13．その他（　　）	
家族構成（すべてに○）	1．母親 2．父親	3．祖母 4．祖父	5．きょうだい 6．その他（　　）
家庭でのケアの状況（すべてに○）	①ケアの状況を把握しているか →	1．はい	2．いいえ
	②　①で「はい」の場合、ケアの具体的な内容		
	a）ケアを必要としている人	b）ケアを必要としている人の状況	
	1．母親 2．父親 3．祖母 4．祖父 5．きょうだい 6．その他（　　）	1．高齢（65歳以上） 2．幼い 3．要介護（介護が必要な状態） 4．認知症 5．身体障がい	6．知的障がい 7．精神疾患（疑い含む） 8．依存症（疑い含む） 9．7，8以外の病気 10．その他（　　） 11．わからない
	c）ケアの内容		
	1．家事（食事の準備や掃除、洗濯） 2．きょうだいの世話や保育所等への送迎など 3．身体的な介護（入浴やトイレの介助） 4．外出の付き添い（買い物、散歩など） 5．通院の付き添い 6．感情面のサポート （愚痴を聞く、話し相手になるなど）	7．見守り 8．通訳（日本語や手話など） 9．金銭管理 10．薬の管理 11．その他（　　） 12．わからない	
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ			
要保護児童対策地域協議会へのつなぎ方	1．市町村教育委員会経由 3．その他（　　）	2．学校から直接連絡	
学校で行った支援（つなぎ先との連携も含めて）			
支援した結果、子どもへの変化			

（4）問 15-（2）で「3．外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）」と回答した方にお伺いします。外部の支援につながなかった理由を教えてください。また、どのように対応しているのかお教えください。

理由	
対応方法	

（5）ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

（6）ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

（7）問６の選択肢は、「ヤングケアラー」と思われる子どもを把握するためのチェック項目として作成したものですが、追加すべき項目や分かりにくい点や案があればご記入ください。

ご意見	
変更項目案	
追加項目案	

〈参考：問６の選択肢〉

- ☐ 学校を休みがちである
- ☐ 遅刻や早退が多い
- ☐ 保健室で過ごしていることが多い
- ☐ 精神的な不安定さがある
- ☐ 身だしなみが整っていない
- ☐ 学力が低下している
- ☐ 宿題や持ち物の忘れ物が多い
- ☐ 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
- ☐ 学校に必要なものを用意してもらえない
- ☐ 部活を途中でやめてしまった
- ☐ 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
- ☐ 校納金が遅れる、未払い

問 16　問 14 で「3．わからない」と回答した方にお伺いします。
その理由をお教えください。（あてはまる番号すべてに〇）

1．学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
2．不登校やいじめなどに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
3．家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい
4．対象となる子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
5．その他（　　）

問 17　ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。
（あてはまる番号すべてに〇）

1．子ども自身がヤングケアラーについて知ること
2．教職員がヤングケアラーについて知ること
3．学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
4．SSW や SC などの専門職の配置が充実すること
5．子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
6．ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること
7．学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
8．学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
9．ヤングケアラーを支援する NPO などの団体が増えること
10．福祉と教育の連携を進めること（具体的に：　　）
11．その他（　　）
12．特にない

問 18　ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。

以上でアンケートは終了です。

調査にご協力いただきありがとうございました。

岐阜県ヤングケアラー実態調査報告書

令和５年３月発行
岐阜県子ども・女性局子ども家庭課

〒500-8570　岐阜市薮田南２丁目１番１号
TEL：058-272-1111　　FAX：058-278-2644
E-mail c11217@pref.gifu.lg.jp
https://www.pref.gifu.lg.jp/page/244951.html

編集委託先：Next-i 株式会社　岐阜オフィス
〒503-0907　岐阜県大垣市番組町２丁目１番